

鳥羽市予算決算常任委員会会議録

第3日目

令和7年9月11日

○出席委員

委員長	木下順一	副委員長	世古雅人
委員	倉田正義	委員	五十嵐ちひろ
委員	山本欽久	委員	瀬崎伸一
委員	南川則之	委員	濱口正久
委員	坂倉広子	委員	尾崎幹
委員	世古安秀		

議長 河村孝

○欠席委員（1名）

委員 戸上健

○出席説明者

歳出

- ・大野副市長
- ・武中会計管理者、榎原課長補佐兼係長
- ・佐々木議会事務局長
- ・勢力選挙管理委員会書記長、栗原課長補佐、中村主査
- ・岡本監査委員事務局長、橋本係長
- ・岡本企画財政課長、斎藤副参事、辻川課長補佐、浜崎課長補佐、小崎係長、
中村係長、山本係長、尾寄主査
- ・村山定期船課長、西根課長補佐
- ・勢力総務課長、寺田副参事、栗原課長補佐、宮本課長補佐、永島係長、三浦係長、
永野係長、川原係長、押川係長、澤田副室長
- ・小島市民課長、野村課長補佐、横田課長補佐、大西係長
- ・北村税務課長、木田課長補佐、永野課長補佐、中村係長、勢力係長、村田係長、
野田主査
- ・山田環境課長、中井課長補佐、大田係長
- ・奥村健康福祉課長、山本副参事、田畠副参事、田畠課長補佐、吉川課長補佐、
河村課長補佐、南課長補佐、寺田室長、杉本副室長、大田副室長、中村係長、
細木係長、澤田係長、杉田主査
- ・吉川農林水産課長、榎課長補佐、上村課長補佐、榎原係長、松本係長
- ・高浪観光商工課長、松川課長補佐、中村係長
- ・岩井建設課長、鳥羽副参事、寺本課長補佐、舟橋課長補佐、立花副室長、重見副室長、

中西係長、植谷係長

- ・世古消防長、野村署長、金子室長、平井係長、斎藤室長
- ・岩本教育長
- ・山本教委総務課長、寺本課長補佐、天田係長
- ・小林学校教育課長、家田課長補佐、濱口係長、中村主査
- ・中村生涯学習課長、村田課長補佐、清水副館長、豊田係長

○職務のために出席した事務局職員

事務局長 佐々木 真紀

(午前 9時00分 再開)

○木下順一委員長 皆さん、おはようございます。

ただいまから、予算決算常任委員会を再開いたします。

本日は観光商工課の決算成果の審査から始めます。

早速ですが、担当課の説明を求めます。

観光商工課長。

○高浪観光商工課長 おはようございます。観光商工課、高浪です。

令和6年度観光商工課決算についてご説明いたします。

まず、決算に当たり、先にお渡ししております資料のご確認をお願いいたします。

資料は2種類ございます。

一つ目は、令和6年度観光振興基金繰入金対象事業内訳表でございます。

いわゆる入湯税を財源として実施した事業の一覧となります。

令和6年度においては、多様な旅行者の受入推進事業など合計8,614万5,000円を財源として活用しております。資料1の合計額は3ページ目に示してございます。

二つ目は、写真で振り返る令和6年度観光商工課の主な事業でございます。

決算成果説明書には写真等を入れておりませんので、こちらの資料と照らし合わせていただくことで、実施した事業をイメージしていただけるかと思います。

それでは、決算成果説明書は216ページからとなります。よろしくお願ひいたします。

まず総括として、鳥羽市では「稼げる地域・稼げる産業」の実現を目指して、令和4年度より地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化事業を推進してきたことにより、宿泊施設数や収容人員数は減少しているものの、令和6年中の宿泊者数は160万4,000人となり、コロナ禍前の水準まで回復いたしました。

また、施設等の高付加価値化が進んだことにより、観光客1人当たりの観光消費額は令和5年対比で増加しております。こうした収益の増加は、さらなる質の高いサービスの提供や従業員の待遇改善にもつながり、地域経済全体に好循環をもたらします。

今後も、地域が一体となって観光地の魅力と価値を高めていくよう、持続可能な観光地の実現に向けて取り組みます。

新たに実施した事業です。

地域経済の加速を止めない施策展開として、インバウンドの強化として、海女文化の独自性と魅力を最大限に生かしながら、ヨーロッパの文化発信地であるフランス市場へセールス活動を展開しました。また、シンガポールや香港といったアジアの重要市場において、鳥羽の食を中心としたアプローチを行い、香港では、伊勢、鳥羽、志摩市長らのトップセールスを実施しました。ただ、海外からの来訪者は確実に増加しているものの、外国人観光客数は全体の入り込み客数の2%程度にとどまっており、継続した展開が必要です。

多様な旅行者の受け入れとして、観光を主な目的としない来訪者への支援を継続して実施しました。将来的に

鳥羽市との継続的な関係を築く関係人口となることを目指し、大学生や国内外からの海洋研究者などを対象に、本市をさらに研究、調査のフィールドとして活用してもらえるよう支援を行いました。

創業支援・企業支援では、市内で起業したい一人一人の挑戦を支え、起業希望者が安心して第一歩を踏み出せるよう、経営のノウハウを学ぶ連続セミナーや起業希望者らの交流会を開催しました。また、創業するための補助制度を新たにスタートさせました。

第4弾鳥羽市プレミアム商品券事業では、物価高騰やエネルギー価格上昇による中小店舗等を支援し、地域経済の活性化と消費喚起を図ることを目的として、鳥羽市においては第4弾となる鳥羽市プレミアム商品券事業を実施いたしました。

ますます重要な就労支援・雇用対策では、地域のしごと魅力発信事業として、地元高校生を対象にした仕事ガイダンスや職場見学バッズツアーを実施しました。また、学生らが将来的に就労する前段階として行うインターンシップへの支援をスタートさせました。

次の展開へのキックオフ事業では、せんぐう旅博実行委員会設立・始動として、2033年、令和15年の第63回式年遷宮に向けたプロモーションや受入れ環境整備事業を進めるせんぐう旅博実行委員会が設立、始動し、伊勢志摩地域が一体となって地域の機運醸成や誘客促進の取組が始まりました。

日仏海洋学シンポジウムが鳥羽市で開催決定として、鳥羽市の自然資源や伝統的な漁業文化が国際的な場で発信されることで、地域の魅力向上や新たな交流、連携のきっかけになることが期待されます。

三重応援ポケモンのミジュマル公園整備による新たな観光スポットの誕生として、7月にミジュマル公園が整備されたことにより、新たな観光スポットが誕生し、さらなる観光振興と地域活性化に期待が高まっています。

新たな財源確保の検討がスタートとして、宿泊税の導入に向けた検討が本格的にスタートし、宿泊者の満足度向上を図り、観光インフラの整備や伊勢志摩国立公園の自然保全及び活用により、質の高い観光地づくりを進め、さらなる宿泊客誘致に向けた重要な第一歩となりました。

予算執行を伴わない事業。

観光地の防災対策として、相差旅館組合、相差民宿組合と災害時における宿泊施設等の提供に係る協定を締結しました。

観光事業者等との防災対策に関する連携については、総務課防災危機管理室の積極的な呼びかけにより実現しており、引き続き防災担当と観光事業者等との橋渡し役として共に進めてまいります。

それでは、各事業について新規拡充を中心にご説明いたします。

決算成果説明書218ページをご覧ください。

中ほどです。

目1観光総務費では、予算額8,757万2,000円、決算額8,687万6,000円となりました。

観光一般管理経費では、予算額6,879万9,000円、決算額6,814万4,000円で、令和3年度から引き続きフランス人の国際交流員1人を任用し、情報発信、海外でのセールス、海外からの各種取材対応など、幅広く活動しました。彼女は今年の7月末で任期を終えフランスに戻りましたが、フランスにおいて鳥羽レップ、鳥羽の代理店として起業し、引き続き鳥羽とフランスをつなぎ誘客事業を行うこととなっています。

一番下の一覧表をご覧ください。

鳥羽市観光統計でございます。

令和6年は観光客数415万3,000人、宿泊者数160万4,000人となっています。外国人観光客数は9万2,000人ほどであり、インバウンド誘客についてはさらなる展開が必要であると感じています。

決算成果説明書219ページから220ページをご覧ください。

下です。一番下の方です。

観光コンベンション機構で、予算額決算額とも950万円で、伊勢志摩観光コンベンション機構へ職員2人の派遣と負担金を支出し、国内外からの誘客事業、修学旅行等の学生団体誘致事業、フィルムコミッショング事業、インバウンド事業について伊勢志摩広域で取り組んでいます。

写真の資料1ページをご覧ください。

資料2番目の写真の資料1ページでございます。

フィルムコミッショング事業では、短編映画「CITIZENS～戦わないという選択」の撮影が伊勢、鳥羽地域で行われました。写真は映画のチラシと鳥羽市役所市長室での撮影の様子です。

また、インバウンド事業として、伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町が合同で香港へのトップセールスを行い、在香港日本国総領事との対談と日本への誘客最大手の旅行会社の周年記念イベントに出席し、伊勢、鳥羽、志摩への誘客をお願いしてまいりました。

決算成果説明書220ページ下段をご覧ください。

目2観光振興費では、予算額1億8,327万1,000円、決算額1億7,393万6,000円となりました。

観光振興推進事業では、予算額6,507万4,000円、決算額6,021万1,000円で、観光案内所の運営のほか、各観光関係団体との連携による観光振興に取り組みました。

決算成果説明書221ページをご覧ください。

一番上の表でございます。

上の表は、近鉄鳥羽駅構内にある鳥羽市観光案内所の利用実績となっております。

令和6年度の観光案内所の来訪者は3万557人、対応件数は4万976件、単位が人となっておりますが件数でございます。4万976件、そのうち外国人対応件数は2,251件となっており、令和5年度と比較して大幅に増加しております。

決算成果説明書222ページをご覧ください。

真ん中より少し上でございます。

国内誘客プロモーション事業で、伊勢志摩観光コンベンション機構が主体となり、令和15年に予定されている第63回式年遷宮に向け、伊勢志摩エリアの観光活性化及び誘客を図るため、伊勢志摩せんぐう旅博と称した取組がスタートしました。伊勢志摩地域の機運醸成、受入れ環境整備や誘客プロモーションに取り組み、次期遷宮までの継続した取組としていきます。

決算成果説明書は225ページをご覧ください。

鳥羽市観光駐車場対策事業で、予算額決算額とも110万4,000円で、観光繁忙期における交通渋滞緩

和や観光客の利便性向上を図るため臨時駐車場を開設しました。

写真の資料は2ページをご覧ください。

写真の資料2ページでは、市民の森、これは臨時駐車場開設時の様子でございます。市民の森横の空き地を臨時駐車場として開設し、遊覧船にてミキモト真珠島横の桟橋まで送迎を行っております。観光客の皆様にとつては、船での送迎という珍しい体験をすることができるため、混雑した中での観光にも関わらず好評を得ております。また、近年の猛暑による熱中症対策として、夏場にはミスト扇風機の設置を行っております。

ただ、課題として、渋滞時でも車の中の快適性の向上や天候によって観光客の動向が変化するため、臨時駐車場を開設時期の決定が難しくなっています。さらに、暑さ厳しい夏場では、私ども観光商工課や観光協会、観光事業者の皆さんで構成する臨時駐車場運営スタッフの負担が非常に大きくなっています。労力の省力化が必要ですが、根本的な解決には至っておりません。

決算成果説明書226ページをご覧ください。

観光施設維持管理事業で、予算額752万7,000円、決算額658万9,000円で、観光客等が利用する公衆トイレなどを快適かつ安全にご利用いただくための維持管理や近畿自然歩道などの草刈り等を行いました。

写真の資料3ページをご覧ください。

安楽島海水浴場にて津波避難訓練を実施した際の様子と、答志島九鬼嘉隆首塚、胴塚の広範囲にわたる草刈りや伐採の様子でございます。草刈りは冬場にシルバー人材センターへ委託をして実施いたしました。

決算成果説明書227ページ下段でございます。

鳥羽うみ文化推進事業で、予算額411万8,000円、決算額397万1,000円でございます。

228ページをご覧ください。

鳥羽うみ文化と公共交通を活かした拠点と賑わいづくり事業で、令和5年度に設置した海に関する書籍を集めた鳥羽うみライブラリーを活用した交流イベントの開催や、新たに鳥羽1番街、鳥羽高等学校、伊勢湾フェリー、ミキモト真珠島、鳥羽水族館の5か所を鳥羽うみライブラリーとして位置づけ、SNSやパンフレットにて発信をいたしました。

写真の資料4ページは、イベントの様子とパンフレットでございます。

決算成果説明書228ページ、下段及び写真の資料5ページをご覧ください。

海から学ぶ鳥羽ならではの自由研究の旅造成事業で、近鉄との共同で家族層を対象に離島の自然、文化、漁業を体験的に学ぶツアーを実施いたしました。

まず、鳥羽市水産研究所にて海の環境学習や体験型クイズ、海藻養殖の見学を行い、答志島での市場見学や釣りなどを行いました。日帰りツアーと宿泊ツアーを行いました。子供の頃の特別な体験というのは大人になってしまって頭の中に鮮明に残るものでありますので、鳥羽で学ぶ旅を通して将来的な鳥羽ファン、リピーターという関係人口につなげていきたいと思います。

決算成果説明書229ページ、上段をご覧ください。

写真の資料は6ページでございます。

芸術を生かした観光振興事業で、アーティストと共にを行うワークショップや油絵の展示会の開催のほか、石

鏡町内会と大阪府立育野高等学校写真部が連携した海女文化を題材とした写真展を石鏡町で開催しました。生野高校の生徒らが石鏡町に入り、地元の人との交流を通じて海女さんたちの日常を写した写真展となり、地元はもちろん町外から訪れる方にも大変好評であり、今年度に入ってからも場所を変えて展示を行っております。

同じく229ページの下段。

多様な旅行者の受入推進事業で、予算額4,005万1,000円で決算額3,799万円で、インバウンド誘致、クルーズ船誘致受入れ、バリアフリー観光推進、大学ゼミ合宿、広告宣伝戦略強化、航空会社との連携した受入れ環境強化など、多角的な取組を通して国内外からの観光客誘致に努めました。

写真の資料7ページをご覧ください。

7ページの写真は、毎年恒例となっております繁忙期の鳥羽駅ボランティアガイドの様子でございます。また、右側の写真は、バリアフリー改修事業補助金を活用した改修事例となっております。

決算成果説明書230ページ、写真の資料は8ページでございます。

鳥羽市インバウンド対策事業では、鳥羽商工会議所へ委託をし、外国人観光客受入れ強化のため、ウェブサイト等の運営や、市内事業者が外国人観光客を受け入れるための助言や英語メニュー作成支援等を行いました。そのほか、旅行会社やメディアを受け入れたファムトリップの対応を行いました。

資料8ページの写真は、フランス料理人の市内視察対応やドイツメディア取材の対応を行っている様子でございます。

次に、海外情報発信事業で、鳥羽市観光協会への委託をし、フランスとシンガポールでのセールスを行いました。

写真の資料は9ページをご覧ください。

写真のほうの資料ですが、こちらはフランスの旅行会社セールスを行っている様子でございます。決算成果説明書の231ページの一番上にセールス先旅行会社名を掲載しております。

写真の右下は、クレアパリという日本の自治体とフランスをつなぐ役割を担っている組織を訪問し、意見交換をした際の写真になります。

写真の資料10ページをご覧ください。

こちらは、同じくフランスにおいて海女文化のセミナーを開催している様子になります。

右側一番上の写真、エッフェル塔が写っている写真の右側の建物がパリ日本文化会館という日本文化を紹介する施設になっております。ここで現役海女の話を聞くセミナーや海女文化に関する商品の展示及び販売を行いました。海女のセミナーは有料としたにもかかわらず大変好評で、セミナー終了後にも参加者からの質問が飛び交っておりました。

写真の資料11ページをご覧ください。

こちらはシンガポールセールスの様子でございます。

JNTO日本政府観光局シンガポールとクレアシンガポールを訪問した際の様子と、シンガポールで開催された旅行博に出展した様子になります。

この旅行博では、日本からは都道府県単位での出店が多い中、鳥羽市は市単位で市単体でブース出店を行いました。鳥羽市の認知度はまだまだ低く、鳥羽の食を中心に継続した発信を行う必要があります。

決算成果説明書231ページ、一番下、下段でございます。

JALビジネスキャリアサポート参加型研修事業で、JALの客室乗務員経験者を講師として市内観光施設の若手従業員を対象とした人材育成研修を開催しました。

写真の資料は12ページをご覧ください。

12ページの写真が研修の様子でございます。研修内容はもちろんですが、様々な観光施設の従業員の皆様が集まり研修を受けることで、ふだんは関わりのない従業員同士の交流の場となり、離職率低下にも一定の効果があると感じております。

決算成果説明書232ページをご覧ください。

一番上でございます。

多言語発信サイト地域情報制作業務で、こちらはANAのほうですが、ANAへ委託し、ANA公式サイトであるジャパントラベルプランナーに鳥羽市のモデルルートを掲載し、11言語での情報発信を行いました。

写真の資料は13ページをご覧ください。

少し見にくいですが、こちらはそのサイトの内容となっております。

鳥羽マリンターミナルからミキモト真珠島、鳥羽水族館、城山公園、海の博物館、海女小屋、石神さん等をお勧めルートとして掲載をしました。

次に、決算成果説明書、真ん中辺りです。

鳥羽港クルーズ船誘致受入協議会で、鳥羽港に寄港する大型クルーズ船受入れと下船客の周遊促進に取り組みました。令和6年度は外国船4隻、邦船、日本の船3隻、合計7隻が寄港しました。

写真の資料は14ページをご覧ください。

大型クルーズ船が寄港する際は2,000人を超える外国人観光客が一度に下船されますので、効率的に周遊ができるよう、市内主要な観光スポットや買物や飲食が楽しめる場所を掲載した写真の看板設置とチラシの配布を行いました。左側の看板の右上には、その日の観光情報を掲載するようにしております。

また、南鳥羽や離島地区に関しては別でパンフレットを配布するなど、下船客の希望に応じた案内ができるよう取り組みました。今年度は27隻、令和8年度は39隻のクルーズ船が寄港する予定でございますので、体制強化や工夫がさらに必要となってまいります。

決算成果説明書は233ページをご覧ください。

中段、真ん中辺りになります。

大学ゼミ合宿支援事業及び地域課題解決調査研究事業で、大学生や研究者等を対象に地域研究等に対して補助を行いました。令和6年度の延べ補助申請件数は21件でございました。

写真の資料16ページをご覧ください。

これまで調査研究により改善策や事業提案のあった内容は、鳥羽市ホームページにて掲載をしております。令和6年度は、左側記載のとおり13件の研究調査が行われております。右側下のQRコードから入っていただきますと、これまで提案いただいた内容を見ることができます。

また、この補助制度を活用して鳥羽を学びの場所として選んでいただくことが多くなり、遠方の学生だと補助申請における紙、郵送でのやり取りには時間や労力を要していたため、私どもの担当職員が補助申請のデジ

タル化の仕組みを構築いたしました。令和7年度からは補助申請のデジタル化を導入し、学生の皆さんにとても私ども担当職員にとっても労力の省力化が実現しました。

決算成果説明書234ページをご覧ください。

漁業と観光の連携事業で、予算額477万5,000円、決算額420万3,000円で、鳥羽市の基幹産業である漁業と観光の連携による地域活性化を図る取組を行いました。鳥羽さかなブランド化事業やアワビ支援増大を図るための中間育成など、継続事業に加え、鳥羽市海のレッドデータブックの内容を海洋研究開発機構JAMSTECが運用するデータベースシステムに公開することができました。

写真の資料は17ページをご覧ください。

これはレッドデータブックのデータベース化を発表したときの写真になります。

下段の写真は、沖縄で開催された生物多様性に関する国際会議において、レッドデータブックに関する発表をした際の様子になります。

海の生物のモニタリングを調査し続けることで、海の変化に対応し、持続可能な漁業を推進していく重要性を報告いたしました。

写真の資料18ページをご覧ください。

こちらの写真は、予算を伴わない事業でご説明いたしました観光地の防災対策として、相差旅館組合及び相差民宿組合と災害時における宿泊施設等の提供にかかる協定の締結式の様子でございます。

以上が観光振興事業でございます。

続きまして、決算成果説明書237ページをご覧ください。

商工部門のご説明をさせていただきます。

目1商工総務費では、予算額2,176万8,000円、決算額2,165万3,000円となりました。

決算成果説明書238ページをご覧ください。

真ん中あたりでございます。

目2商工振興費で、予算額1億870万6,000円、決算額1億617万3,000円となりました。

決算成果説明書239ページ、下段をご覧ください。

地域資源活用促進事業で、予算額216万8,000円、決算額187万7,000円となりました。

鳥羽市の地域資源を活用した新商品開発やプラッシュアップ、販路拡大に資する事業に対し、市内製造業者等を支援いたしました。

決算成果説明書242ページをご覧ください。

地域のしごと魅力発信事業で、予算額628万1,000円、決算額581万2,000円となりました。

本市での就労促進を図るため、企業見学バスツアーや鳥羽高校生を対象にした職場見学ツアー、同じく鳥羽高校生を対象とした鳥羽しごとガイダンス等を実施し、市内事業者への就労を意識する機会づくりを行いました。そのほか、市無料職業紹介所の運営による就労相談や学生のインターンシップへの支援をスタートさせました。令和6年度は68人の学生がインターンシップ補助制度を活用し、市内事業者での就労体験を行いました。また、離職を防ぐことを目的としたセミナーを開催しました。

写真の資料は19ページをご覧ください。

セミナーの様子となっております。このセミナーは市内事業所の経営者、管理者向け、従業員向けに分けて実施をし、セミナー後には交流会を開催するなど知識の習得に加え、ほかの事業所との交流による情報交換の場となりました。

決算成果説明書243ページ、下段をご覧ください。

企業育成支援事業で、予算額209万4,000円、決算額197万2,000円で、起業意欲のある方や起業して間もない方を対象として専門家による起業家育成連続セミナーを開催しました。経営や財務、人材育成、販路開拓等、起業に必要な知識の習得のためのセミナーとなりました。

写真の資料は20ページをご覧ください。

セミナーの様子でございます。起業する方が参加しやすいように夜間にセミナーを開催しております。また、参加者同士が交流することでネットワークづくりや新たなビジネスチャンスを生み出すきっかけづくりとなりました。そのほかにも創業に係る経費の一部を補助する制度をスタートさせ、審査会を経て3件が採択され創業となりました。

決算成果説明書244ページをご覧ください。

プレミアム付商品券事業で、予算額7,402万2,000円、決算額7,401万8,000円で、物価高騰の影響を受けた生活者や事業者を支援することを目的に、物価高騰重点支援地方創生臨時交付金を活用し、鳥羽市では第4弾となるプレミアム付商品券事業を実施しました。対象者である鳥羽市に住民票がある1万6,385人のうち1万4,995人の購入があり、市内経済循環の一助となりました。

以上、観光商工課の説明を終わります。どうぞよろしくお願ひいたします。

○木下順一委員長 観光課ならではの目と耳による説明でしたけれども、説明は終わりました。

ページを区切れます。

216ページの総括から220ページ上段、観光コンベンション機構までの範囲でご質疑はございませんか。
山本委員。

○山本欽久委員 最初の総括のところでちょっとお聞きします。

インバウンドの強化というところで、まだまだ入れ込みの2%でとどまつるというところで継続した展開ということなんすけれども、課としてこの継続した展開、観光の仕事の人らからの要望みたいなのもあると思いますけれども、課としてこう展開というのは、もうちょっと具体的に言うとどういう感じになりますでしょう。ちょっと教えてもらえますか。

○木下順一委員長 観光商工課長。

○高浪觀光商工課長 現在行っているセールス活動の継続、それから国際交流員が今年度は2人目が今8月から就任して働いておりますので、国際交流員の強化ですね。国際交流員が実施する事業の強化に加え、観光協会さんであるとか施設連合会さんであるとかといった観光関係団体の方々も、インバウンドを非常に強化しておりますので、そこの皆様と一緒にセールス活動に行くなど、一体となってやっていきたいという意味でございます。

○木下順一委員長 山本委員。

○山本欽久委員 ありがとうございます。

予算的にもなかなかぐっと突っ込めるような、その先の未来のほうの投資ということを考えると、もっと予算をぐっと突っ込みたいところではあるかなというふうに思うんですけれども、なかなかその辺が難しいかなというところは、もっと突っ込んでほしいなという気もいたしますがぜひ、今現在でも鳥羽らしさを前面に出した広報活動みたいなものもやっていただいているんで、しっかり今後もお金もついてくるといいなというふうに思います。これからも頑張っていただきたいと思います。

以上です。

○木下順一委員長 他にございませんか。

濱口委員。

○濱口正久委員 関連してくるかも分からんんですが、218ページの下の一般管理経費のところで、JETプログラムで国際交流員の方が入っておられました。今年7月で退任されて替わったと思うんですけれども、これは3年やったかな。

(「4年」の声あり)

○濱口正久委員 4年以上、長きにおったと思うんですけども、昨年度も最後のところにかかるて、これを入れたことでどういうところに新たな効果が出たとかというのはあったでしょうか、効果。

○木下順一委員長 観光商工課長。

○高浪観光商工課長 国際交流員1人目の方、4年頑張っていただきました。観光という視点だけではなく、海に関する研究者であるとか、海に関する興味のある方のフランスとのつながりをつくっていただきました。ですので、この11月、今年の11月ですが、日仏の海洋学シンポジウムが鳥羽で開催することにつながったということは大きな成果であると思います。シンポジウム自体は100人弱の小さなシンポジウムではありますけれども、海洋の研究者たちが日本に集まる、鳥羽に集まるということでこれからの期待が持てます。

以上です。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 ありがとうございます。

先ほど、今後フランスのほうで何か鳥羽レップでしょうか、そういうような鳥羽に観光客を呼んでくるようなことをしてくれるような感じの話につながっていたと思うんです。これだけ職員として頑張っていただいて、その後もつながりを続けというのは、これは非常に大きな効果やと思うんです。今後は、外からそういうふうに鳥羽に対してアプローチしてくれる方が増えてくるということはすごくいいことだと思います。また引き続き今新しく入っておられた方もいると思うので、この辺のところは今までのフランスに残られている方を含めてしっかりと連携していくてほしいなと思います。今後も活用していただきたいと思います。

以上です。

○木下順一委員長 関連ございますか。

五十嵐委員。

○五十嵐ちひろ委員 関連じゃないです。

○木下順一委員長 関連じゃない。関連はございますか、今のところ。

なければ、五十嵐委員どうぞ。

○五十嵐ちひろ委員 ありがとうございます。総括のところで特に書いてあったわけじゃないんですけれども、全体的にすごく様々な事業をやっていらっしゃって、普通に見とっても土日とかも仕事をしてくださる方がすごく多いと思うんですけれども、人員的に非常に足りないという感じがするのか、それとも今のところこれでうまくやっていますという感じなのか、ちょっとそこを聞かせてください。

○木下順一委員長 観光商工課長。

○高浪観光商工課長 人員的に申しますと、恐らく市全体で人員が足りていないんではないかなという感想は思っております。観光商工課でいきますと、やはりおっしゃっていただいたように土日、あと夜間であるとかそういうといったところの仕事も多くなっております。ただ、それはしっかりと時間外手当をつけて有給休暇も取ってというふうにやっておりますので、そのあたりは働き方次第ではあるかと思いますが、先ほどからお話がありますようにインバウンドの強化ということをこれから優先してやっていくということになりますと、やはりそれができる職員、専門的に置きたいなという気持ちはございます。ただし全体のバランスもありますので、あまりわがままは言えないとは思っておりますけれども、しっかりと経済活動をやっていくためには必要だなという感じでございます。

以上です。

○木下順一委員長 五十嵐委員。

○五十嵐ちひろ委員 ありがとうございます。

本当におっしゃるとおりほかの課でも人手が足りてないのは同じだなというところで、ただ、やっぱり観光に力を入れていく必要があるということと、インバウンドをやっていきたいという方針を持っているというところで、やっぱりフランス人の国際交流員の方もいらっしゃるけれども、観光課の職員で海外のことを詳しい方だとか、プロモーションに行ったときに難なく英語でやり取りできる方とかがいたほうがより効果的なのかなというふうに感じます。

以上です。

(「関連して」の声あり)

○木下順一委員長 倉田委員。

○倉田正義委員 お願いします。今五十嵐委員から質問があったのですが、今回初めて成果説明書を見せていただきて観光商工課の事業というのが膨大だなど、他の課に比べてもさらに多い状況を感じました。また、新たな事業が増加しとるという中で、これまで取り組んできた事業の中で精査や縮小ができるものがあるのかどうか、その辺の見通しあるなんでしょうか。

○木下順一委員長 観光商工課長。

○高浪観光商工課長 ありがとうございます。

事業を精査、縮小できるものに関しては、私はそれが一番のポイントだと思っております。事業に関しては時代に応じて改善をしていく必要がありますので、いろんな課題を自分の中でも私どもの中でも見つけて、それをどうするか決めていくことが必要だと思っております。今決算で令和6年度の中で幾つかの事業は今年度は廃止しております。二つの事業を廃止しております。それは重要な事業ではあるんですが、直接的に観光誘

客、大きな観光誘客につながらないと判断した事業を二つやめております。

あと、学生の調査研究の補助金制度に関して郵送でのやり取りを何回もやる必要があったんですが、それをQRコードですね、デジタルの中でやれるように私ども職員が改善をしまして、それを今年度からやっておりますので非常に手間は省けております。修正とかをするのに紙で来ますと、また紙で返して、修正してまた紙で送っていただくという作業が今まで必要になっておりましたので、その時間を省いております。細かなことではございますけれども、そういった工夫、改善をしながらこの体制でやっていけるように頑張りたいと思っております。

以上です。

○木下順一委員長 倉田委員。

○倉田正義委員 ありがとうございます。

強いお言葉をいただきてさすがやなと思っています。関係機関とかいろいろ関わるところも多数あるのかなと、市職員だけではやり切れないところ、外へ発注したりそういったことも必要なのかなと思うんですが、そのあたりはいかがでしょうか。

○木下順一委員長 観光商工課長。

○高浪観光商工課長 私ども、鳥羽市観光協会さん、それから旅館組合さん、会議所さん、施設連合さんといった観光に関する組織の方々、非常にしっかりした体制でやっていただいているとして、そちらに助けてほしいときはヘルプもお願いしますし、そちらの事業がこちらで私ども行政で必要であればやっておりますので、そういった連携をしながら、観光商工課の人数はこれではございますけれども、みんなでやっている、そんな感じでございます。

ただ、考え方に関して言いますと、私は効率化していきたいなというところはありますが、やはり観光の皆様、おもてなし精神が非常に大きいですので、やはり自分たちで全てやってしまいたいというところも聞いておりますので、そのあたりは意見をさらに意見交換しながらいいところを見いだしていきたいという感じはしております。

以上です。

○木下順一委員長 倉田委員。

○倉田正義委員 最後です。

ありがとうございます。

主体的にやっていきたいというお話ですが、そうなるとやっぱり人員の不足というのが一番大きなところの課題かなと思います。観光課への手厚い人事配置についてはやっぱり考えていかなあかんのかなというふうに思うんですが、副市長、その辺のあたりについてはどのようにお考えでしょうか。最後にお願いします。

○木下順一委員長 副市長。

○大野副市長 職員の配置に当たりまして、まず観光商工課についてはいろんな仕事を多々やっていただいている。職員の配置につきましては、やはり市全体のちょっと配置も見ながら、当然業務内容であるとかを見ながら全体の最適な配置を考えていかないかなと思っております。

その中で課長も言っていただきましたけれども、観光商工課だけではなくて、それぞれの課がやはり業務改

善であるとか少しでも業務を改善して、例えば先ほどQRコードという言葉も出ましたけれども、DXとかも取り入れるなどして、少しでも業務改善を図りながら職員の配置については最適化をしていきたいと考えております。

以上でございます。

○木下順一委員長 倉田委員。

○倉田正義委員 ありがとうございます。

他の課との連携とかそういったことでも解決することがあるのかなと思います。エールを送りますので頑張ってください。

以上です。

○木下順一委員長 他にございませんか。

(「総括のところでいいですか」の声あり)

○木下順一委員長 はい、総括のところで関連で。

南川委員。

○南川則之委員 217ページに三重応援ポケモンのことを記載いただいております。今までポケモンさんといろいろやり取りしていただいてやっていたいといったことで、今回新たにポケふたの設置とかがスタートされて、あと定期船のラッピングとかということで、それと同時にミジュマル公園も県がやってくれるというところで、このポケモンとのやっぱり関わりというのは私重要やないかなと、今後の展開をするにも重要な個人的には思うんですけども、課としてこの関わりの大切さをどう考えているのかとか、あと、今後どのように展開していくかという考えがあれば教えてください。

○木下順一委員長 観光商工課長。

○高浪観光商工課長 ありがとうございます。

これまでもう何年目になりますか、ポケモンさんとの関わりでここまで来れることができました。現在はミジュマル公園というのをテーマといいますか、スタンプラリーとかそういったことを三重県さんもやっていただいております。そういう市だけではなくて県全体でやっていくことに加えて、これからじゃ今後どうしていくかというところですが、関わりは持っておりますけれども、次の展開はまだ今のところ模索中というところでございます。

以上です。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 ありがとうございます。

佐田浜のいろんな構図というか、いろいろ今の市長も考えておられると思いますので、言葉は悪いんですけども、利用できるものはしっかりと利用しながら鳥羽を世界的に認めてもらえるような鳥羽にしていただきたいと思いますので、ぜひポケモンさんの力も借りながら対応していただくようによろしくお願いします。

以上です。

○木下順一委員長 総括、関連ありますか。

(「はい」の声あり)

○木下順一委員長 総括のところですか。

(「はい」の声あり)

○木下順一委員長 五十嵐委員。

○五十嵐ちひろ委員 予算執行を伴わない事業で、災害時における宿泊施設等の提供に係る協定を結ばれたということなんですが、これって単純に宿泊施設の提供のみで、そこに防災備蓄品を置いておくとかそういうものではないということですね。

○木下順一委員長 協定の内容等まで分かれば。

観光商工課長。

○高浪観光商工課長 ありがとうございます。

この協定の内容ですが、宿泊施設への宿泊、入浴及び食事の提供、その他、避難者の名簿管理であるとか、連絡とか情報、物資管理の窓口となる連絡責任者の設置というところになりますので、完全に避難をするという形になっておりますので、物資といいますか、そういった物資管理、食料も含めて運ばれてきたときの管理もしていただくというような内容になっております。

以上です。

○木下順一委員長 五十嵐委員。

○五十嵐ちひろ委員 今のお話を聞いていると、避難してきた人に関してもう本当に旅館とか民宿のほうで面倒見てもらうというような形になると思うんですけども、やっぱり市のほうでも、あらかじめ何か防災備蓄品用意をしとくとか、すみません、これは観光課に言うことじゃないのかかもしれないんですけども、そういう要望も恐らくあると思うんですね。ここまでできるけれども、ここから無理とかというところが恐らくあるんじゃないかなと思うので、ちょっとそこら辺の総務課とのやり取りの間を上手に取り持っていたりだと思います。

以上です。

○木下順一委員長 関連ございますか。

なければ、世古安秀……

(「総括以外」の声あり)

○木下順一委員長 以外で、はい。

世古安秀委員。

(「すみません、委員長。総括になっちゃう、ごめんなさい」の声あり)

○木下順一委員長 では、先に坂倉委員。

○坂倉広子委員 217ページ、地元高校生を対象とした仕事ガイダンス、職場見学ツアーを実施していただいております。これは長年にわたってやっている地元鳥羽高校生のところで、鳥羽高校生の生徒の皆さんがあそこの文化会館、サブアリーナで広く発表会をしていただいたりとか、そういう中で就職につながったというのも、以前決算成果があったと思うんですけども、こういうふうなんで効果というのは、令和6年度はどのような効果があったでしょうか。

○木下順一委員長 松川課長補佐。

○松川課長補佐 観光商工課の松川です。よろしくお願ひいたします。

ご質問いただいた内容なんですかけれども、令和6年度に鳥羽高さんから22名の方が就職ということを聞いておりまして、その中で3名の方が鳥羽の企業に就職されたということを聞いております。

以上です。

○木下順一委員長 坂倉委員。

○坂倉広子委員 ありがとうございます。

3名の方が就職につながったということはすごい成果だと思いますので、今後もよろしくお願ひいたします。

○木下順一委員長 よろしいですか。

(「いいよ」の声あり)

○木下順一委員長 それでは、総括以外で。

世古安秀委員。

○世古安秀委員 218ページの下のほうの観光管理一般経費の中で、鳥羽市の観光統計が出ております。6年度は観光客415万3,000人、うち外国人が9万2,000人ということで、先ほど総括の中でも話が出ておりましたけれども、今後は観光、外国人のインバウンドにも力を入れたいということなんですかけれども、今後、遷宮が2033年に行われますので、それに向けて市長も500万人にしたいという目標を掲げておりますし、私は、もちろん外国人も大事です。けれども、日本人のリピーターというのが今後やっぱり大きな課題になってくるんでは、キャパがやっぱり違いますので。今年は大阪の万博で非常に鳥羽へ来る人が少ないという声も聞いておりますけれども、やっぱりリピーター客を引っ張ってくるという、そういう対策というのが今後重要になってくるんかなと思いますけれども、その辺についてはどういうふうに考えられておりますか。

○木下順一委員長 観光商工課長。

○高浪観光商工課長 ありがとうございます。

世古委員のおっしゃるとおりでございます。416万のお客さんのはほとんどは日本のお客さんでございます。今、私どもインバウンドの強化というふうに申しておりますけれども、これは令和に入ってから強化をしてきましたのでそこは強調して言いますが、やはり一番大事なのは日本人の観光客のお客様、国内誘客をどうしてくるかでございます。次の遷宮がチャンスでございますので、せんぐう旅博実行委員会が立ち上がったところです。昨年立ち上がりまして、そこから遷宮が終わるまでずっとこれは続きますので、そこで機運の醸成であるとか誘客のキャンペーンをやったりとかということを進めていきますので、そこは一番大事にしたいところです。ですので、リピーターはもちろんそうですけれども、国内誘客の事業、もちろん一番力を入れていきます。

以上です。

○木下順一委員長 世古安秀委員。

○世古安秀委員 リピーターをまたさらに力を入れていただきたいと思いますけれども、それを力を入れる方法ですけれども、何を鳥羽の魅力としていくかとということなんですかけれども、私はやっぱり食になると思うんですよ。やっぱり鳥羽に行ったらおいしいアワビ、サザエ、いろんな海藻とか、食事がおいしいものが食べられるということは、人間の食欲の中の欲の中の一つ大きな部分ですので、その辺をどう考えていくかということ

とが大事になってくるんじやないかなと、トロさわらとかいろんなブランド化してやっていますけれども、もっと食に鳥羽の食材にスポットを当てたものに対してやっぱり力を入れていくべきではないかなというふうに、景観とか、鳥羽は景観もよろしいですよ、景観は1回見たらそのときで済んでしまいますけれども、食はやっぱり……

○木下順一委員長 世古安秀委員、発言中ですが、決算ですので決算成果についてお願ひします。

○世古安秀委員 食を強化していただきたいというふうに思いますので。今回は決算ですので今後についてはまた検討していただきたいと思います。

以上です。

○木下順一委員長 他にございませんか。

尾崎委員。

○尾崎 幹委員 219ページ、コンベンション。

前年度も950万、令和5年ね、6年も950万。ほいで、6年は新たな5年計画でプラン。寄り集めの団体ですからハードの部分を九つに示しあうけれども、これ今までやつとった中身ですよね、ほつといても。ほいで問題は、このハードを示した中で各市町村がソフトをやっていかないかんという流れの考え方でいいの。

○木下順一委員長 観光商工課長。

○高浪観光商工課長 コンベンション機構ですが、プランを示しております。ハード整備はやりません。ですので、伊勢志摩広域でもコンベンション機構でもソフト事業のみになります。それを伊勢、鳥羽、志摩、南伊勢が中心ですけれども、一緒になってやっていくという形でございます。

以上です。

○木下順一委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 それで、今まで950万使って同じようなことをやってきて、やっぱり成果、どこまでどうなったというのが僕らには一切出てきてないんですよね。いろいろな取組をやってもうて、コーディネートをやってもうとんはよく分かります。ただ、それがどこまでどうなったって。一つ海外プロモーションしましたと、何遍も令和5年度でも市長行っていますよね。それで、コーディネートしながらやった結果がこの令和6年度の新しい5か年計画のプランになりましたというぐらいの流れは、やっぱり僕らは知るべきじゃないかと。終わりにじやなしにやっていかないかんことばかりなんですよ。

僕に言わせたら、これ950万円、うち負担金やけれども、負担金の中で950万円、何ができるのやと、9億5,000万円でも何もできへんと、外国まで行こうと思うと。先ほどフランス人の話もあったけれども、やっぱり帰っていただいたら年間3,000万ぐらい渡して、事務所と経費を渡して鳥羽の職員として置くんやったら帰ってもうてありがたいなと思うけれども、やっぱりそこら辺まで踏み込んだことを、山本委員も言われたけれども、評価の中で踏み込むような流れが令和5年と令和6年度では見えていない。ただ売っていますよとかパンフレット作りましたよ、公表しましたよ、行ってきましたよという、これでは何の役にも立っていないというんが、もうコンベンションができるからずっと見させてもらうけれども、ただ中抜き業者じゃないかなというぐらいの気持ちで僕おりますから、やっぱり成果を出すと、成果がよければ本来950万円が9,500万円に上がってもおかしくないんです。減っていくこと自体は一番いかんことですよね、上げ

ていかないかんという。

○木下順一委員長 尾崎委員、これは観光コンベンション機構への人件費。

○尾崎 幹委員 人件費の話じやなしに、この九つのやっぱりハードを示したわけやで、それをしっかりと中身をやっていってもらわなかんか。それで次につながっていくわけですよね、この後ろの進行事業に対して。そこまで言いたいんやけれども、これはこれで終わらないかんわけでしょう。これずっと続いとるんですよ、流れは。言うていってええかいな。

○木下順一委員長 どうぞ。質問、簡素にまとめてください。

○尾崎 幹委員 ほやで、この流れが鳥羽市としてこれは正しいもんか、どう思われていますか。

○木下順一委員長 観光商工課長。

○高浪観光商工課長 厳しいお言葉、すみません。正しかかどうかと言われますと、伊勢志摩広域で観光振興をやっていくのは非常に重要ですので、これは必要だと思っております。

言われたようにやはり成果があつてこそでございます。負担金を出している限りは成果があつてこそでございますので、しっかりと連携しながら、これは何が課題であるとか、誘客数が例えば鳥羽市でここまでにとどまっているのはどうしてかといったことも話をしっかりととしていきたいと思います。今もインバウンドをコンベンションでもやっているんですが、どういう成果があるんだとか、行っているだけでは駄目だとかという、今言われたような同じことを私どももコンベンションに言っておりますので、そのあたりはこれからもしっかりとやつていきたいと思います。

○木下順一委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 それと、うちの950万円の負担金がありますよね。今回のプランの9項目、見とう限りコンベンション自体が、国、県に対して補助金を取つると思うんですね。簡単に言うたら伊勢志摩デジタル推進事業、これはデジタル庁の補助金が絶対出とると思うんです。そういう中身をしっかりと僕らに、そしたらトータルでコンベンションのお金がどう使われるとかはやっぱり出すべきやと思うんですね。それで足りんのやったら鳥羽市はもっと負担金増やしましょうとなってくると思うんです。結果と内容があまりにも、機構やでええという話じやなしに、機構やでしっかりととしてほしいという中身を示してください、今後。よろしくお願いしたいと思います。

もう一点いいの。

○木下順一委員長 ちょっと待ってくださいね。コンベンションのところで関連ございますか。

(「なし」の声あり)

○木下順一委員長 ないようでしたら、尾崎委員続けてください。

○尾崎 幹委員 いいですか、推進のほういきます。

○木下順一委員長 220ページ上段、コンベンションまでです。ここまでご質疑ございませんか。

(発言する者なし)

○木下順一委員長 ご質疑もないようですので、続いて220ページ中段、観光振興推進事業か226ページ上段、鳥羽観光駐車場対策事業までの範囲でご質疑はございませんか。

尾崎委員。

○尾崎 幹委員 続きになってくると思うんやけれども、まず前年度が7,200万円の予算を組んだったわけですね、今年は6,000万円。1,200万円のやっぱり削減というのは、観光振興の推進を低下させたわけですよね。上げやないかん、上げやないかんと言うのに予算も使わんようになってしまふ。これは要因は何ですか。

○木下順一委員長 観光商工課長。

○高浪観光商工課長 すみません、7,200万円というのはどこの数字でございますか。

○尾崎 幹委員 前年度の予算です。

○高浪観光商工課長 前年度の予算、そうですね。

○尾崎 幹委員 1,200万円も減つとんやで、事業をやめとうということやんか。何が要因なんか、1,200万円の削減が。頑張るぞ、頑張るぞと言うてきたわけですよね。どんどんしたいです、したいです。この削減の要因は何なんですか。

○木下順一委員長 観光商工課長。

○高浪観光商工課長 ありがとうございます。

これという事業と申し上げられないんですが、予算書だったか成果説明書の初めだったか、21ページに観光商工課の状況ということで、アフターコロナを見据えた誘客事業、周遊促進事業が終了したことによるということを書かせていただいているので、コロナ禍でいろいろ誘客事業をやってまいりましたが、それが終了したことが大きな要因かなというふうには考えております。

以上です。

○木下順一委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 何で終了するんですか、コロナ終わってからといって。結果が出たもんですか、そこですよ、一番考えてもらわなきゃのはそこです。コロナのときやで頑張ってやりましょうと、みんなが一つに団体、いろいろな形で方向が一緒になったもんでどんどん行ったと思うんです。コロナ禍が終わればやってきたことをやめるということ自体が、そこで計画を一つ壊しとるわけですやんか。観光って、僕らがいろいろな視察に行っていろいろ学んできた中で、未長く長く持続することが観光の一番大事なところやと思っています。それをコロナ禍が終わったからそういう集客事業をやめましょうとか、誰が言うとんの、それ。しっかりとやってもらう、何遍も言うけれども、負担金も一緒、これも一緒。1,200万円減らして観光客が増えるわけじゃないでしょう。本来なら10倍ぐらい出してくれと言うてるんが本来ですやん、コロナ禍も終わったから。いい事例があんたらもよく知つると思う、そういう考えはなかつたん。

○木下順一委員長 観光商工課長。

○高浪観光商工課長 令和2年コロナが始まって、2、3、4、5あたりで、コロナに関する交付金を活用しましてプラスアルファで事業を実施してきましたので、それが交付金、終了というわけではないですが、それが終わったという意味で、令和元年コロナ前に戻ったというイメージだというふうに感じておりますが。

○木下順一委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 課長、前、令和元年に数字が戻ってきてますよね。それで満足しとんの、違うでしょう、やってきたことは、そこを考えてください。全体的にもうちょっと格上げするとか予算を増やして、どの部分を

すればお客様が増えるか、外国人の先ほども言うたけれども、フランス人が帰りました、帰って鳥羽の宣伝してくれる、ありがたいことですよね。ほやけれども、もう一つワンステップ上がるならば、3億円ぐらい渡して事務所を置いて、高山みたいに50億円使ってあれですよ、まだ使うとんですよ、どんどん何億も。そのような先進事例があればそれをまねしていいたらええんさ。僕はそう思っていますので、やることはやっとんですよ。ただ、やらないかんことはやっていないという見方にしか見えませんので、今後そういう改善、令和8年度予算に対してはしっかりと、7年度も変わってへんと思うよってよろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

○木下順一委員長 ご質疑もあるうかと思いますが、1時間過ぎましたのでここで暫時休憩いたします。

(午前10時05分 休憩)

(午前10時11分 再開)

○木下順一委員長 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

傍聴人の方が入られましたので、議事中は静粛にお願いしたいと思います。また、特段の事情がない限り、トイレ等は休憩時間中に行っていただきますよう、ご協力のほどをよろしくお願ひいたします。

それと、委員の皆さんにお願いします。

発言の折は举手をしていただき、指名されてからお願ひいたします。また、発言中は私語は慎んでいただきますようによろしくお願ひいたします。

それでは、質疑を再開いたします。

220ページ中段から226ページ上段、鳥羽市観光駐車場対策事業まで、先ほどの続きです。

ご質疑のある方。

瀬崎委員。

○瀬崎伸一委員 観光振興推進事業についてお問い合わせをしますが、たくさんあるんで、一番最後の方になっちゃつて225ページの上のところになるんですが。佐田浜駐車場観光対策支援事業532万9,000円の決算ということで、不用額の一覧の方に書いていただいている額がちょうど予算が1,000万円だったと思うんで、500万円ということで486万3,000円ぐらい不用額を計上していただいている。その多分リンクするところはここかなと読んだんですけども、1,000万円せっかく用意していたお金が500万円程度、半分ぐらいで収まってしまったというのは、若干利用が少なかったということなんやろうなと思うんですけれども、何かその原因というか、そういうのは分析されていますか。

○木下順一委員長 中村係長。

○中村係長 観光係の中村です。よろしくお願ひします。

要因の分析というわけではないんですけども、もともとこの佐田浜駐車場観光対策支援事業補助金に関しては、佐田浜駐車場に車を止めて離島に宿泊するお客様であったりとか、大型観光バスを駐車場に入れる、それを促進するための補助金という形で開発公社のほうに出している補助金になっております。

ぶっちゃけその差額というのが予算額と実績で大きく離れてしまったんですけども、それは正直、最初の見込みというんですかというのが、もっともっとたくさん多くの車、お客様が来ると見込んでいたものの、

実際そこにはたどり着かなかつたというのが正直なところです。とはいへ、昨年度に比べて離島への宿泊の駐車台数というのは増加はしておりますので、ますます離島への宿泊のお客さんが増えるための取組というのは進めたいと思っております。

以上です。

○木下順一委員長 濱崎委員。

○瀬崎伸一委員 そうなんですよね。前年度と比べると増えているんやけれども、やっぱりコロナというものがあって、その前のところを見ていくのの限界が令和元年なんだろうなと思うんですけれども、そのベースには至っていない。予算額というのは、多分ある程度のところは元年のあたりを見越した上で予算額を置かれることかなとは思うんです。そこについて異論はないんです。減らせという意味ではなくてですね。

せっかく用意されているこういったいわゆる補助、何というかお得感だと思うんで。ちょっとPRが若干足らなかつたのかなというところが思うところとして、本当に必要としとる人のところにその情報が届いていたのかなというのをといった意識を持っていただいて、来年度以降、もっと届けなあかんというつもりでやっていっていただくという、もちろん姿勢は持たれるとと思うんで、ぜひそちら辺をちょっと留意しながら、少しでも大型バスに来ていただいて離島へ渡っていただくとかというのは、すごくアピールにもつながっていくかなとも思うので、ツーリズムは終わったとはいへ、鳥羽はやっぱり観光バスがたくさん来るところですので、ぜひ頑張っていただきたいなというエールの意味で聞かせていただきました。よろしくお願いします。

○木下順一委員長 他にございませんか。

(「ほかで」の声あり)

○木下順一委員長 はい、ほかで。226ページ下段まで。

濱口委員。

○濱口正久委員 すみません。225ページの下の下段なんですけれども、鳥羽市の観光駐車場対策事業でそれとも、コロナが明けて市内交通渋滞がどんどん増えてきているような現状です、観光客が増えると、ありがたい話と同時に生活道路も確保していかないかんというところがあつて、この駐車場確保の問題というのはすごく大事やと思うんです。

ここにも書かれていますけれども、事前の開設時期の決定が難しくなっている中で、今のところ会議、昨年度の決算の中で、この対策事業についてどういうようなさらに話があつて、何か対策とか改善点とかって出てきましたでしょうか。

○木下順一委員長 観光商工課長。

○高浪観光商工課長 繁忙期、特に夏場の臨時駐車場の開設です。ゴールデンウイークはゴールデンウイークと休みがしっかり決まっていますのでやりやすいんですが、お盆というのは平日も含めてしましますので、どこで開催するかというのは非常に難しいところになってきます。あと天気ににも影響されます。

改善策というのは、前々からやはり人的な負担が大きいということです。ただ、根本的に駅周辺に繁忙期には駐車場が足りないという根本的な課題があります。それは解決はもちろんしておりませんし、これからどうするのかというのはここにも書きましたが、駅周辺の再整備事業と合わせていくしかないのだろうなと思っています。ですので、それが根本的なことが解決するまでは、人的な労力による対処療法をしばらく続けていく

しかないというところでございます。

ただ、私の説明にもさせていただいたんですが、特に夏場はでスタッフもこの猛暑で非常に大変な状況でございます。ですので、ベストですね、ああいうベストを買ったりとか、あと観光客の方にはミスト、扇風機を設置したりとかということで対応はしておりますが、そんなことだけで対応をこれからしていくのかというのは非常に難しいんではないかなというふうに思っております。根性だけでやつていける事業ではないと思っていますので改善策というのは必要です。難しいです。そうですね、本当に難しいです。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 ここに駐車場不足とか書いてあります。課長もスタッフが不足しているということをここで公表するぐらいということは、非常に大変なことやと思うんです、置かれている状況が。観光客を増やせ増やせこちらが言うて、増えれば増えるほどこの問題ってどんどん出てくると思うんです。人が少ない中で対応していくっていうのは非常に難しい。さらに、駅前を開発していこうと思うと、根本的に足りない今の現状をさらにまた、そこを全庁を挙げて取り組んでいかないと非常に難しい問題やと思うんです。

スタッフ不足について、何とか今後のことも含めてぜひ一度副市長にお尋ねしますけれども、全庁挙げてしっかりとこれを検討していただく時期に来ていると思いますけれども、いかがでしょうか。

○木下順一委員長 副市長。

○大野副市長 スタッフ不足についてはやはり課題だとは思っております。スタッフ自体を市職員だけでやっていくのか、もしくは関連団体にも協力はしてもらっていますけれども、協力をさらに求めていくのか、もしくは外というか外注という方法もあるかもしれませんけれども、そこはちょっとまたこれからいろいろ課題等もあると思いますので検討させていただきたいなとは思っております。

以上でございます。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 ありがとうございます。

うちでは当然無理ですし、外というか関連団体も繁忙期は忙しい時期ですので、そこも人手不足で、人口が減っている中で人手不足が出てくる中でありますので、外注は当然そうやと思うんです。案内も含めて最近SNSも使いながらミジュマルのところでもそうですけれども、ここにこういう駐車場がありますよ、ここからアクセスはこうですよという案内もしっかりと周知していただきながら取り組んでいただきたいと思います。大変なことやと思いますけれども、よろしくお願ひします。

○木下順一委員長 関連ございませんか。

(発言する者なし)

○木下順一委員長 ご質疑もないようですので、続いて226ページ下段、観光施設維持管理事業から237ページ、宿泊（観光）産業活性化事業までの範囲でご質疑はございませんか。

尾崎委員。

○尾崎 幹委員 まず展望台維持管理。これは委託しとのに委託業者からいろいろなやっぱり取組の提案とかはないですか、6年度。鳥羽展望台、テラスを作りましたよね。そういう要望が毎年ないのか。

○木下順一委員長 観光商工課長。

○高浪観光商工課長 展望台でそこにテラスがあつて運営していただいています。要望といひますと、大体施設維持、施設管理の要望でございまして、事業の運営ですね。カフェがあります、飲食がありますので、その点に関しては運営事業者さんが独自でやつていらっしゃいます。ただPRに関しては私どもが発信することもございます。そういうところです。

以上です。

○木下順一委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 やっぱり展望台というとそこら中に、一番はびわ湖テラスですよね。あれは4,000円要るんですよ。僕も4回行つんやけれども、いつも満タン、すごいですよね。琵琶湖は見えへんでも上がっていくんですよ。ほいで美浜、美浜も2回行つんですよ。あれはロープウェイと違って1人乗りでの上がりにくんやけれども、あそこはすばらしくて五木ひろしの音楽がずっと流れとんです。というたら鳥羽一郎の音楽を流すとか、やっぱりもうちょっと付加価値のあるものに変えていく作業をこの維持管理の業者さんが言わんだとしても。

これはいつできたと思ひますか、展望台、パールロードを引いたときですよ。それで、今から20年ぐらい前に三重県から移管されたわけですよね、水道の関係から。鳥羽市がもうちょっと手を入れやな。そういう形を今後検討していってください。もうこれは決算やで言ひませんけれども、そうせな何のためにあれを管理しとんかが分からへん。やっぱりそれなりの観光地づくりをしう一つの要素のある部分ですからもっと強化していただいて、お客様が並ぶような、あそこの駐車場がいっぱいになるような、ふだんでも、そういう取組が絶対必要です。観光の景観を見る場所ではやっぱりベストです。そやで、そこら辺をしっかりとやっていくください。

以上です。

○木下順一委員長 他にございませんか、関連も含めて。

(「関連で」の声あり)

○木下順一委員長 関連ございますか。

(「ないです」の声あり)

○木下順一委員長 ないです。別なところ。

(「関連です」の声あり)

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 すみません、展望台の維持管理業務で。

これは、今展望台のところというのは、あの辺のところで広い場所が唯一あるところやと思うんです。災害等々何か地震があればあの辺のところに入ってくるかと思うんです。一時的にも観光客も含めて広場のところに。現在、来たときに今僕が大事やなと思っているのは、そういう場所に来たときに通信手段というのはきちんと確保されているのかどうかというのがお聞きしたいんですけども、今現在の通信手段ってどんな感じんなでしょうか。Wi-Fi環境とかは全然大丈夫なんでしょうか。

○木下順一委員長 観光商工課長。

○高浪観光商工課長 Wi-Fiといひますか、そういうものは整備を市としてしているわけではなかったか

なと思います。市として整備している5か所があるんですが、全てこの駅周辺に偏っております。確かに言われますように、災害時にはあそこはもちろん高台でございますしトイレがございますので、一時的に避難する場所としてはいいのかもしれませんので、ちょっとそのあたり災害的な観点も踏まえて今後の検討課題かなと今思いましたので、ありがとうございます。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 その辺のところ、観光客が来るところ、たくさん来るところでもありますので、しっかりと検討していただきたいなと思います。

以上です。

○木下順一委員長 関連ありますか。

(「そこのところで関連」の声あり)

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 観光施設維持管理事業の中の最後のところに書いてある近畿自然歩道維持管理等ということで、神島、菅島、答志島、青峯ということで、この近畿自然歩道という県の管轄になると思うんですけれども、指定はですね。その中でパトロール等を含めていろんな伐採等を含めてやっていただいているということで、県の65万3,000円というのを活用してもらつたと思うんですけれども、当初予算のときなどのとき、山本議員からもちょっと話があったと思うんですけれども、なかなか県の予算だけでは実際やつるところの対応ができないんと違うかという話を聞いていただいたということで、私も設計の中身を見ても大変なボリュームがあって大変やと思いますので、もっと三重県と協議をしていただいて予算を獲得するとか、あるいは市費をさらにつき込んででもこの近畿自然歩道をま守っていくんやという、維持管理していくんやという姿勢が大事やと思いますけれども、担当課としてどのように決算を見て考えているか教えてください。

○木下順一委員長 観光商工課長。

○高浪観光商工課長 ありがとうございます。

ここに書かせていただいた委託料65万3,000円は市としての委託料ですので、県から頂いているのは37万2,000円です。全く少ないです。副市長がいるんで言いにくいですけれども、三重県さんにはその都度その都度、全くこれではできないということでお話はさせていただいておりますが、三重県さんの事情もありますのでこういった状況になっております。

近畿自然歩道に関しましては、やはり気候変動といいますか、暑さで草の伸びるのも早いですし、大きな樹木が育ち過ぎていて確かに景色、景観が悪くなっていますので、市としては近畿自然歩道こういった業務、それから草刈り業務というのは強化をしていきたいというところでございます。ですので、この数年はどんどん予算的には上げている状況でございます。

以上です。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 決算を見てもこういう実施ということで、課長が説明いただいたように大変な状況になつたということも理解しますのでね。ぜひ予算も増やしながら、近畿自然歩道を延長が長いのでしっかりと管理いただけるようよろしくお願いします。

○木下順一委員長 関連でございますか。

(発言する者なし)

○木下順一委員長 なければ。

(「別で」の声あり)

○木下順一委員長 別で。

先、倉田委員、

○倉田正義委員 お願いします。

ちょっとページ戻ります。226でよろしいでしょうか。

○木下順一委員長 どうぞ。

○倉田正義委員 観光施設維持管理事業。最初に公衆トイレのことを書いていただいておるのですが、私も時々利用、見させていただく中で毎朝のように清掃されとる方がおるということで、観光地としてはトイレというものは観光地の鏡でもあると、そういういった状況、きれいな環境が整うということはすごく大切なことかなと思っております。

一つ気になるのは、これまでずっと改修がされてきたのかなとは思うのですが、やっぱり洋式トイレの不足を感じています。このあたりは観光課としてどのように考えておられるのか、これまでどのような改修があったのか、このあたりがあつたら教えてください。

○木下順一委員長 観光商工課長。

○高浪観光商工課長 観光地としてはトイレがきれいなことというのは絶対大事でございます。今現在、私どもが所管しているトイレの洋式か和式かという数がちょっと思い出せないですが、古くなったトイレに関しては、それと利用が少ないなと言われるトイレに関しては、撤去をしたりとかしてきております。ですので、当初、平成の時代に持っていたトイレよりは二つ少なくなっています。それは利用が少ない、和式である、修繕にお金がかかるというような理由でございます。ですので、今あるトイレ維持に関してはしっかりとしていくたいと思っています。確かに今和式を使われる方は非常に少ないので、今後トイレが必要になってくるようなときが来ましたら、当然そのニーズに合わせて維持管理していくものと考えております。

以上です。

○木下順一委員長 倉田委員。

○倉田正義委員 ありがとうございます。

今後改善されるということでお話で、ある程度、よろしくお願いします。

この夏も安楽島海岸、利用される方がみえて、男子トイレ、和式しかなくて小さな子供が使えなかつたというような状況も聞いておりますので、夏のスポット、観光スポットのところ、一部ですのでまた対応をよろしくお願いしたいと思います。

以上です。

○木下順一委員長 こここの部分で関連ございますか。

(「トイレ」の声あり)

○木下順一委員長 いやいや、観光施設維持事業。

なければ、別な事業でお願いいたします。237まで。

尾崎委員、ページ数を言うください。

○尾崎 幹委員 227、うみ文化。力を入れていますよね。何で下がっていくのかな、予算が下がっていくということは、やっぱり事業自体が縮小もしくは、うちちはこれがメインですよね、その要因は何。

○高浪観光商工課長 観光商工課長。

○高浪観光商工課長 鳥羽は海とは切り離せないと思っております。ここで上げさせていただいた事業、鳥羽うみ文化と公共交通を活かした拠点づくり、それと海から学ぶ自由研究の造成事業ですが、この上のはう、写真の資料でいきますと4ページと5ページに当たります。

写真の資料4ページですと、鳥羽うみライブラリーというのを設置しております。昨年度は鳥羽うみライブラリーを5か所増やしまして10か所になりました。このあたりは活用していただくということなんですが、こここの事業は大きな観光誘客事業につながっていないということで、今年度は予算をなしにしております。ただ、それを運営していく、いかないのかというと、そうではなく、設置したものを活用していくという形になっております。

その次の写真の資料5ページ、これは海から学ぶ自由研究の旅造成事業でございましたが、こちらは非常に誘客数にもなっておりますので、しかも体験事業ですのでリピーターであるとか、じゃ、次の大きくなったらまた来ようかとかそういうことにつながっていきますので、こちらは近鉄さんと共にやっていく事業になります。少し事業の内容を取捨選択してやっていくことで、予算の増減もあるということでございます。

○木下順一委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 やってみていかんだという話ですよね、今のは。んで新たなものをやっぱり考えてやっていくんと、この中で伸ばさないかん部分って僕はあると思うんですね。やっぱりこれが評価されていなかつても来年評価されるような、その流れはやっぱりつくっていくのはおたくらやわね、しっかりとせな。

そやで、予算を減らすことは縮小と僕は見るって。その縮小が観光の肝になつとるところばかり委託料はどんどん増えとるわけです。それは上がってくよね。振興費1億円あるんよ、これ2億円に変えてもいいんさ。しっかりとそこを精査してもうて、やっぱり来度予算には反映できるような、ここまで評価して減らしたわけやで。それを何でかいうて、今言われたようにやっぱり問題点がいっぱい出たわけですね、その改善したらえだけやで。上げやな、こんなもん増えへんよ。子供らに対してはいろいろな事業は、これはええ事業なさ。特に鳥羽の子らがこういう事業を全員が受け取つたら、本当に何というんですか、鳥羽のための道徳が身に入るようにしていかな。悪いことじゃない、どんどんして。ほいで、やっぱり言い訳するよりは、次の予算でしっかりと結果を変えたるというような意気込みを持ってもらわな。よろしくお願ひします。

以上です。

○木下順一委員長 他にございませんか。

(「同じ関連でいいですか、関連で」の声あり)

○木下順一委員長 関連で。

山本委員。

○山本欽久委員 ありがとうございます。

ちょっと一緒にいるところになるんですけども、近鉄さんのあれ、海から学ぶ鳥羽ならではの自由研究、これは大変好評やったということで現地の人らからも聞いていますし、よかったですということも声も聞いています。

さっきの話じゃないですけれども、よかったですものに対してはじゃんじゃん伸ばしてもらっていいと思うんですね、次の年も含めて。もちろん近鉄さんにも支援は行くと思うんですけども、おる人の在所の中のことしつかりお金を使っていただいて、できることは伸ばしていただきたいと思います。これはもう要望としておきますので。

以上です。

(「ちょっと1点だけ、追加して言わせて」の声あり)

○木下順一委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 すみません。

○木下順一委員長 簡素に願います。

○尾崎 幹委員 はい、簡素。ストリートフォトプロジェクト、海女さんを題材にしてフォトプロジェクトなんかしとるの鳥羽ぐらいなんですよ、世界大会して。それがやっぱり鳥羽の文化の発信になっていくんやで。石鏡の議員さんには大変苦労をかけとると思います。そやけど、これは僕から見るとすごい宝のように見えてしもうて、これは1校じゃだけじゃなしに東海と関西だけで集めたら面白いもんになるよ。優勝賞金1億円出したらな、学校へ。

以上です。

○木下順一委員長 237ページまでで、他ございませんか。

濱口委員。

○濱口正久委員 今鳥羽うみ文化で話してきた内容が出てくるかと思うんですけども、多様な旅行者の受入推進事業、229ページ。

今までこうピンポイントでやってきたことが多様なところで受け入れるということ、受け入れのほうです。受け入れる側の推進事業として今までの話とは別で増額になっております。予算がかなり増額になっております。こここのところを力入れてきたということでちょっと話を聞きたいなと思うんですけども、海外にまず最初に、これはたくさんあるので順番に聞いていくといろいろ関連が出てくるかと思うんですけども、海外へ情報発信に行かれました。フランス及びシンガポール。行ったときいろんな動きがあったと思うんですけども、長期的なプランとしてインバウンドを誘客するというところと今回の目的があったと思うんです。今回行ったときにどういうことを主軸に置いたというのがあったと思うんですけども、実際行ったとき状況であったりとか今後につなげる関係性であったり、もう少しちょっと詳しく話をさせていただけますでしょうか。

○木下順一委員長 中村係長。

○中村係長 ありがとうございます。中村です。

海外情報発信において、昨年度はフランスと新たにシンガポールもターゲットにして、現地のほうに出張プロモーションをしに行きました。まず、私フランスのほうに、実際私が現地の方に行かせてもらってプロモーションをしてきたわけなんですけれども、大きな目的としては、コロナが明けて改めて、先ほど尾崎委員も言

われた世界に誇る海女文化の発信というところで、主に関係機関であったり旅行会社へのセールスというのと、あとは、一般のフランス現地の方向けの情報発信、海女さんのセミナーというのを行いました。実際に石鏡の海女さんと答志島の海女さん、2人の現役海女さんに一緒に来てもらってセールス活動を行ったというものになります。

やはりまずそのセールス活動に関しては、日本を旅行商品として取り扱っている会社さんを狙って行かせてもらったんですが、やはりフランス現地のお客さんというのは、日本文化に対する、日本への関心というのがすごく高い人たちがたくさんいて、日本旅行を心待ちにしているとか、2回目の3回目の日本旅行を楽しみにしているというたちがたくさんいる。ただ、日本に来てどこに行くかというと、やっぱりいわゆる東京から富士山とか箱根、そして京都、大阪に抜けるゴールデンルートが主なんですが、今のトレンドとしては、ゴールデンルートは大体いろんなフランス人が行っているということもあって、そこでは味わえないちょっとローカルな日本の魅力というのをフランスの方たちは求めている。じゃ、それは何なのかというのをやはり旅行会社さんとしては知りたい。そういうところに日本の鳥羽、三重県の鳥羽というのはこういうところだよというのを売り込んできました。

なので、そういう売り込ませてもらった旅行会社さんとはつながりができましたので、これからじっくりその関係性というのをより強いもの、深いものにしていくってどんどん広げていきたいなと思っているというのがまず一つ目のセールスに関してです。

もう一つ目が海女のセミナーというのをやらせてもらいまして、これはパリの日本文化会館という、パリにある日本文化を伝えるための施設というのがあるんですけども、そこに毎年11月1か月ぐらいの期間で「伝統と先端と」というタイトルで、日本文化を伝えるため企画展というのを毎年開かれています。10年以上前からやられている企画展、そちらに鳥羽市は初めてエントリーをしました。

実際海女さんが日本から来て、海女ってどんなことをしているのか、海女って何なのかというのを海女さん自らの声でしゃべらせてもらいますというセミナーをやったところ、今までにないぐらいのお客さんがそこには集まって、セミナーの予定していた時間もそれを大幅に超えて、施設がもう閉まっちゃう時間まで集まったお客様、本物の海女に会えるんだったらというところで、もう質問攻めに会うぐらい、皆さんはもう目をきらきらさせて日本の海女さんとの交流というのを深めてもらいました。

それほどまでに日本文化、特に日本文化の中でもかなりもう昔からつながっている、伝統的なサステナブルな海女文化というのは、関心が高いものなのかなというのを改めて実感しましたので、それを基にこれからどんどんその海女文化というのを磨きをかけて世界に発信していくたいなと感じたところでございます。すみません、長くなりました。

以上です。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 ありがとうございます。よく分かる説明でした。

最初に行ったときはコロナも挟みましたけれども、こういう文化、海女文化をPRしていくというところ、まず知ってもらうということがあったと思うんです。そこから今回ニーズ調査の中で、こういうようなストーリー性のある海女さんの話を聞きたいというところが需要があるんじゃないかというところで踏み込んでやつ

ていただいた。同時に、セールス先のところに旅行会社をピンポイントで押させて、いよいよ受け入れるというところをやつていただいた。すごくありがたいなと思います。

海外での今やっているところというのは、世界でこれぐらいですね、徐々に有名になってくるんだと思うんです。フランスというのは、恐らくターゲットの中でヨーロッパでフランスではやったものは世界で、ヨーロッパではやるというぐらいの取り上げられるということを目指してやつてたと思うんです。それで、どんどんこれからもそういうところがつながつていって有名になれば、世界で有名なものが日本に、もちろん日本の方にもまた注目、再注目されるということがありますので、誘客につながるんじゃないかなと思いますので。しっかりとこの辺のところ、次は結果として客に泊まつてもらって、泊まるだけではなくてお金をちゃんと使っていただくような売り込み、恐らくシンガポールでの食の話というのは出てこなかつたですけれども、恐らくプロモーションのところというのはそういうところを狙つていたんじゃないかなと思いますけれども、その辺のところはどうでしょうか。

○木下順一委員長 中村係長。

○中村係長 すみません、シンガポールの話が漏れていきました。

昨年度は、フランスに加えてシンガポールのほうにもプロモーションをかけに行きました。フランスと比べると、やっぱりちょっと国民性が違いますので、そのプロモーションの仕方というか鳥羽の売り込み方というの、そこは変化をつけて行かせてもらったというところになります。

シンガポールに関しては、やはり日本との距離が近いので日本のことによく知っている、日本に何度か来たことがあるというお客様といふか、國の人たちというのが多くあるのと、あとは、文化への関心といふよりかは食に対する関心がやっぱりすごく高いということもあって、それこそこれは先ほど世古議員言われた食を大々的にPRするような形で行かせてもらいました。行かせてもらったのは、シンガポールで年に2回やっている最大級の旅行博というところに鳥羽市のブースを出店させてもらって、日本旅行するなら鳥羽、鳥羽ならこういう海の幸ありますよということをPRさせてもらって、非常にお客様には関心の高さがうかがえたところです。

とはいひ、日本のことたくさん知っているというお客様は多いんですけども、やっぱり鳥羽ってどこなのという質問もたくさんあってですね。その部分に関しては、実は名古屋から2時間ぐらいで、名古屋、大阪から電車1本で来れるよということを伝えすると、あ、そうなんだ、知らなかつた、それなら簡単に行けるよねということを気づいてもらつたというのがありましたので、行かせてもらったその感触を大事にして、これまた今年度もプロモーションに行く予定なので、それをもっとブラッシュアップするような形でこれからもまたプロモーションをかけていきたいなと思っています。

以上です。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 ありがとうございます。

食のところをきちんとストーリーを立ててやるというところ、フランスの場合は、どうやってアワビがどういうふうな人たちがどういうふうに取ってきたかというのをすごいストーリー性を大事にする。素潜りで資源を大事にしながら取つてくるというようなストーリーがあるというところがあつたと思うんです。それで、今

回シンガポールに行ったときは、おいしいものを食べたいというところと、あと交通の便利だというところで
きちっとPRしてきたと思うんです。

結果的に経済のところでお金を落としてもらわなければ意味がないので、それをどういった形で落としてい
ただくというところは、食のところであったりとか泊まっていたらとかというところも含めてしっかりとつ
ないでいたいたと思うんですけれども、それと関連しているのか、インバウンド推進事業の次のページなん
ですけれども、ファムトリップのサポートをしたということで受注者が24社、実績が63件とありますけれ
ども、これって何かこういうところにもつながってくるのかちょっと教えていただけますか。

○木下順一委員長 中村係長。

○中村係長 ありがとうございます。

232ページのインバウンド推進事業というのが、伊勢志摩観光コンベンションが行うインバウンドの事業
に対する市からの負担金の部分でございまして、商談会であったりとか、ファムトリップというのは基本的に
はコンベンションのほうが調整して実施したというものになります。なので、これに関してはフランスとかシ
ンガポール以外の国の方もたくさん呼んできているんですけども、国に応じたファムトリップのツアーの行
程というのをコンベンションのほうで組んでもらって、それがスムーズにいくような形で地元の鳥羽市サイド
のほうも、地元の観光施設さんとかそういったところの調整をさせてもらったという内容になります。

以上です。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 この辺の部分、鳥羽だけというのは世界の中でピンポイント過ぎるというところがあると思う
んです。伊勢志摩というところの知名度も含めて、食の部分で鳥羽のほうに来ていただくということも含めて、
このファムトリップも含めてです。伊勢志摩コンベンションのところ等と連携しながらしっかりと鳥羽の部分
の強みをアピール、今後もしていってほしいなと思います。

こここの部分は以上です。

ここはたくさんあるので、違うところにまた。

○木下順一委員長 ちょっとお待ちください。ここまでであるから。

まず五十嵐委員。

○五十嵐ちひろ委員 先ほどの関連で、海外にPRをしに行っていただいて、それで、実際に鳥羽に来てくださ
っている方もこれからさらにどんどん増えていくであろうという中で、商工会議所に委託している事業の中に
旅行商品の造成事業とありますね。それで、旅行商品をつくっていただいているのも知っているんですけど
も、既に事業者がこんだけあるという中で、幾ら旅行商品、魅力的なものをたくさんつくっていっても、最終
的に受け入れられるキャパというのは変わっていない状態だと思うんですね。今は来ていないところに來ても
らうの時点なのでそれでいいんですけども、今後本当に増えてきたときにもうこれ以上受け入れられないと
いう状態がもう目の前に見えているかなと、私自身、ツアーを受入れする会社で働いている中ですごくそれを
感じているんです。

なので、ちょっと今後の話になりますけれども、例えば受入れ事業者を増やしていく取組というのはこの
6年度でもされたのかというのと、今後していくのかというのを聞きたいです。

○木下順一委員長 観光商工課長。

○高浪観光商工課長 今言われたところが一番大事です。誘客して鳥羽に来てください、来てくださいだけでは駄目ですので、受入れ体制をどう充実させていくかというのが大事です。鳥羽市、会議所に委託している部分はその受入れ体制を充実させる部分、観光協会に委託している部分は外へ発信する部分と分けてやっております。

ですので、会議所さんへ委託している鳥羽市インバウンド対策事業で、外国人のスタッフもおりますので、メニューをつくったりとか、受け入れるためにどうしていくかというノウハウを教えてもらっています。それプラス、伊勢志摩観光コンベンション機構のインバウンド事業の中でガイド育成というのに力を入れております。ガイドをしていただける方が増えることで体験型のインバウンドの受入れが強化されますので、そこには期待をしていかなければいけないと思います。当然私どもも一緒にやっていきますので、ガイド育成に関してはやっていくんですが、やはり受入れ体制というのは非常に難しいところでございまして、観光施設に一気にお客様が入るという誘客事業であれば簡単なんですが、やはりヨーロッパの方々が求める体験というものはそれをやっていただける人が少ないので、そこは充実をさせていきたいところです。今ある事業者さんがどんどん少なくなってしまいかないということも大事ですし、ガイドを増やしていくことも並列して頑張ってやっていきます。

以上です。

○木下順一委員長 五十嵐委員。

○五十嵐ちひろ委員 ちなみに観光コンベンションでやってもらっているガイド育成の内容についても、ちょっと教えてもらってもいいでしょうか。

○木下順一委員長 観光商工課長。

○高浪観光商工課長 ちょっと詳細までは、ここで語れるまでは把握しておりませんので。ただ、もちろん外国語でガイド、案内ができる、プラス伊勢志摩のことをよく知るということが大事です。英語をしゃべれるだけでガイドになれるかというとなれませんので、当然、伊勢志摩、鳥羽のことを知っていること、そういう研修をやっていると聞いております。

以上です。

○木下順一委員長 五十嵐委員。

○五十嵐ちひろ委員 観光コンベンションのガイド育成って、どうでしょう、既にガイドをやっている事業者に向けての案内が主かなと思っていて、やはり新規参入できる人を増やしていく仕組みを何かつくっていただきたいなと思います。

以上です。

(「関連で」の声あり)

○木下順一委員長 関連で。

南川委員。

○南川則之委員 多様な旅行者の受入推進事業ということで、関連で232ページに鳥羽港クルーズ船の受入協議会の負担ということで、こういった協議会が活動してしっかりとクルーズ船の誘致につながつるというこ

とで、表にも実績を書いていただいて、令和6年度6,466人の下船者数になったということで、これまで少し一般質問させてもらったんですけれども、この人数で市内観光消費額はどれぐらいになったかというのを実績で教えてください。

○木下順一委員長 観光商工課長。

○高浪観光商工課長 すみません、一般質問されたのに今すぐに出でこなくて申し訳なかったです。

6,466人に対して、市内の消費額5,787万円ということで消費額が出ております。

以上です。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 ありがとうございます。

いろいろ算定の根拠等も質問で聞かさせてもらったんですけれども、課長言われたように5,787万円ということで、市内でこれだけの消費があるということで、さらに7年度、8年度もクルーズ船の寄港数もどんどん増えていって市内で落とすお金も増えてくるということで、大切なのは、市内の大型ショッピングセンターまでの循環バスとかいろんなことに対応できるような施策、方法が大事やと思うんですけども、課長、今まで体制強化とか工夫もしていかないかんということなんだけれども、一つ私感じたところは、先ほど説明があった看板の設置とかそんなところでインフォメーションに案内しとるということで、看板も担当課で職員が考えていろいろ工夫してつくっておられるといふいいことやと思うんですけども、そういったことも含めて、市内の案内の中で、城山でも何もないのに外国人が寄つていただいて、こんな景色やなど見ていただくのも一つやし、小さな飲食店で食事をして帰つてもらうとか、あとお土産を買っていただくとかですね。そういうことが消費額につながつとるということで、最初のほうにおもてなし歓迎事業というのも掲載していただいていますけれども、さらなるこういう対策というのを強化していかないかんと思うんですけども、この数字を見てどのようにお考えなのかちょっとお聞きいたします。

○木下順一委員長 観光商工課長。

○高浪観光商工課長 ありがとうございます。

年々増えていきますし、今年は27隻、来年度は40隻近くとなります。せっかく労力を使うわけですのでお金を落としていただくというのは非常に重要ですので、周遊促進をさらに進めていきたいということと、やはり小さな飲食店であるとかお土産を少し買ってもらうだけでも日本に来た旅の思い出になりますので、そういうところはお勧めをインフォメーションしていくとかですね。細かなことですけれども、それが大きな経済効果につながると思いますので、そのあたりしっかり工夫をしたいと思います。

ただ、やはり体制に関しては工夫をしていかないと、今の現状ではなかなか対応し切れませんので、そのあたりは継続して検討だなというふうに思っております。

以上です。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 ありがとうございます。

市内を回つても、いろいろそういうクルーズ船のことについて期待をしとるお店屋さんとか土産物屋さんとか、いろいろ真珠製品でもそんなんですけれども、本当に期待をされとつて、少しでもこういう鳥羽を選んで

いただいて消費していただくということを考えてほしいなということの要望もたくさんありますので、ぜひ頑張ってやっていただきたいなと思います。

以上です。

○木下順一委員長 関連ございますか。

(「1点だけ」の声あり)

○木下順一委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 クルーズ船が入ってくるのはやっぱり7時前なんです、毎回。早く降りとうところは7時半に降りています。やっぱり何も空いていないんですよ。外人さんが結構歩いとるんやけれども、行くところもなしに歩いとる、閉まつとる。一番に改善したらんといかんのがそこら辺かなと、絶対7時前には入ってきますからね。それで5時ぐらいに出ていくので、10時間滞在時間が大体、名古屋だと12時間になっとるんですね。ほんでそこらを加味した中でやっぱり観光のルートに、今南川さんが言われたんは、すごく観光客で来て店が開いていないというんはあまりにもひど過ぎる。誘致するならばそこまでしっかりとやってください。

以上です。

○木下順一委員長 関連ありますか。なければほかのところで。

濱口委員。

○濱口正久委員 231ページの下、多様な受入の推進事業の中のところなんですかとも、JALのビジネスキャリアサポート参加型研修事業、これをやっていただきました。目的の中に、鳥羽で働く人たちが減っていく、人手不足でなかなか大変だという、稼働率も上げたくても上がらない、受け入れたくても受け入れられないというような状況があつて、その中で離職率を下げるという大きなテーマがあつたと思うんです。今回やつていただいて、観光施設関係者60名と36名という方々が受けいただきましたけれども、実際このときの内容とか感じというのはどんなことを見受けられましたでしょうか。

○木下順一委員長 観光商工課長。

○高浪観光商工課長 JALビジネスキャリアサポート事業ということで研修を受けていただきました。このときももちろん参加者の感想はよかったです、最近になって、今年と同じようなことやるんですね。

その中で宿の経営者の方から、経営者の方は実は興味はなかったりするんですが、実は従業員の方がこれ行きたいと言つとるということを今年聞きました。それは、恐らくほかの事業者の方と一緒にになって勉強することで、初めましてという名刺交換をできることがそのところの従業員の方にとってはプラスなんだと思います。勉学だけではなくて知り合いをつくる、そして悩みがあったときにちゃんと話ができる友達をつくるみたいな、そういう場になっているところがあるようです。やはり目指していたところはそこですので合致したなと思っております。ですので、今年も次は9月17日にやりますが、宣伝ですが、そこでも従業員の方に来ていただきますので、同じように交流の場としてもこの場を続けていきたいというふうに感じております。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 昨年度初めて、それまでは経営者向けのセミナーとかが多かったと思うんです。離職を下げるためにどうしたらいいんやとか、雇うために雇用のためにどうしたらいいんやというところから、恐らく働いているところの従業員のところに行ったと思うんです。そこで、内容だけではなくつながることによってあ

る意味プラットフォームができて、全体でそこが離職率の低下につながっているというのはすごい効果が上がったと思うんです。大きなサブテーマの中に鳥羽市全体で質を上げていく向上、サービスを向上を上げていくというのがあったと思うんです。その中には、やっぱり従業員の働き方であったりとか離職率を下げるというところを取り組んだというところは、非常に僕は、ちょっと参加もさせて、見学もさせていただきましたけれども、非常に丁寧にやってこれはすごく勉強になって、僕たち自身もみんな職員も、みんなもっと勉強したらいのにと思うぐらいすごくいろんな、ただおもてなしだけじゃなくて、言葉の接し方であったりとかということで変わるだけでも全然会話が変わってくると、印象が変わってたりとか目線であったりと、すごい細かいところをやっていたので非常によかったです。それが今回、経営者側から行きたいんでもう一回やってほしいというところにつながったということは、すごいいいことやと思いますので、しっかりとまた取り組んでいただきたいなと思います。

○木下順一委員長 他にございませんか。

五十嵐委員。

○五十嵐ちひろ委員 233ページの多様な旅行者の受入推進事業の中のカンファレンスと書いてありますね。デジタルノマドをターゲットした情報発信強化を目的にというところなんですかけれども、インフルエンサーにカンファレンスして、その内容がどんな話があったのかと、それについて共有をいろんな事業者とか関連団体としているのかということについて確認させてください。

○木下順一委員長 中村係長。

○中村係長 ありがとうございます。

この広告宣伝戦略事業のカンファレンス、2月に行ったんですけども、こちらは、そもそもこの広告宣伝戦略事業というのが広告宣伝戦略委員会というような委員会の形式で、観光商工課が事務局となってやらせてもらっている事業でございます。ですので、委員さんの中には、観光事業者さんであったりとか関係するような民間の事業者さんのメンバーというのが入って、一緒になってまず取り組んでいるというのが前提としてあります。

令和6年度は、デジタルノマドさんとかインフルエンサーが見る鳥羽の魅力というところで、実際鳥羽に滞在してもらったデジタルノマドさんを講師というような形でカンファレンスの場を設けさせていただいて、どうだったか、どんな可能性があるのかというのも話を聞いてもらいました。

内容としては、鳥羽というのは海女とか漁業とか、そういったのが特徴的なまちなので、まちですし、やっぱり食であったりとか、人の距離というのが近くて触れ合いを感じるというのがすごく滞在している間で実感したところ。すごくいいポテンシャルを持っているので、やっぱりその見せ方というところで、もっと例えば海女さんであれば、しゃべるだけじゃなくて海女漁を近くで見させてもらうとかですね。例えば離島に行くのであれば、定期船の中でもうちょっと何かわくわく感とか、そういった演出ができるとあると、観光客にとってはうれしいよねみたいなことを提言されていたのを覚えております。実際現場には20人弱ぐらいの参加者が集まつてもらったのと、あと、オンラインで配信していましたので100人ぐらいかな、方がリアルタイムで見ていただいていると、そういういつもというか、今までとは、何というんですか、ちょっとずらしたような形でそういった働き、旅をしながら働くとか、コロナが明けて新しい旅の仕方というのが増えてきた中

で、そういったノマドさんとかインフルエンサーさんがどういったことを鳥羽で見るかというところを発信してもらったというような内容になります。

以上です。

○木下順一委員長 五十嵐委員。

○五十嵐ちひろ委員 ありがとうございます。

本当に離島に行くときの定期船の中での演出とかはすごく共感します。そういったすばらしいアドバイスをいただいたので、それが各事業者さんで生かしていただいて、どういうふうに生かしたのかみたいなのも、今後データとして集めていけたらよりよい事業になるんじゃないかなと思います。

以上です。

○木下順一委員長 関連なければ、次のところ。

濱口委員。

○濱口正久委員 すみません、その下のところです。

大学ゼミ合宿支援事業及び地域課題解決調査研究事業、これ、数年前から取り組んでいただいてどんどん増えてきている状態です。多様な旅行者を受け入れるということで、一見ちょっと観光と離れたように見えるんですけども、実際これで目指しているところは、リピーターであったり関係人口であったりというお話をされていましたけれども、課題解決の中から、何かそれが参考になって次にこういうふうな解決につながったという、何か事例とかはございますでしょうか。

○木下順一委員長 観光商工課長。

○高浪観光商工課長 課題解決の提案に関しましては、先ほど写真の16ページ、写真資料の16ページの右下QRコードから提案内容は見ていただけます。その中で、今年度は一つ別の課で事業化されたというのもありますが、もう一つ、昨年度提案いただいた中で、写真資料のナンバー3のところの提案なんですが、三重大学が調査研究していただいて提案いただいた内容の中に、海洋教育を通じた子供たちの定住意欲に関する研究というのがあります。海洋教育というのが鳥羽市内の子供たちの定住、将来の定住ですね、そこにどう影響を与えるかという研究がありました。これは非常に私は注目すべきだなと思っております。鳥羽の小中学校の子供たちの海洋に関する学習意欲というのは非常に高いという結果が出ております。ただ、学校によってばらつきがあるということもしております。海洋に関する学習意欲が高いイコール、地域資源を活用した体験という活動が定住意欲に影響を与えることが分かったという研究結果が出ております。これは鳥羽市が今目指している海洋教育、子供たちの海洋教育、やっていることが将来の子供たちが鳥羽市に残ってくれる可能性の高さを示していると思いますので、ここはしっかりと受け止めて、今やっている海洋教育をこれからも続けていく必要があるんだというふうに思いました。

ですので、こういったことを一つ一つ見ていきますと、なるほどなという思い、という提案もございますので、ぜひこれを見ていただいて、4、5、6、3年分たまっていますので、いろんな私どももそうですけれども、別の課でも別の組織でも使っていただけるなと思っております。

以上です。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 確認です。この予算の内訳って、一つのところで幾らでしたでしょうか。

○木下順一委員長 中村係長。

○中村係長 一つというのは一団体でということですか。上限10万円、地域課題解決は上限10万円でやらせていただいている。

以上です。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 ありがとうございます。

これはたった10万円でこういうことの解決につながる、外から来ていただいてそういうふうな解決につながる、提案につながるというのはすごいことやと思うんです。まだ今年なのかな、もう一つ何か案内版の標識に予算化されたというものがったりとかというところで提案があたりとかと、非常にありがたいような、鳥羽に来ていただいてお金も使っていただいて、たった10万円の補助でいろんなこういう解決のところをたくさん、今まで何十もあったと思うんですが、それってすごく大事やと思うんです。今体験型の話をされていましたけれども、定住につながるというのが分かったと同時に、そういう体験を外からの人にも子供たちにも効果的やということの裏返しだと思うんですね。そういうことをどんどんしていただけるこの事業というのはすごいことやと思います。

観光で一旦、1回泊まつていただくというものとは別に、課長、最初からずっと盛んに言っていた関係人口であったり将来のリピーターであったりというところにつなげていきたいというのは大きな意味があると思うんです。鳥羽は、もともと修学旅行来られて何回も来られる方って多かったと思うんですよ、リピーター。リピーターのその先に関係人口というところで、こういうふうに自分が第2のふるさとではないですけれども、そういうとこに深く入り込んで地域のことにつなげていくことは大きな意味があると思うので。すごくこれは大事なところで、もうちょっと拡大してほしいなといつも思うんですけども、もっといろんなところから来やすいように、たくさんの方が来てこんだけ解決していただければいいかなと思います。

ただ、自分のことで言いますと、答志のほうのところでいくと、去年から去年のこの事業を使っていただいて、お盆の人手不足のところにたくさんの方が1週間ぐらい来ていただいて解決していただいたということもあって、その方は、入ってきた、これを使った方は、友達をつくったりとか、もう卒業されて家族を連れてきたりということで観光客のリピーターとしても既になり始めているので、これ大きなうねりやと思うので、どんどんあのしていただきたいなと思いますのでよろしくお願いします。

(何事か発言する者あり)

○木下順一委員長 私語は慎んでください。

(「委員長、関連でお願いできますか」の声あり)

○木下順一委員長 関連で。

瀬崎委員。

○瀬崎伸一委員 私も、もっともっと拡大してほしいというニュアンスでお伝えしたいことがございます。

予算180万円を置いていただいて使っているのがこの決算額なのかなと思うんですけども、若干ちょっと残ってしまっているなというところ。すみません、確認になっちゃうんですけども、テーマって恐らくこ

の大学の側が決めていただくことでしたね。ということは、恐らく自由にテーマは決めてもらうんだろうなと思うんですけれども、私、令和7年の当初予算も同じ180万円で計上してもらっているんで、その次になると思うんですけれども、ぜひ上げていただくときに、鳥羽市の中の各課があつて、その各課の困り事って、出すのはすごく嫌なことかもわからんすけれども、大学生とかいわゆる研究者へにとっては研究したいテーマじゃないのかなと、困り事を解決するというのは結構そういうことになるのかなと思うので、観光課が主導を取っていただいているけれども、今でも各課にフィードバックがかかっているというのの逆バージョンで、大学に対してテーマ案みたいなものも示せるようにしていくっていうのって、一つ誘客に、興味につながってこうへんかなというのが思うところで。

私、この令和7年の当初予算のときは、関東にもぜひ行ってくれと、関東の大学にもアピールに行ってほしいというようなことを言ったと思うんですけども、結果、令和6年の決算でも関東圏でも8件来ていただいている、これは合宿かもわかりませんけれども、来てもらつたということで、徐々に広がっているんだろうなと思うんですけども、ちょっと今若干予算を残してしまったというの何が課題なんかなっていうのって、若干分析もされているのかなとも思うんで、もしあつたら教えていただけませんか。

○木下順一委員長 中村係長。

○中村係長 ありがとうございます。

確かに今回予算額180万円に対して30万円分ぐらいその残が生まれてしまいました。なので、ちょっと想定していた申請数には達しなかったという、そういった状況ではございます。

その部分に関しては、やはり制度をもっともっと、まだまだ知られていないというのが大きな要因なのかなと思いますので、引き続きのところで近隣の県の大学には、こういった制度ありますよというようなダイレクトメールというか、今まで送らせてもらっているんですが、それを継続してやらせてもらうというのと、やはり今回ちょっとPRさせていただきたいのが、今までの行政の補助手続きって、やっぱりどうしてもアナログで煩雑になっちゃうというところがあったので、それも昨年度のうちから準備を進めて、全部インターネットからQRコードからやれるようにさせてもらいました。なので、特にこの事業というのは、1回鳥羽、これを使って来てもらった人は、また2年目も3年目もどんどんリピート、リピーターを増やしていく这样一个ものになると思いますので、補助金制度の使いやすさ、手続きのやりやすさというところも、併せて今回見直しをかけさせてもらったところでございます。

もう一つが、こちらがこの大学ゼミ合宿と地域課題解決のパンフレットになりますて、こういったものをホームページにも掲載させてもらっているほか、大学とかといった関係機関にも送らせてもらっています。瀬崎委員言われました鳥羽の地域性というか、研究テーマの例示というのもここでさせてもらっております。おりますけれども、よりこう活用していただくためにも、先ほど言われたような例えば鳥羽って、今こういうこと、こういうことがあって、こういう課題があって、例えばこういう研究テーマどうですかというようなこちらからの働きかけというのもできるのかなと思いますし、そういったことさせてもらったほうがよりよい、何というんですか、市のニーズにあった研究というのをやってもらえるのかなと思いますので、ちょっとそういったことも次年度に向けて検討していきたいと思っています。

以上です。

○木下順一委員長 濑崎委員。

○瀬崎伸一委員 ありがとうございます。力強い言葉をありがとうございます。

ぜひやっていただきたいなと。観光課が主導を取っていただいているだけでも、やっぱり全序挙げてやつていただきことというのは非常につながっていくと思うんで、聞き取り調査だけでも、あんたらの課題感何ですかというのだけでも観光課が主になってやっていただければ、それだけでも結構アピールポイントって出てくるかなと思うんで。大学4年生のうちの3年、4年というのがゼミがあって、何とかゼミってあるじゃないですか、その教授さんというのはずっと年々、人が替わってやっていくんやったら、ある意味そのゼミとぎっちりつながれば結構リピートでつながるかなというのもあると思うんで、テーマというのは幾つあっても向こうは困らへんと思うので、ぜひそんな方向で、令和7年の当初予算は足らんというぐらい頑張っていただきて、補正を組まなかんというぐらいにしていただければなと思うんで、ぜひ頑張ってください。ごめんなさい。

○木下順一委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 聞いているだけやけれども、今言われるようにお互いがやっとること、言ったことは、もう本当に次につながります。ご存じのように徳島の神山と上勝、これはそうですからね。こういう大学が来て、葉っぱ1枚、一気にネットで売ろうやという話まで出したんは学生なんですよ。見にいってきたんやけれども、ほんで、町がしたのは山から全部Wi-Fiを飛ばしたわけですよね、ほんで一気に爆発したという。その次につながるような案を出していただくのがこういう仕組みやと思うよって、倍にしたんじゃない。

以上。

(「もっと進めやな、中途半端じやいかんね。お願いします」の声あり)

○木下順一委員長 他にございませんか、237ページまで。

(「委員長、237ページまでですね。」の声あり)

○木下順一委員長 までありますか。

世古安秀委員。

○世古安秀委員 234ページの漁業と観光の連携事業の中で、下のほうの補助金に③鳥羽さかなブランド、これはトロさわらのブランドということで、私冒頭にちょっと聞かせてもらったんですけれども、やっぱり今後は食というのを大事に売り出していく必要があるんかなと思いますんで、この取組について状況をちょっと説明願いたいと、もう少しいろいろ書いてありますけれども、増えたとかブランド化したい、してからもう大分七、八年になってくるというところで、この状況についてもう一度、今の状況も含めてお願いしたいと思います。

○木下順一委員長 中村係長。

○中村係長 ありがとうございます。

漁観連携の部分の鳥羽さかなのブランド化、いわゆる答志島トロさわらの部分なんですけれども、これは平成30年度にブランド化になって、順調にPRを漁協さんと観光協会さんと一緒に進めている状況です。大分日本全国いろんなところでこの答志島トロさわらの認知度が上がってきたのかな。当然味もおいしいですしというところで、流通に関しても、東京であったりとか大阪であったりとか、そういう首都圏のほうに答志島

で取れた世界で一番おいしいサワラが流通されています。

そして、金額、価格に関しても、どんどん上がっていっているというところなので、もともとこの漁観連携で取組を始めた目的である漁業者さんの所得の向上というのには、着実につながっているのかなというところでございます。

ちょっとPRになるんですけども、今日ちょうど答志島トロさわら宣言というのがこの後、午後から答志島のほうで開催されまして、私、この委員会が終わったらそちらのほうで行って、たくさんメディアさんを呼んで、またテレビとか新聞とかで取り上げていただきますので、皆さん楽しみにしていただければと思います。

以上です。

○木下順一委員長 世古安秀委員。

○世古安秀委員 ありがとうございます。

今日午後からもあるということで、これはやっぱり鳥羽のトロさわら、それによってまた観光客を誘致する、宣伝することによって、もちろん漁業者の所得向上にもつながっているということなんですけれども、集客につなげていただきたいというふうに思います。

次に、同じところで235ページの下のほうの⑦魚食普及事業ということで、鳥羽の海産物とかいろいろなものを普及していくというふうな事業も漁業と観光の連携事業の中でやっておりますけれども、具体的にどういうことを普及していくための事業をやっているかというのをもうちょっと詳しくお願ひします。

○木下順一委員長 中村係長。

○中村係長 ありがとうございます。

この漁観連携、魚食普及事業に関しては、鳥羽の海産物をもっと食べてねという、一言で言うとそういう話なんですけれども、令和6年度の取組として、新たに取組を始めたものが広報とばに毎月のコラムとして「旬の鳥羽ざかな」というのを掲載を始めさせてもらいました。

というのも、この漁観連携の仕事で漁協さんとか観光協会さんと一緒に今仕事をやらせてもらっているんですが、やはり鳥羽の魅力というのは、それこそ食であり魚である、海産物であるんですよね。海産物に関しては、鳥羽がどこにも負けていない、誰にも負けていない、その部分というのは、春夏秋冬1年中、どこを切り取っても旬の海産物が食べられるというところ。いつでも鳥羽は旬がある、旬の海産物があるというところを特に漁業者さん、漁協さんは高いプライドを持ってやられています。

そういう話を僕も一緒に聞かせてもらって確かにそうだと、住んでいると鳥羽の魚とか海産物を食べるが当たり前になっちゃっているんですけども、それって外から見るとすごい特別なことで、すごい恵まれていることというのを改めて市民の皆さんに知ってほしいなという思いでこのコラムを始めさせてもらっています。

なので、これからどんどんコラムというのを続けさせてもらって、例えば1月だったらこれだよみたいに、2月だったらこれだよというのを漁協さんと一緒に連携して、次はこれを市民の人に知ってもらいたいよね、こういう魚ってこういう食べ方がありますよというのをこのコラムで紹介させてもらっているというところです。

以上です。

○木下順一委員長 世古安秀委員。

○世古安秀委員 鳥羽市民向けにそういう広報とばでPRということですけれども、これが旬の鳥羽の魚、海藻というのは大事なんで、これをもちろん鳥羽市民も十分食べてもらうということが大事なんですけれども、やはり来てもらう観光客に食べてもらうという、そういう視点を今後ぜひ生かしてあげていただきたいと思います。していただきたい、いただきたいというふうに思います。

以上です。

○木下順一委員長 お待ちくださいよ。

ほかに御質疑ございますか。

もう1間以上経過しとるんですけども、観光課をこのままでさせていただいて構いませんか。

(何事か発言する者あり)

○木下順一委員長 ご質疑もないようですので、次に、238ページ上段、商工一般管理経費から245ページ、消費者生活安定向上推進事業までの範囲で御質疑はございませんか。

濱口委員。

○濱口正久委員 すみません、238ページの中小企業支援事業です。

中段のところに鳥羽商工会議所の外国人技能実習生受入事業のところが書かれています。人手不足の中での人材の確保のために行かれたと思うんですけども、日本語学校に訪問してということが書かれていますけれども、今後の課題とか意見交換をしましと、出てきた今の現在の状況とか課題とかというのはどうなことが上がってきていましたでしょうか、分かる範囲で。

○木下順一委員長 観光商工課長。

○高浪観光商工課長 商工会議所さんが実施していただいた事業ですので、詳細までちょっと把握はしておりますけれども、これまで外国人実習生を受け入れる、カキの養殖のところが主立った事業でございます。ただそこだけではなくて、やはり外国人材が不足している市全体の話を受けて、こちらベトナムのほうまで行かれたんだと思います。そこでのどういうふうに受け入れてくるかという勉強をされたというふうに把握をしております。

以上です。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 会議所さん、一生懸命人材確保のためにいろんなところに行かれています。日本に多いところというところ、可能性のあるところに行かれているんだと思うんです。なかなか今、制度が昨年度変わって、外国人の受け入れのところが今までの就労のところが変わってきたというところがあつて、それに向けて移民の受け入れの近いところやと思うんですけども、そういうところで今取り組んでいただいているところと思うんです。市内で働いている方の外国人って非常に高くてたくさんの方が働いていただいているので、そういう状況も含めて、今後は中小企業支援として市のほうもそこを支えていただきて人材確保につなげていただきたいなと思います。

ここは以上です。

(「関連で」の声あり)

○木下順一委員長 五十嵐委員。

○五十嵐ちひろ委員 今話していた事業だと、やはり受入れする事業者に対してのサポートというのをしているのかなというふうに思うんですけれども、それで、実際に来られた外国人技能実習生であったりとか、この制度ではなくて普通に就職されている外国籍の方ってどんどん増えていらっしゃる状況で、これからも必ず増えていくことは間違いないという状況の中で、やはりすごく大変だと思うんですよ。自分の母国語をしゃべる感じじゃないところに来て働いてというのって大変で、それを長く続けるというのは、個人の努力ではどうにもならない部分がたくさん出てくると思います。そういったところで、来てくれている人に対してのサポートというのはあったんかなというのがちょっと気になるんですけれども。

○木下順一委員長 観光商工課長。

○高浪観光商工課長 おっしゃるとおりです。外国人材がどんどん増えています。しかも外国人材、鳥羽で働いていただいている。日本人の人口減少に伴う人手不足というのを補っていただいている大事な存在でございます。これは観光商工課だけではなくて市全体で取り組むべき課題であると思っております。外国人の方が鳥羽で生活するに当たって困らないように、言葉の面もそうですが、保育であるとか医療であるとか教育、そういったところも含めて市全体で考えていく内容だと思っております。

以上です。

○木下順一委員長 五十嵐委員。

○五十嵐ちひろ委員 今、高浪課長おっしゃったように、本当に市全体で取り組んでいかなければならぬことだと思います。ほかの課とも連携して、ここのこと何だろう、鳥羽で働くとひどい目に遭うみたいな感じのやつが広まってしまったら本当に困りますし、みんなが幸せでいられる鳥羽市、みんなの中には必ず外国から来ていただいている方も入っているという認識で進めていっていただければと思います。

○木下順一委員長 お昼まで30分ほどになってきました。この後、観光のほう商工のほうで質問、まだどれぐらいありますかね。1問、消防署を待たせていますんでお昼を挟んでしまうとあるんで、消防を帰らせますかね。

(「やってください」の声あり)

○木下順一委員長 それじゃ、続行します。

倉田委員。

○倉田正義委員 お願いします。

242ページ、地域のしごと魅力発信事業。本年度から、6年度からの新しい事業ということで、鳥羽高校のキャリア教育については事前に坂倉委員のほうからも質問があって、就労に3名、昨年度から今年度でしょうか、あったということですが、ほかに見学バスツアー11名、それから、下のほうにあるインターンシップ就業体験68名等々の参加者が具体的に数字上がっておるんですが、鳥羽高校同様に鳥羽市内での就労につながったという事例は、このあたりではありますか。

○木下順一委員長 松川課長補佐。

○松川課長補佐 すいません、お答えさせてもらいます。

先ほど言われた企業見学バスツアーとインターンシップの関連なんですけれども、市内の事業者さんにちょっと聞かせてもらったところ、このバスツアーとかインターンシップが就職につながったということはない

ということで、ゼロ人ということになります。

以上です。

○木下順一委員長 倉田委員。

○倉田正義委員 ありがとうございます。

まだ成果としてそこの数字には出てこないということかと思います。事業名としてはしごと魅力発信というところになっておるんですが、一番上には就労の促進、それから総括のところの下の事業のところにも、将来的な就労人口の確保と明確に人材を確保するというような表記がありますので、目指すところはそこかなとうふうに思います。

また、参加した学生等の事後のアンケートとか追跡調査とか、こういったものはされておるのかどうか、お願いします。

○木下順一委員長 松川課長補佐。

○松川課長補佐 企業見学バスツアーのほうは、市内の事業者さんに聞かせていただいたんですけども、インターンシップの学生のほうには特に終わった後にアンケートを取るということはしていないので、今後実施できたらなと思います。

○木下順一委員長 倉田委員。

○倉田正義委員 今後の取組の方向性をまた新たに継いでいくのも必要だと思いますし、鳥羽の魅力というのもつくる資料になるのかなと思いますので、そういった取組をひとつ期待したいと思います。

それと、さっき言ったように、促進、就労が行われるというところへ年々この事業を継続させていくのかなというところで、やっぱり魅力発信にとどまらず、就労促進に事業というふうにつながるようなものをを目指していただければなというふうに思います。

それと、企業、市内の事業者が中心となっておると思うのですが、鳥羽市役所自体もこの問題は大きなところだと思います。総務とも関連、連携を持ちながら、例えばこのインターンシップや就労体験とかもできるんじゃないかなと、鳥羽市役所においてもできるんじゃないかなというふうに思いますので、相乗りなども可能性があれば追求してください。

以上です。

○木下順一委員長 関連ございますか。

(発言する者なし)

○木下順一委員長 なければ、違う箇所で事業で。

(「違う箇所で」の声あり)

坂倉委員。

○坂倉広子委員 お時間のないところすみません。

245ページ、消費者行政推進費の相談のところでお伺いさせていただきます。

近年、昨日もSNSによる詐欺が鳥羽市の方が被害があったというメールがあって、実はこの消費者生活安定向上推進事業ってとても大事な事業だと思っております。そして、近年横行しているSNSで若者や高齢者が詐欺に遭うことがあるんですけれども、ここの相談の開催されている、確認します。日にちと、そ

れと、ここにいらっしゃる相談者の方は週に何回あるんでしょうか。

○木下順一委員長 松川課長補佐。

○松川課長補佐 こちらの相談というのが、鳥羽市ではもうやつていなくて伊勢市の消費生活センターというところでやつているんですけども、月曜日から金曜日まで5日間開業しておりまして、相談員の方が3名いらっしゃいまして、相談員の中でちょっと一つ上の資格を持っている方というのがいらっしゃるんですけども、その方が1名いらっしゃいまして、今後は強化していくということでお話はいただいております。

以上です。

○木下順一委員長 坂倉委員。

○坂倉広子委員 近年の消費者に対する問題という課題がありますので、ここを確認させていただきました。今後もよろしくお願ひいたします。

以上です。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 243ページの下段の起業育成支援事業です。244ページにかけてのところなんですかとも、244ページのところの創業の一部を支援するための補助制度を新設しましたと、創業に関わる。それが20代、60代の5件の申込みがあったんですけども、結果的に3件が採択されて創業となったということの、この2件とかという外れた理由とかって何かあるんでしょうか。

○木下順一委員長 観光商工課長。

○高浪観光商工課長 5件の申請がありまして、審査会を経て3件が採択されました。私も審査員ではあったんですけども、内容を見ておりますと、やはり収支の部分が少し甘いなという感じも受けましたしというところですかね。創業するはいいけれども、続いていかないといけない。やっぱり経営のノウハウというのが大事だと思うんです。そのあたりの少し未熟さがあったかなというふうには感じております。

ただ、5件申請があつて3件しか採択できなかつたというところは非常に残念なことでございますので、今年は採択件数、予算額を増額してやらせていただきました。

以上です。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 ありがとうございます。

この2件に対しては、その後、そういうふうな審査の結果と同時にその指導とかというのはされたんでしょうか。こういうふうに改善していったらいいんじゃないかというところとか、その辺はどうなんでしょうか。

○木下順一委員長 観光商工課長。

○高浪観光商工課長 審査会の中で私どもそうですし、政策金融公庫の金融の関係の方も入っていただいていましたので、その中でこういう改善が必要だよというお話、アドバイスはさせていただいております。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 ありがとうございます。

起業だけではなくて、その後しっかり支援していくことが非常に大事やと思うんです。市内で新しく立ち上げていただいて、その後、継続していくことによって雇用がきちんと確保されたりとかというこ

とにつながりますので非常に大事なことやなと思うんです。

もう一つ、今回の資料の中にそれが見受けられるなと思うのは、今まで過去の参加者も含めた交流会というのがされたと思うんです。今まであまりなかった中で、こういう人たち同士をつないでいくということが非常に大事やなと思うんですけども、そのときの感じとか印象ってその後何か、こんなまた開いてほしいとかつてあったんでしょうか。

○木下順一委員長　観光商工課長。

○高浪觀光商工課長　創業される創業支援の採択を受けた方には、その後の起業家育成支援セミナーというのを受けていただくことを条件にしております、起業家育成支援セミナー、創業される方だけではなくて起業をこれから考えているよという方も参加できます。起業家育成支援セミナーは今年で13年目になります。ですので去年は12年目だったんです。

交流会、勉強をしていただいた後に交流会も開催させていただきました。この12年間で起業家育成支援セミナー受けた方にも案内を出して、どなたでも参加できますというふうにさせていただいて交流会をさせていただきました。

写真の資料の中にもその様子がございます。写真資料は20ページでございますが、交流会というか起業家育成支援セミナーは参加しやすいように夜間行っております。西庁舎でやっておりますが、終わってから交流が余りにも活発過ぎて、もう閉めなきゃいけない状態になってしまいまして時間オーバーで、私どものほうで、大変申し訳ないですけれども終わりですということでやらせていただいたぐらい活発にさせていただきましたので、交流は非常に大事です。

以上です。

○木下順一委員長　濱口委員。

○濱口正久委員　支援のところの厳しい審査はあった話からとつながっていくと思うんですけども、その後ですよね、ずっと続いてもらわなきゃいけないので、やっぱりこういう人たちというのは、今現在がどういう状況やということというのは、新しい人たちはなかなかほかの状況って知りにくかったりとか、自分のところで精いっぱいやったりとかという部分があると思うんです。そういう情報交換をしながら、鳥羽市として全体としてみんなで盛り上がりたいましようということにつながると思うので、これは非常にお金でない部分ですよね、今多分しているというのは。先ほどのJALのセミナーもありましたけれども、社員同士であったりとか鳥羽市全体でつなげていく、みんなでちゃんと支えていくというところは非常に大事だと思うので、この起業者育成の中のプログラムでそういう人たち同士をしっかりとつないでいくというのも、今後もそういう機会を増やしてあげてほしい。そういう人たち同士ですので、1回つながればその後自分たちでつながれると思いますので、何かそういうお話をできる機会増やしていただければなというふうに思います。これからもよろしくお願いしたいと思います。

○木下順一委員長　他にございませんか。

(「なし」の声あり)

○木下順一委員長　ご質疑もないようですので、説明員交代のため暫時休憩いたします。

(午前11時40分　休憩)

(午前11時44分 再開)

○木下順一委員長 休憩前に引き続き会議を再開します。

続いて、消防本部の決算成果を審査します。

消防長の説明を求めます。

消防長。

○世古消防長 消防本部、世古です。よろしくお願ひします。

決算の前に1点報告させていただきます。

決算成果説明書の270ページに掲載しております消防車両に関する表の登録年の表記につきましては、今回の決算から、年度から年に変更させていただいておりますのでよろしくお願ひします。

それでは、令和6年度の消防本部に関する決算について説明させていただきます。

決算成果説明書の261ページをお願いします。

まず、総括を要約して説明させていただきます。

消防の任務は、市民の皆さんをはじめ、本市を訪れる方々の生命、財産及び身体を守ることです。このため、警防、救急、救助及び予防などに関する業務を職員が一丸となって遂行するとともに、各事業を実施しました。複雑多様化する各種災害及び大規模な自然災害に対応するため、職員を三重県消防学校に入校させ、消防技術に関する知識及び技術の習得に努めるとともに、職員の能力向上を図りました。当該職員が学んできた研修内容等につきましては、後日、伝達講習や訓練等を通して他の職員と共有し、業務に生かしました。このほか救命士を育成するため、職員1名を救急救命東京研修所に入所させました。

救急出動件数につきましては、前年度に引き続き1,600件を超えるました。救急活動の際は、各傷病者等の容態に応じた適切な応急処置を行うとともに、速やかに医療機関へ搬送しました。

火災予防に関する取組につきましては、市内事業者等において立入検査を実施し、防火対象物及び危険物施設の消防用設備等が消防法等関係法令に適合しているか点検するとともに、不適合事項が確認された場合は権限者に対し行政指導等を行うなど、是正措置に取り組みました。

非常備消防である消防団につきましては、火災時の初期消火をはじめ、風水害時の警戒や救助活動等を行っているほか、大規模災害時には住民の方の避難誘導や防御火災、災害防除等を行うこととなっており、市内各地域の安全・安心確保のために果たす役割は大きなものとなっております。このため、春季、夏季の定期訓練及び秋の全国火災予防週間中における各分団単位での火災防護訓練を実施し、各種災害への対応力の強化に取り組みました。

また、令和6年度は、隔年で開催しています鳥羽市消防ポンプ操法大会を6月22日に開催しました。同大会には、加茂、鏡浦、長岡及び答志の4分団が出場し、日頃の訓練成果を披露しました。優勝した答志分団は、7月22日に開催された三重県消防操法大会に出場し、小型ポンプの部で3位入賞を果たしました。

次に、新たに実施した事業につきましては2点ございます。

1点目は、消防庁舎整備事業として主訓練塔建設工事を実施しました。完成した訓練塔には、登はん壁、渡過訓練施設及び立て坑救助施設等の附帯設備が整備されており、今後、消防職員及び消防団員を中心に訓練塔

を活用した訓練を重ね、消防力の向上に努めます。

2点目は、離島からの救急搬送に関する事業としまして、答志地区及び菅島地区において、主に救急患者等の搬送を担っていたいっている鳥羽磯部漁業協同組合が所有する船舶2隻を救急船として指定させていただくとともに、同組合と離島救急患者の搬送に関する協定書を締結し、離島からの救急搬送のモデル事業として開始しました。

続きまして、各事業別の決算について説明させていただきます。

決算成果説明書262ページの中段をお願いします。

警防消防活動業務につきましては、予算現額407万4,000円、決算額403万2,000円となりました。

市民や観光客の生命、身体、財産を守るために必要な機材等の購入や保守点検を行い、警防及び消防活動を実施しました。令和6年度につきましては、建物火災3件を含む11件の火災出動を行いました。なお、前年度との差につきましては、空気呼吸用ポンベなどの備品購入を行ったことによるものです。

続きまして、262ページの下段から263ページの上段をお願いします。

消防職員研修事業につきましては、予算現額432万1,000円、決算額428万円となりました。

職員が複雑・多様化する災害に対応できるよう、三重県消防学校の各教育、研修課程へ延べ12名を入校させました。また、救急救命士の育成を行うため、救急救命東京研修所に1名を入所させました。

同ページの下段をお願いします。

消防通信指令業務につきましては、予算現額2,615万円、決算額2,596万5,000円となりました。1,767回の緊急通報を受信し、各種災害に応じた車両を出動させるなどの対応を行いました。前年度決算額との差につきましては、工事費等負担金で防災通信ネットワーク整備工事負担金が新たに生じたことによるものです。

続きまして、264ページをお願いします。

救急活動業務につきましては、予算現額319万3,000円、決算額302万7,000円となりました。

令和6年度は、1,606件の救急出動に対し、1,493人の方を医療機関へ搬送しました。

続きまして、265ページの中段をお願いします。

離島救急患者搬送費補助事業につきましては、予算現額248万3,000円、決算額223万6,000円となりました。

離島からの救急搬送時に船舶を借り上げた場合、離島住民等の負担軽減を目的とした離島救急患者搬送費補助金を82件交付しました。また、離島の救急搬送体制を構築するため、モデル事業としまして答志地区、菅島地区におきまして、鳥羽磯部漁業協同組合が所有する船舶を救急搬送船と定めた離島救急患者の搬送に関する協定を締結しまして、令和7年1月1日から運用を開始しました。

続きまして、268ページをお願いします。

消防団活性化対策事業につきましては、予算現額3,602万円、決算額3,299万5,000円となりました。

この事業につきましては、消防団の活動支援や消防団員の新規加入促進について広報を行い、地域の安全・

安心を守る消防団員の確保と活動環境の充実を図りました。

主な経費としましては、消防団員に対する費用弁償や退職報償金等になります。なお、前年度の決算額との差につきましては、退職団員の減少に伴い、消防団員退職報償金等が減額となったことによるものです。

続いて、同ページの下段をお願いします。

消防ポンプ操法大会事業につきましては、現年額と決算額ともに同額の257万4,000円となりました。

この事業は隔年開催となります。消防ポンプ等の操作技術の向上を図るため、第50回鳥羽市消防ポンプ操法大会を開催し、4分団が出場しました。

次に、269ページの中段をお願いします。

消防水利整備維持管理経費につきましては、予算現額602万7,000円、決算額529万2,000円となりました。

主な経費としましては、工事費等負担金で消防水利の充実を図るため、消火栓の新設、改良及び修繕工事を実施しました。前年度決算額との差につきましては、令和5年度に耐震性防火水槽2基の工事を行ったことによるものです。

続きまして、同ページの下段から270ページをお願いします。

消防車両等整備維持管理経費につきましては、予算現額628万2,000円、決算額618万円となりました。

多様化する災害に対応できる消防力及び機動力の強化を図るため、消防車両等の維持管理に努めました。前年度決算額との差につきましては、令和5年度に、大規模災害時の救急車両燃料を保管するため危険物屋内貯蔵所を設置したほか、はしご付き自動車のオーバーホールを実施したことによるものです。

続きまして、271ページのほうをお願いします。

消防施設整備維持管理経費につきましては、予算現額384万9,000円、決算額361万8,000円となりました。

消防庁舎及び消防団格納庫の維持管理業務を行いました。消防団格納庫3か所の修繕を行いました。前年度決算額との差につきましては、令和5年度に老朽化が著しかった長岡分団第1部の格納庫を旧長岡中学校の敷地内に格納庫の新築工事を行ったことによるものです。

同ページ、下段をお願いします。

消防庁舎整備事業につきましては、予算現額1億1,082万5,000円、決算額1億924万6,000円となりました。

消防庁舎主訓練塔鉄骨造5階建てを建設し、それに伴う備品等を配備しました。

主な経費としましては、工事請負費、鳥羽市消防庁舎主訓練塔建設工事となります。

以上で消防費の決算の説明とさせていただきます。どうぞよろしくお願いします。

○木下順一委員長 説明は終わりました。

261ページ総括から271ページまで、消防本部の事業全体についてご質疑はございませんか。

尾崎委員。

○尾崎 幹委員 266ページ、火災予防業務。これ、露天商の届出が30しかないとあるんですけれども、鳥

羽でイベントしとてどんだけの露店が出とるか、本当に確認してもらわな。火使うとる、油使うとるんがそのままどぶに捨てたりさ、それが現状ですよ。しっかりとこれは届出をさせやな。火事が起こってから遅い、問題が起こってからでは遅いと思います。基本的なやっぱり指導はせな。ガスをどうしたらええとか、油はそのままどぶへ捨てていったらええとか、そんな指導では駄目、しっかりとこれは見直してください。どうですか。

○木下順一委員長 野村署長。

○野村消防署長 消防署長、野村です。よろしくお願ひします。

今委員おっしゃられた部分なんですけれども、一応誤解があるといけませんのでお伝えしておきます。

これは、届出1件当たりに全ての露店の、例えば30件が一つのイベントに参加するんであれば1件としての受理という形になりますので、イコールで店舗数というわけではございませんので、そういったところでご理解いただきたいなというところと、あと、1件1件指導というか、例えばガスボンベの転倒防止がなされておるかとか、消化器が設置されておるかとか、期限が切れてないかですかとか、そういったところは全てチェックはさせていただいております。

以上です。

○木下順一委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 それを徹底されとったらしいんですけども、先ほど言ったように油を使うような露店の人がそのままどぶへ捨てていく、そういうことまでしっかりと見とかな。そこにたばこの火がほられるとか、いろいろな形で火災が発生するような状況が起こっています。それを徹底してください。やっぱり指導が徹底、1か所が出したらええという話じゃなしに、見回りしてもうて点検してもうて、マル・ペケをやっぱりつけていくぐらいの気持ちがないとね。そこら中で花火のときに爆破したりとか、いろいろな問題が多数起こっています。徹底してもらうことが一番大事で、特に鳥羽の日、設定、僕らがしています。そのときの状況があまりにもひどいという市民からの声が出てますのでやっぱり徹底してください。よろしくお願ひします。

○木下順一委員長 意見ないんですか。

○尾崎 幹委員 もう徹底してもらうから。

○木下順一委員長 12時になりましたが、このまま続行させていただきます。

野村署長。

○野村消防署長 委員の御指摘ありがとうございます。

処理等を受理する際には、厳正なる審査と指導をさせていただくということでお願いしたいと思います。

○木下順一委員長 他にございませんか。

濱口委員。

○濱口正久委員 すみません。

(「2分で終わってよ」の声あり)

○濱口正久委員 すみません。最後の271ページの消防庁舎整備事業なので、これよろしかったですかね。

○木下順一委員長 はい、大丈夫です。最後まで大丈夫ですけれども。

○濱口正久委員 すみません、今回訓練塔を造っていただきました。これは議会からも前倒しにせえということ普ッシュさせていただいたと思うんですけども、今回、これができたことによって、最初のところに総

括にもいろいろ難しいことが書いてありましたけれども、施設の。これがどういうものを、これができたことによってどういうことが想定されるものに対応できるとか、今までとどういうふうに違うのかというのをちょっと教えていただけますでしょうか。

○木下順一委員長 野村署長。

○野村消防署長 まず、どういった訓練ができるかという部分ですけれども、大まかに言いますと、今までと平面的な訓練が主であったところに対して、今回立体的な訓練が相当数できるという部分が違つてまいります。

細かくもう少し丁寧に説明差し上げますと、例えば地下空間を想定した訓練ですか、もしくは逆に高いところに対する訓練ですか、もしくは高いところと高いところをつないで立体的な訓練、そういったものも可能ですし、例えばホテルとかそういうところに見立てて消防用設備を活用して、つまりは連結送水管とかそういうものがホテルとかにはついておるんですけれども、1階につないで5階から取り出して、そこから水を出してそのフロアだけを消すという訓練をやってみたりとか、いろいろな活用ができるという部分で相当幅のある訓練ができる施設となっております。

以上です。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 ありがとうございます。

今までとは違うところというのは、そういうようなところを、実際それを使って訓練するとしないとでは大きな違いがあると思うんです。経験も含めてですね。それができるようになったということは、より市民、観光客も含めてより安全・安心に寄与することやと思います。今後想定される大規模災害も含めていろいろなことを、せっかくですのでしていただいたものを活用して精いっぱい訓練していただきたいなと思います。

以上です。

○木下順一委員長 濱崎委員。

○濱崎伸一委員 ちょっとすみません、戻ります。264、救急車の出動についてでお伺いいたします。

令和5年が1,651で令和6年も1,606、1,600台を超える状況が続いている。結構これは過密状態だろうと思うんです。単純に365日で割りにいっても、1日4回4台以上という状態なのかなと読めるんですけれども、鳥羽はA1、A2が本チャンで、A3が予備線、予備でという形で3台お持ちになられている状況で。不足してしまって、どうしてももう4件目が入電してしまってというような案件、他県、ほかの近隣へ応援を依頼したといったような案件、令和6年度はありましたか。

○木下順一委員長 消防署長。

○野村消防署長 救急の重複事案かと思います。

重複でいいますと、まず、運用されると救急車、先ほど委員おっしゃっていただいたとおり2台でございます。予備車が1台、合わせて3台という形の体制で消防署は運用しておりますが、その中で令和6年度でいいますと、2台同時に出動した件数が400回ございました。3台目出動した回数が56回、そのうち56回ございました。4台目なんですけれども、4台目を他にお願いしたという事案は私は承知はしておりませんけれども、すみません、申し訳ございません。伊勢消防さんに1件お願いした船の事故の際にあったというふうな

ことですので、その1件のみになろうかとは思います。ただ、本年についていいますと、本年も1台応援を志摩消防さんにお願いした経緯もございますので、本年度についても既に1件は発生しているような状況でございます。

以上です。

○木下順一委員長 濑崎委員。

○瀬崎伸一委員 今の多分やり取りで、皆さんお分かりただいたと思うんです。もうこれは本当にせっぱ詰まつた状態なんと違うんかなと思うんですけども、職員を増やせばいいとか救急車を増やせばいいとかというので解決できる問題でも若干ないところもあるのかなというところで、ちょっとこの辺を、もちろん消防さんはその辺ゆゆしき事態ということで、何とかとかここをうまく回せるような方向性をというような考えでは検討いただきたいと思うんですけども、少し人が足らんのであれば人を増やす、車が足らんのであれば車増やす、それもいとわざという方向性を持って少し考えていくていただいたほうがいいかなと思うんですが、救急の出動件数が減っていくともなかなか思えにくいところがあるので、もちろん応援協定も結ばれているので近隣からの応援が入れればいいとは思うんですけども、なかなかその辺がちょっとつきついんじゃないのかなと読み取れましたんで。我々も、私は応援したいという思いがありますんで、全庁を巻き込んででもいいですでの何とか検討を、よくなるように検討方法を考えていただきたいなと思います。すみません、意見です。

○木下順一委員長 他にございませんか。

(「なし」の声あり)

○木下順一委員長 ご質疑もないようですので、説明員交代のため暫時休憩いたします。昼食のため午後1時まで休憩します。

(午後 0時07分 休憩)

(午後 0時58分 再開)

○木下順一委員長 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

教育委員会の審査に入りますが、総務課、学校教育課、生涯学習課の順に審査を行います。委員並びに執行部の皆様にはご承知おき願います。

初めに、教育委員会総務課の決算成果について、担当課の説明を求めます。

教育長。

○岩本教育長 教育委員会、岩本です。

9款教育費について各担当課長のほうから説明させますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○木下順一委員長 山本総務課長。

○山本教委総務課長 教育委員会総務課の山本です。よろしくお願ひいたします。

決算の内容につきましては、決算成果説明書272ページから278ページ、決算に関する説明書は161ページから174ページとなります。

それでは、決算成果説明書の272ページをお願いします。

まず、総括でございます。

総務課といたしましては、1年を通じ、定例教育委員会の開催をはじめ事務局の運営、教育行政全般における事務を執行するほか、市内小学校7校、中学校4校、幼稚園1園の施設の維持管理を行い、安全・安心な学校施設の管理運営と教育環境の充実に努めました。

大きな事業といたしましては、前年度に引き続き鳥羽東中学校の大規模改修に係る調整を行いました。特に学校の授業と並行しながらの工事調整には、事業者にも協力をお願いし、時間をかけて調整をしたところです。新たに実施した事業です。

令和8年4月の鳥羽東中学校と加茂中学校との学校統合再編に伴い、新たに開校する中学校の設立に向けた鳥羽市立新中学校設立準備会を組織し、準備を進めてきました。

準備会では、総務部会、通学安全部会、学校運営部会の三つの専門部会に分かれて検討協議を進めてきました。総務部会では、新たな中学校の象徴となる名称を市内外から公募し、鳥羽中央中学校とすることに決定しました。ほかの部会においても、円滑な学校運営と学校生活の基盤づくりについて検討、協議を進めています。これらの協議内容や進捗状況については、新中学校設立準備会だよりを発行して、情報共有と情報発信に努めできました。また、学校統合を前にして、鳥羽東中学校の通学区に加茂小学校を加えた学校選択制の採用に合わせて、加茂地区へのスクールバスの運行を開始しております。

それでは、教育委員会総務課が所管する事業につきまして、主なものをお説明をさせていただきます。

成果説明書の273ページ上段をお願いします。

中事業名、教育委員会運営管理業務の事業内容につきましては、ほぼ変わりがございませんので説明は割愛させていただきます。

次に、中事業名、事務局運営業務の事業内容といたしましては、予算現額1億1,216万3,000円、決算額1億676万8,000円です。

主に教育委員会事務局職員の人事、給与、福利厚生等の管理を行っておりまして、決算額は前年度より1,611万6,000円の増額となっておりますが、退職者に支給する退職手当の増額と人件費の増額が主な要因になっております。

続きまして、決算成果説明書274ページ上段です。

中事業名が高校生修学支援事業になります。予算現額401万4,000円、決算額300万2,000円となっております。

この事業は、予算は学校教育課、業務は総務課で行っておりましたが、令和6年度から予算についても総務課で管理をしています。内容については変わっておりません。

続きまして、中事業名、小学校管理業務です。予算現額8,348万7,000円、決算額8,067万7,000円となっております。

市内の小学校7校における安全・安心で快適な教育環境の整備を図るため、学校施設の補修や改修を行いました。

続きまして、成果説明書276ページをお願いします。

中事業名、中学校管理業務でございます。予算現額8,237万2,000円、決算額7,743万7,000円となっております。

市内の中学校4校における安全・安心で快適な教育環境の整備を図るため、校舎等の補修や改修工事を行つたほか、スクールバス1台の更新や、令和8年4月の新中学校設立に向けた準備会を組織し、校名等について協議を進めてまいりました。また、統合前の学校選択制の採用に伴い、加茂地区へのスクールバスの運行を始めております。

主な財源については、国のスクールバス・ボート等購入費補助金を活用をしております。

続きまして、成果説明書277ページをお願いします。

中事業名は、鳥羽東中学校大規模改修事業であります。予算現額は1億8,435万4,000円で、決算額は1億8,366万3,000円となります。

前年度に引き続き、鳥羽東中学校校舎2階部分の内装改修や照明機器のLED化のほか、受水槽の更新など給排水設備の改修、図書室の拡充、それと必要な備品の更新を行いました。

ここの中事業の経費は、工事請負費と工事に係る管理委託業務料となっております。

主な財源は、学校施設環境改善交付金と市債となっております。

次に、277ページの下から278ページになります。

中事業名は幼稚園管理業務でございます。予算現額は4,006万4,000円で、決算額は3,934万3,000円となっております。

前年度との比較では、令和6年度は2名の支援員を配置しましたので人件費が増額となっております。

そのほか主な経費といたしましては、幼稚園の運営に必要な事業費のほか、送迎バスの運転業務を中心とした委託料や管理備品の購入に係るものとなっております。

主な財源は、預かり保育に係る国県支出金とふるさと創生基金繰入金となっております。

以上、総務課の説明とさせていただきます。よろしくお願いします。

○木下順一委員長 説明は終わりました。

272ページ総括から278ページまで、教委総務課の全事業についてご質疑はございませんか。

倉田委員。

○倉田正義委員 途中の辺りでもよろしいでしょうか。

○木下順一委員長 はい、この中で。

○倉田正義委員 よろしくお願ひします。

274、275にも係つてくる管理業務、小中の管理業務について確認をお願いしたいと思います。

小学校については予算現額が8,348万円、それから決算額8,067万円ということで、約300万円ほどの残ということ。それから、中学校についても同様に500万円ほどの残という形がここから見えるのですが、学校内の設備等に関わる修繕、これらについて年度内に完了しているというふうに捉えていいのかどうかということなんですが、このあたりについてご説明いただければと思います。

○木下順一委員長 天田係長。

○天田係長 教育委員会総務課の天田です。どうぞよろしくお願ひいたします。

小学校管理業務、また中学校管理業務におけるこの予算の執行残につきましては、主には、小学校については浄化槽の保守点検業務の委託料が予定より下回ったこと、また、各小学校で使っておりますコピー使用料が

見込みを下回ったというところが主な要因となっております。

中学校管理業務につきましても、光熱水費として計上しておりました予算が見込みを下回ったこと、また鳥羽東中学校で運行しておりますスクールバス、休日に走らせている部分になりますが、この運行回数が見込みを下回ったということが予算残の主な要因となっております。

委員ご質問の各学校の施設の修繕に関しましては、予算で計上させていただいた予算を活用させていただいて必要な修繕を最大限行ってきたというふうに考えております。

以上です。

○木下順一委員長 倉田委員。

○倉田正義委員 最大限行われたということですが、完了していないというような事案も、完全に終わっていないというような事案もあるということでしょうか。よろしくお願ひします。

○木下順一委員長 天田係長。

○天田係長 各学校の施設につきましては、老朽化が進んでいる施設もありまして、日々学校から連絡があり、不具合が出てきているとか、例えば先日の雨、大雨の中でも、雨漏りですとかそういったことがあるとかいうことが日々発生しているような状況にありますので、年度予算、修繕料の中ですべての修繕が完了するということはなかなか難しいかなというふうにも思っております。また、その辺については、随時学校と情報共有させていただきながら、必要な修繕を行っていきたいというふうに考えております。

○木下順一委員長 倉田委員。

○倉田正義委員 引き続き、対応よろしくお願ひしたいと思います。

一学校から、令和6年度内にブロック塀、コンクリート塀が破損して、子供たちの安全・安心に関わる部分ということで早急な工事をお願いしたという話を昨年度末に聞いておったのですが、現状復旧工事が行われておりません。もう1年近くたつてくるのかなと思うのですが、安全・安心に関わる部分だと思うので早期な対応をいただく必要のあることかなと思うんですが、そのあたりどのような見解でしょうか。

○木下順一委員長 山本課長。

○山本教委総務課長 どこの学校のどんなものでしょうか。

○木下順一委員長 倉田委員。

○倉田正義委員 具体的に申し上げて、加茂小学校の児童昇降口前のコンクリート塀です。

○木下順一委員長 天田係長。

○天田係長 加茂小学校の昇降口前の低いブロック塀かと思われますが、一部劣化して爆裂しているというか破損しているという状況は把握しております。今年度予算の修繕においてそこは対応する予定としております。

以上です。

○木下順一委員長 倉田委員。

○倉田正義委員 対応いただけるということでお聞きしました。1年近くたつてくるのかなと、あの状況がと思いますもんで、予算等もあるかと思いますが、安全な部分ということで、子供たちが一番、通学、校舎へ入る入り口付近ですもんで、そういう事案にまた対しましては引き続き対応をよろしくお願ひします。

以上です。

○木下順一委員長 関連ございますか。

(「関連で」の声あり)

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 倉田委員からいろいろ質問をしていただき、私もちょっと一番気になるのは、東中学校というのは今大規模改修でやっとるということで、ほかのへき複に関係する学校等、離島も含めて要望等がすごくある中で、小規模修繕についてはなかなか各学校は少ないということで、今この決算書では工事請負費で大きなところだけ上がったんですけども、小規模修繕に耐えられるような要望に関してはまだまだ数多くあって、なかなか対応できていないという話をよく聞かさせていただきました。

教育委員会としても、市のほうにしっかりと要望して予算取りをしていくべきやないかなというのはつくづく感じておって、毎年毎年積み残しがあるようなことも聞いておりますので、その辺の対応についてどうしているかということをお聞きいたします。

○木下順一委員長 山本課長。

○山本教委総務課長 私も、南川委員と離島の学校訪問に行かせてもらっています。私は3年前にも学校総務課長をやっておりましたので、その時分と変わらないところもございます。それは理解しておりますが、その中で毎年毎年緊急的なものが先に出てくるというところもありまして、そちらを優先させて工事を進めておるのが現状です。全体的な老朽化の中で大規模的なものをやる形が取れれば一番いいんですけども、なかなかそこまで予算が追いついていないところもありまして届いていないところがあるように思っております。また、今年、来年度予算に向けて、今年の予算も含めてですけれども、来年度予算に向けて要望して実現していくたいなと思っております。

以上です。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 担当課としては要望していきたいということですね。

教育長、実際の状況というのは、一番学校の状況は分かってもらっとると思います。そういう修繕の箇所というのはすごくあって要望も上がつるということで、しっかりと行政当局にも予算取りというのはしていくいかんかんなというふうに私は本当に思っております。教育長のちょっと判断だけお聞きします。

○木下順一委員長 教育長。

○岩本教育長 議員御指摘のとおり、私も学校現場にいるときには幾つか要望をさせていただきながら、実現できたものとそうでなかつたものもあるのも事実でございますので、学校現場の声もしっかりと聞きながら行政当局のほうには要望を上げていって、子供たちの安全・安心をまずは第一に考えて今後対応できるところから進めていきたいと、そんなふうに考えております。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 教育長言われたように、子供たちの安全・安心、一番大事なところですので、ぜひそういったところも含めてしっかりと要望いただきたいなと思います。

以上です。

○木下順一委員長 関連ございますか。

なければ、違う事業についてでもよろしいです。

五十嵐委員。

○五十嵐ちひろ委員 ここに書いていなかつたんですけれども、たしかか去年、昨年度総務課さんのはうで学校の再編について答志のほうに結構アンケートをやってもらったりとか、保護者との懇談会を開いていただいたりとかしていたかと思うんですけども、そのことについてちょっと説明していただけたらと思います。

○木下順一委員長 山本課長。

○山本教委総務課長 五十嵐委員言われるように、昨年度も答志中学校の統合について懇談会に行かせてもらっています。その経過については今回上げておりませんけれども、結果としましては、今の統合計画の期間の中でもまた再考するというような結論になっておりますし、また、新しい統合計画をつくるときにそのことも含めて検討を進めるということで、地元のほうと話をした結果として聞いております。

以上です。

○木下順一委員長 五十嵐委員。

○五十嵐ちひろ委員 ありがとうございます。

実際に当事者となる人たちがすごく少ないとではあるんですけども、だからこそしっかりと話合いができるかなとも思いますので、保護者と、そして実際に通う児童・生徒が納得感あるような形で進めさせていただければなと思います。

以上です。

○木下順一委員長 他にございませんか。

尾崎委員。

○尾崎 幹委員 幼稚園管理業務、園児が24人で、預かり保育が21人、預かり保育の状況をちょっと教えてください。

○木下順一委員長 寺本課長補佐。

○寺本課長補佐 教育委員会総務課の寺本です。よろしくお願ひします。

預かり保育は、令和5年が、登録園児が20人に対し利用者数は1,598人でした。令和6年が、登録園児が21人に対し利用者数が1,898人ということで300人の増加ということになっております。

以上です。

○木下順一委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 これは預かり保育の内容としては、数字としてはそうですけれども、内容としては、保育事業が終わった後のみだ預かりがあるという考え方でよろしいんですか。

○木下順一委員長 寺本課長補佐。

○寺本課長補佐 そのとおりです。

○木下順一委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 何時まで最高預かるんですか、今。

○木下順一委員長 寺本課長補佐。

○寺本課長補佐 4時までとなっております。

○木下順一委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 この支援員2人を配置してもうた流れというのは、そのカバーをしていただきとると考えていいんですか。それはまた違う話ですか。

○木下順一委員長 寺本課長補佐。

○寺本課長補佐 支援員は支援が必要な児童のために配置しておりますので、預かりはまたちょっと別の形になっております。

○木下順一委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 やっぱり4時まで預かるということは、先生らの負担はやっぱり大きくなつてませんか。というのは、今言わたしたようなちょっと問題のある子なんかどうか分かりませんけれども、そういう方々の支援として先生らの負担が大きくなつてへんかなというのが見受けられるもんで聞いとるんです。どうでしょうか、先生らは大丈夫ですか。

○木下順一委員長 寺本課長補佐。

○寺本課長補佐 現在のところ職員の方で協力してやってはいただいているんですけども、今後ちょっと人数も増えておりますので、いろいろな方面から状況については検討していきたいと思っております。

○木下順一委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 6年度は先生らの有給はしっかりと取られていますか。順調よくいっとるならば有給ね、しっかりと取っていただいてやっとるということで理解していいんですか。

○木下順一委員長 寺本課長補佐。

○寺本課長補佐 夏休みと年次有給休暇は、必要に応じて取っていただいている状況です。

○木下順一委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 最後に。有給確率何パーセント、取得確率、先生らの。

○木下順一委員長 寺本課長補佐。

○寺本課長補佐 すみません、ちょっとそこまで把握しておりませんので、また後で回答いたします。

○尾崎 幹委員 また後で教えて。ありがとうございます。

以上です。

○木下順一委員長 他にございませんか。

南川委員。

○南川則之委員 幼稚園管理業務というところで関連でお聞きします。

今、かもめ幼稚園、園長先生、会計年度の任用、職員がそのまま上がっていくかずに会計年度の任用の延長ということで、私もちよつと不安なところがあつたんですけども、本当にしっかりと対応していただいとつて、本当に園が活性化されて保護者の評判もいいというような話を聞いておりますけれども、教育長、その辺の今の園長の働きぶりというんですか、どういう評価をされているかちょっとお聞きしたいなと思います。

○木下順一委員長 教育長。

○岩本教育長 委員も言われましたように、現在の園長につきましては、すごく子供たちのためにしっかりとやっているといふうに感じております。特に小中学校での経験がございますので、そういった視点

から、今文部科学省が進めております架け橋プログラムというような就学前と小学校低学年をつないでいくようなそういう取組についても、積極的に取り組んでいただいているということで大変ありがたく思っているところでございます。

以上です。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 令和6年度から、以前からずっとやられていただいて、本当に教育長言われたように一番大事な小学校とのつながりというんですか、継続したつながりって一番子供たちにとって重要なところということで、そこをしっかりとサポートいただきたいとなるということで、今教育長が言われた小中の経験もある人がやっていただきたいとなるということで、私も本当に評価をしたいと思いますし、こういった見習える先生がおるうちにいろんな若い人がそれを見習っていいところを吸収して、またそういう園長になるような人も育成していただきたいなと思いますのでよろしくお願ひします。

以上です。

○木下順一委員長 他にございませんか。

(「なし」の声あり)

○木下順一委員長 ご質疑もないようですので、説明員交代のため暫時休憩します。

(午後 1時24分 休憩)

(午後 1時28分 再開)

○木下順一委員長 休憩前に引き続き会議を再開します。

続いて、学校教育課の決算成果について、担当課の説明を求めます。

学校教育課長。

○小林学校教育課長 学校教育課、小林です。よろしくお願ひします。

学校教育課が実施しました事業につきまして説明いたします。

決算成果説明書は279ページをご覧ください。

総括といしまして、学校教育課では外国語教育やICT教育の推進、児童・生徒の学力向上、海洋教育や郷土学習の充実など、子供たちの未来の礎となる教育施策を展開し、学校運営協議会やコミュニティスクール・ディレクターの配置を通じて地域と共にある学校づくりの推進を図りました。

さらに、経済的・地理的な要因に配慮し、必要な補助や扶助を行うとともに、学校給食における食材価格の高騰が児童・生徒や保護者に影響を及ぼさないよう、献立の工夫や食材の計画的な購入を行い、全ての児童・生徒が等しく就学できる環境の整備に努めました。

新たに実施した事業といしましては、市制施行70周年記念事業として、小学生以下の子供を対象にイルカ島での写生会を開催しました。また、海洋教育推進事業において、パラオ共和国に中学生を派遣するとともに、小学生を対象とした特別記念講演を開催しました。さらに、小中学校の2月及び3月分の給食費を無償化しました。

予算を伴わない事業につきましては、給食献立について協議、検討を行うとともに、食育の推進及び地産地

消の推進を図るため、毎月給食調整会議を開催しました。また、中学3年生の高校進学に係る修学支援として、御木本奨学金及び西村百合子奨学金の申請、交付等の事務手続に協力し、経済的支援を通じた進学支援に努めました。

それでは、個々の事業につきましてご説明いたします。

279ページ下段をお願いします。

9款教育費、1項教育総務費、目2事務局費につきましては、予算現額522万円、決算額は456万8,000円となります。

280ページ上段をお願いします。

目3教育振興費につきましては、予算現額7,082万7,000円、決算額は6,698万4,000円となります。

主な項目について説明いたします。

280ページ中段から281ページ上段、教育支援事業につきましては、予算現額1,817万1,000円、決算額は1,710万4,000円となります。

様々な理由により不登校など学校生活に悩みを持つ児童・生徒の実態に即した指導や支援を行い、児童・生徒へ生活指導や学習支援を行いました。相談の状況につきましては記載のとおりとなっております。また、小中学校への入学並びに中学校卒業生306名を対象に新入生等応援金を支給しました。

281ページ中段、外国語教育推進事業につきましては、予算現額1,605万8,000円、決算額は1,575万9,000円となります。

かもめ幼稚園及び市内小中学校にALT3名を派遣し、外国語や外国文化、生活に触れる機会を提供し、子供たちのコミュニケーション能力の向上と国際理解を深めるための教育を推進しました。

また、児童・生徒の英語への興味関心を引き出し、目標を持って取り組むことができるよう、英検ジュニア及び英語検定について公費による受験を実施しました。令和5年度まで小学6年生を対象としていた英検ジュニアを小学5年生が受験し、小学6年生は英検5級を受験しました。市内の小学5年生、6年生と中学2年生については全員が受験、中学1年生、中学3年生は希望者による受験となり、中学3年生で英検3級相当の力があると思われる生徒については、令和6年度は50%でした。

282ページから283ページ上段、教育振興事業につきましては、予算現額2,469万7,000円、決算額は2,407万2,000円となります。

学校運営協議会やコミュニティスクール・ディレクターの配置を5校に増やし、地域と共にある学校づくりの推進を図りました。また、令和6年度小学校教科書改訂に伴う教師用小学校教科書及び指導書の購入費のほか、市制施行70周年記念事業として、保護者世代には懐かしく、子供たちには楽しい思い出になる機会となるよう、イルカ島写生会を開催しました。

284ページ中段、海洋教育推進事業につきましては、予算現額502万3,000円、決算額は365万8,000円となります。

各小中学校において、海に関する校外学習や郷土学習を取り入れた海洋教育カリキュラムを活用し、学習拠点、研究拠点、生活拠点との連携を図り、関係機関への訪問や海環境体験学芸員を招いた出前事業などを実施

し、海洋教育の推進に取り組みました。

また、交流事業や体験活動を通して国際的な視野を広げるとともに、海洋教育に関する課題を共有し、グローバルな視点で学ぶ機会を創出するため、多くの共通点を持つパラオ共和国に中学生2名と引率者1名を派遣しました。令和5年度から志摩市がパラオへの中学校派遣事業を実施しており、志摩市と同行しました。派遣前には準備学習会を6回開催し、派遣時には現地の学校との交流や大使館訪問、各施設への見学などを実施し、10月には成果報告会を行いました。

また、11月には、市内小学生を対象として市制施行70周年記念特別記念講演「一緒に海のこと考えよう」を開催し、鳥羽の海や環境などにより一層魅力を感じ、学びを進める機会を創出しました。

続きまして、285ページ上段をお願いします。

2項小学校費、目1学校管理費につきましては、予算現額3,280万4,000円、決算額は3,047万4,000円となります。

同ページ下段をお願いします。

目2教育振興費につきましては、予算現額2,162万9,000円、決算額は1,960万7,000円となります。

主な項目について説明いたします。

287ページ上段をお願いします。

活力ある学校づくり推進事業につきましては、予算現額222万9,000円、決算額183万2,000円となります。

市内各小学校では、地域と連携した体験や地域を学ぶ取組を行うなど特色ある学校教育活動を実践することにより、児童の活力を引き出し、地域と共にある学校づくりの推進を行いました。各小学校の主な活動内容については記載のとおりです。

288ページ中段をお願いします。

3項中学校費、目1学校管理費につきましては、予算現額1,087万8,000円、決算額は999万8,000円となります。

289ページ上段をお願いします。

目2教育振興費につきましては、予算現額2,116万円、決算額は1,833万5,000円となります。

主な項目について説明いたします。

290ページ中段をお願いします。

活力ある学校づくり推進事業につきましては、予算現額159万9,000円、決算額141万6,000円となります。

小学校と同様に市内各中学校では、地域と連携した体験や地域を学ぶ取組を行うなど、特色ある学校教育活動を実践することにより、生徒の活力を引き出し、地域と共にある学校づくりの推進を行いました。各中学校の主な活動内容については記載のとおりです。

291ページ下段をお願いします。

6項保健体育費、目2保健体育振興費につきましては、予算現額1,566万2,000円、決算額は

1,526万3,000円となります。

292ページ上段をお願いします。

小中学校（園）保健振興事業につきましては、学校保健安全法に基づき、園児、児童・生徒及び教職員の健康保持と増進を図るため、各機関の協力のもと、健康診断、各種検査を行いました。また、学校生活において子供たちが安全・安心な環境の下学びの充実を図ることができるよう、必要な備品や消耗品を購入しました。

292ページ下段をお願いします。

目4学校給食費につきましては、予算現額1億1,938万2,000円、決算額は1億1,444万1,000円となります。

293ページ、学校給食運営事業につきましては、学校給食法に基づき、児童・生徒の心身の健全な発達を目的とし、栄養バランスの取れた学校給食を提供し、食育の推進を図りました。令和6年度も2学期3学期の2回、自然豊かな鳥羽のよさを通じて鳥羽を愛する心を育むために、「鳥羽が好きふるさと給食」を実施しました。

また、経済的な理由により就学が困難な児童・生徒の保護者に対し、学校給食の援助を行い、給食食材の高騰に伴う賄い材料費については、児童・生徒や保護者に影響が及ばないように対応するとともに、小中学校の2月及び3月分の給食費を無償化しました。

主な経費といたしましては、高熱水費997万2,000円、各調理場の学校給食調理業務委託6,085万7,000円、中央共同調理場給食配送車購入734万6,000円、準要保護児童生徒就学援助費の給食費819万6,000円となります。

以上、長くなりましたが、学校教育課の説明とさせていただきます。ご審議のほどよろしくお願ひいたします。

○木下順一委員長 説明は終わりました。

ページをちょっと指定させていただきます。279ページ総括から284ページ下段、学校安全総合支援事業までの範囲でご質疑はございませんか。

尾崎委員。

○尾崎 幹委員 280ページ、教育支援事業。これは相談状況という部分を見させてもうて、不登校が令和5年度と6年度比べると2.6倍、これはもうネット、不登校の要因、原因は何なん、こんだけ増えた2.6倍に急に。

○木下順一委員長 小林課長。

○小林学校教育課長 令和6年度のみ急に不登校の数がぐっと増えて、また今年度は少しこれが減っているんですけども、人間関係という部分と、あと中学生ですと学力不振といった部分が大きいんですけども、実際のところ、不登校の子たちは何が原因か分からぬといふところが本当に本音といふところです。

以上です。

○木下順一委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 ネットが原因という部分もありますので、それで一遍相談に行ってますよ、おたくへ。そこら辺ちょっと危惧せないかん数字かななど。やっぱり2.6倍になってくると学校教育の中身の問題でそれが出

てくる、温度差が出る。ないように努めてくれと言うても、出てけえへんならそれまでやもんで。ここら辺やっぱり原因を追求、追求までしいへんけれども、把握してもうて、ちょっとでも改善してもらえればええかなと思っていますので。

次いっていいですか。同じように。

○木下順一委員長 ちょっとお待ちください。関連ですか。

(「関連で」の声あり)

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 同じところなんですけれども、非常に中学生のところ、小学生も増えています。対応のところ、個別面談が。今おっしゃった中で中学生がという話がありましたけれども、今どのような体制でどういうふうに対処したかというのは分かりますでしょうか。

○木下順一委員長 小林課長。

○小林学校教育課長 まず、体制としましては、長岡方面ですとながおか教室、鳥羽方面ですと教育支援センターHARPというところで不登校の対応を主に行っております。ながおか教室は、心の教室相談員2名を配置して対応しておりました。教育支援センターHARPにつきましては、研修員が1名と会計年度任用職員になるんですか、心の教室相談員として1名を配置して、会計年度任用職員も途中からでしたか、配置しました。あと、臨床心理士の方も配置しております。

どのような対応というのは、まずは、不登校児童・生徒でしたので、家からそれぞれの施設に出てくるといったところが主な目的というか、まず第一歩で、そこでは何か強制するわけではなくて、その子がやりたいことを尊重しながら、学校復帰を第一とはするのではなくて社会的自立に向けて取組を進めてきたというところになっております。

以上です。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 ありがとうございます。

今ながおかとHARPと両方でやっていただいているけれども、こんだけ数が増えて対応が増えてくると、僕心配しているのは、人が足らんからといって済んでしまうとすごく危険な状態があると思うので、こういうところというのは、今の現状も含めて体制ももう一回見直していただきたいなというのと、その中から改善、年度内に改善されたということというのがあったんでしょうか。

○木下順一委員長 小林課長。

○小林学校教育課長 年度途中に学校復帰をした児童・生徒もいます。

以上です。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 ありがとうございます。

非常にデリケートで難しい、対応する方も疲れると思うんです。僕もちょっと経験がある、自分で担当した経験があるので。非常にこのところというのは、その子だけではなくて、家庭環境とかもいろんなことも含めて対応が多岐にわたってくるのですごくマンパワーがいる状況で、この一人の人が対応するというわけじゃ

なくて、ちゃんとチームとして、いろんな教育委員会も含めて多岐にわたって連携していく必要があると思うんですけども、そういうような連携とか共有体制というのはできているんでしょうか。

○木下順一委員長 小林課長。

○小林学校教育課長 不登校児童・生徒は、その時々によって増えたり減ったりしますので、昨年度で言いますと、ながおか教室の職員がHAR Pへ行っていたり、あと、教育委員会の中でも教員出身の方も何名かいますのでそちらの方も行っていただいたり、ときには教育長も行っていただいたりという形で、必要に応じて増員しながら対応してまいりました。

以上です。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 ありがとうございます。

それと、家庭の事情とかもいろいろ関わってきたりとか、家族を巻き込んで大変なことになってくるときがあるんです。お子さんだけじゃなくてそれに関わってですね。そういうところも健康福祉課であったりとかケース会議であったりとかというところとも、しっかりとまた共有しながらやっていただきたいなと。改善された、今年度はちょっと減ったということはありますんで。ただ、これはゼロになることはほとんどないと思うので引き続き、もし体制がもっと必要であれば、そういうところも予算で増額していただくようにまた検討していただきたいなと思います。

以上です。

○木下順一委員長 教育支援事業で関連ございますか。

(発言する者なし)

○木下順一委員長 ないようでしたら、違う事業、284ページ下段まで。

尾崎委員。

○尾崎 幹委員 281ページ、外国語教育推進事業。今の市長が24年前に青山小学校へ一緒に視察に行ってから、英語教育は必要やということで25年ぐらいたってやっとこの状況ですよね。

ただ、ちょっと聞きたいのは、この英語教育の議論の中に金融教育推進事業というのがもう始まっています、そういう議論はないですか。英語教育と同時に金融教育が進んでいまして、ほんで、やっぱり東京のほうでは、一部の学校ですけれども、金融教育を小学校からしています。というのは、5教科がどんどん減っていくと思います、今後。文科省も議論しとるように。その中で金融教育の推進事業というのは話に出ました。

○木下順一委員長 小林課長。

○小林学校教育課長 具体的に話は出ているわけではありませんけれども、各小学校、租税教室であったりとかという部分で金融教育の入り口というような形で実施はしております。

以上です。

○木下順一委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 やっぱり金融教育は義務化されてくると思います。それでなくとも、現金持たない社会がもう15年先には来るような話が出ています。その中でやっぱり小学校から金融教育、もうこれは必須になってくると思いますので、今後、英語教育と同時に進めてもらえればありがたいと思っていますので、これは要望し

とります。

以上です。

(「関連で」の声あり)

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 すみません、関連でお願いします。

中学校3年生で現時点で3級取得率って50%ってすごいと思うんです。目標って、もともとどれぐらいに設定されていたのかってあるんでしょうか。

○木下順一委員長 小林課長。

○小林学校教育課長 目標は今年度で60%です。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 高い目標設定だと思います。これ、半分取得している3級50%だけでもすごいと思うんですけれども、目的のところのところというのは、これは外国語を公費で使ってやっている、取ってもらったというところであるんですけども、英検のところは興味関心だとは思うんですけども、本来のこの外国語教育の推進事業の中に、他文化に触れてというのとコミュニケーション能力の向上というところにつなげたいということがあったと思うんですね、国際理解を深めると。それにつながるようなコミュニケーション能力にこれを生かせるようなところというのは何か事業として展開されたことってございましたでしょうか、昨年度。

○木下順一委員長 小林課長。

○小林学校教育課長 モデル校としてまず指定しているのと、あとは、イングリッシュデイということで半日ですけれども、英語漬けの1日を過ごしてもらうという、去年は安楽島小学校で実施はしました。

以上です。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 そのときの状況とか様子とか、その後、感想とかって聞かれましたでしょうか。

○木下順一委員長 小林課長。

○小林学校教育課長 イングリッシュデイが大きな取組になるんですけども、実際自分のほうも行かさしていただきましたので、子供たちは、自分たちが住んでいるお店とか何か紹介したいものをプレゼンテーションでみんなに発表しているような感じでした。この議員さんの中も実際来ていただいていたかと思いましたけども、そんな中で子供たちは、英語で自分の思いを伝えた、伝わったときの喜びというようなことを実感しておりました。

以上です。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 これはせっかく取ることも意味があるかもわかりませんけども、取ってそれを活用するということは非常にさらに大事やと思うんです。コミュニケーション能力を高めるためのイングリッシュデイを使っていただきましたけども、もっとそういう機会を有効活用しながらどんどん増やしながら、本当にそれが生かされるようにふだんからも使って、ずっと使えるような感じでもいいかなと思いますので、そういうことも含めて今後検討していただきたいなと思います。すごく評価はしていますんで。

○木下順一委員長 教育長。

○岩本教育長 今の外国語教育推進事業につきまして、中学校3年生の英検3級相当の取得は50%という話で、7年度の目標は課長のほうから60%ということでしたけれども、文部科学省が英検3級相当中学校卒業時につきましては、目標にしているのは50%でございますので、文部科学省の求めているところに鳥羽市が今並んでいるというか、さらにその上を行くための60%を目指して昨年度の状況を踏まえて、今年度取組をしているところでもございます。

先ほど議員も言っていただきましたような学んだことを次生かしていく、そういう部分につきましては、昨年の反省等も含めて、一般質問でもお答えをさせていただいたような新たな活動も今年度計画をしているところでありますので、今後とも様々な形で学んだことをしっかりと生かす、実践に生かしていくようなそんな取組を進めたいといふうに考えております。

(「委員長、関連よろしいですか」の声あり)

○木下順一委員長 濑崎委員。

○瀬崎伸一委員 ちょっと視点を変えてお聞きいたします。

中学校へ入って英検を受けられると、中学校に入ると、多分高校の受験とかいわゆるテスト用の英語みたいな意識が出てくる年代かなと思われる中で、中学生の全員がこの英検を、希望者のところもありましたよね。全員が受けとるわけでもない中やとは思うんですけれども、端的に言うと、子供らにとったらテストの勉強のほうが大事なのに、何か余分に英検というものをつけられている感というのを若干受けたりするんですけれども、何かそういう子供らの反応というんですか、受けている子たちの、ここそこ何年か続けてきていただいていると思うんで、反応みたいなのはデータとして持たれているんじゃないのかなと思ってお聞きするんですけども、英検を受けている、鳥羽市が推進をしている、この英語教育として推進している英検を受験することを子供たちはどう受け取つとるかというような、生の声のようなものは何かデータはありますか。

○木下順一委員長 小林課長。

○小林学校教育課長 特に、何かその部分に特化したデータというのは取ってはおりません。

以上です。

○木下順一委員長 濑崎委員。

○瀬崎伸一委員 すみません、決算であまりお金のことに関わってこないことになってしまふんですけども、ぜひその声を1回聞いてほしいなと思うんです。子供らにとったら、結構学校の勉強で追われている感というのもある中で、余分に市がやるから入れてきたというような、押しつけられている感というのが若干渦巻いている気がするんで、そういうのってあまりあると、せっかくいいことをやっていても子供の吸収力が足らんかなと思うにならんかな、身のためにならんかなと思うんで。せっかくやられていること、いいことだとは思うんで、合格率も大事かもわからんし、英語の能力を判定するのは英検なのかもわからんけれども、この子にとったら別に必要のないと感じる子もおるかもわからんもんで、ちょっとその辺の取り残さないようなきめ細やかなところが欲しいなというのが思いですけれども、教育長、いかがですかね。

○木下順一委員長 教育長。

○岩本教育長 今委員が言わいたいわゆる受験に向けての中学校、中学生が学ぶ英語というものと、今、こちら

で求めているコミュニケーション能力という部分については、若干違いがあるところは否めないかなというふうには考えておりますが、英検の学習をしたことで受験の勉強にもつながる部分は当然ありますし、学んだことをどう生かすか、どう実践に生かすか、先ほども申しましたように、そういう形で英語検定をしっかりと体験するというか、積み上げていくのが一つと、逆には、先ほど濱口委員からも御指摘いただきましたけれども、どういう部分で活用していくかです。実践していく場を積み重ねることによって、もっと英語を学びたい、もっとしやべれるように、もっとコミュニケーションを図りたい、だから学ぶんだというところの両方の車輪というか、回していくって、いい形で英語教育を進めていくと、将来子供たちにとって受験も大事ですが、いざ現場の社会へ出たときに海外の方、特に鳥羽で生活していく子供たちであれば、インバウンドでたくさんの子供、外国の方も見えますので、そういう方々とコミュニケーションを図れたり、また、将来的に鳥羽で働く場合には海外の方とコミュニケーションが図れる、そんな子供たちが鳥羽の中でどんどん増えていってほしいと、そんな思いを持ちながら、今教育委員会としては英語教育を中心に力を入れて取り組んでいるところですので、様々な視点のことを考えながら、今後も指摘いただきましたようなことは十分考慮もしながら、英語教育に取り組んでいきたいというふうに考えております。

○木下順一委員長 濱崎委員。

○濱崎伸一委員 ありがとうございます。

ぜひ受験して失敗したとかという、この子たちにとったら、結構何というの、挫折感みたいなものを感じるところがあつて、それがきっかけで、本来コミュニケーションのためのツール、言語なんていいうようなものはツールでしかないものが、何か違うもんやと思ってしまった取り残された感を感じている子も実際、ごめんなさい、私耳に届いていますもんで、ちょっとそこら辺をもしよかつたら取りこぼさないように、コミュニケーションのツールだよと、あなたの世界を広げるんだよという本来求めたいところをもう一度徹底して、特に中学生だと思います。やってあげていただきたいなと思います。よろしくお願ひいたします。

○木下順一委員長 外国語教育推進事業について、ご質疑はないもの、ない。

(「なし」の声あり)

○木下順一委員長 その他の項目、284ページまで。

五十嵐委員。

○五十嵐ちひろ委員 283ページの学校図書館整備事業について伺います。

学校図書館に司書の人が入っていただいていると思うんですけども、こちらについて学校のほうとか、あと児童・生徒、保護者からの反応というのはどうでしょうか。

○木下順一委員長 小林課長。

○小林学校教育課長 学校のほうの反応としては、非常にいい反応をいただいております。また、児童・生徒のほうからもいい反応はいただいていると思います。

以上です

○木下順一委員長 五十嵐委員。

○五十嵐ちひろ委員 私も学校訪問を一緒にさせていただいたときにそのように先生方がおっしゃっていて、私もすごくいいと思うんですね。今本当に子供たちは本を読む機会がどんどん減っていると思います。大人も、

やっぱりスマホにかける時間のほうがどんどん多くなって本を読む時間が少なくなっているという中で、やはり読解力が低くなってしまう、それはひいてはコミュニケーション能力の低下にもつながるというのはもう明らかなんですね。この先子供たちが大人になっていく過程で、やっぱり人間関係とかに悩んだりするときがあるっても、本を読んでたことがきっと助けになることがあったりするでしょうし、やっぱり相手の気持ちを読み取る能力とかにも本当に影響してくることなんですよ。なので、そういうところで本を読む機会、本への興味を持たせる機会を持たせてくれる最後のとりでだと思いますので、学校の図書館というのは、しっかりその機能を守っていただきたいなと思います。

○木下順一委員長 小林課長。

○小林学校教育課長 実際にいろんなイベントも打っていただいて、スタンプラリーであるとか、4月ですと健康観察、健康診断の時期になりますので、人と体とかという特設コーナーですとか、6月梅雨時期ですとか、雨に関するような特設コーナーというのをいろいろやっていたりして、子供たちは特にスタンプラリーのときは、読む本、貸出冊数がぐっと増えるんですけれども、そうやってこういろいろなイベントを打ちながらめり張りをつけながら、子供たちに読書を推進していけたらなと思っております。

以上です。

○木下順一委員長 他にございませんか。

南川委員。

○南川則之委員 284ページの海洋教育推進事業というところでお願いします。

午前中に観光商工課のほうのところで地域課題の解決というところで、この海洋教育の重要性というんですか、子供たちのこういうことを進めることによって、将来の定住につながるとか定住意欲に影響を与えるというようなことの話がありました。学校全体としては、ばらつきのないようにしっかりとそういった海洋教育を進めもらったほうがいいという話があったんですけれども、教育委員会としてこの海洋教育推進事業、ずっと令和6年度も続けて進めていただいているんですけれども、この重要性というんですか、どういうふうに認識してあるか教えてください。

○木下順一委員長 小林課長。

○小林学校教育課長 海洋教育は、英語教育と並んで教育委員会の二本柱の一つということで非常に重要なと捉えております。

また、鳥羽市は海に非常に接している地域がほとんどですので関連性も非常に強く、職業も海に関する職業に就いている方もたくさんいらっしゃいますので、地域の愛着といった部分でも、観光商工課さんのところでもあったように、鳥羽の海をしっかりと知って、鳥羽に住み続けたいというような子供たちを育てていければなと思っております。

以上です。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 ありがとうございます。

各課連携して、こういった子供たちの海洋教育をしっかりと進めていただきたいなと思います。

以上です。

(「ちょっと戻って1点だけすみません」の声あり)

○木下順一委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 282ページのイルカ島写生大会。これ、70周年でやっただけですか。懐かしいとか保護者、書いてあるもんで。昔は授業の一環として僕らはやってきたんさな。これはもうこれでおしまいなんですか、ずっと続けるんですか。

○木下順一委員長 小林課長。

○小林学校教育課長 これは1回きりです。

以上です。

○木下順一委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 ないんですね。はい、了解。

○木下順一委員長 他にございませんか。

(発言する者なし)

○木下順一委員長 ご質疑もないようですので、続いて、285ページ小学校管理業務から293ページ学校給食運営事業までの範囲でご質疑はございませんか。

倉田委員。

○倉田正義委員 先のほどの話とも関連しますので、最後のところへ飛びますが、お願ひします。293、学校給食運営事業、これについてお願ひします。

3段目、年2回（10月・2月）、児童生徒が「自然豊かな鳥羽」の良さを再認識した、「鳥羽が好きふるさと給食」、これは年2回でもう大分年数がたって実施されてきておると思うんですが、もう少し増やしていくてもいいのかなというイメージを持つとるんですが、いろんな鳥羽の今の先ほどの観光の話もありましたけれども、その辺も受けて教育委員会としてはどのように捉えておるかお願ひします。

○木下順一委員長 小林課長。

○小林学校教育課長 以前は3回やっていたときもあったりして、2回に落ち着いているところなんですけれども、回数が増えればそれにこしたことはないかなとは感じておりますが、なかなかいろんな事情で難しいといったところもありますね。

以上です。

○木下順一委員長 倉田委員。

○倉田正義委員 難しいところというのは、いろいろ様々な状況にもあるとか思うのですが、やることの価値のほうが高ければそれをクリアすることは大切なかなと思います。

観光商工の中でも話がありましたが、鳥羽の魚の旬、ここにも旬の食材をというふうに書いてあるんですけども、やっぱり春夏秋冬それぞれに鳥羽の特に特産物、魚、農業のものについても同様だと思うんですが、それをやっぱり季節ごとに感じる子供たち、感性も含めて鳥羽のよさを理解できる体験というのは、重なることで確かなものになると思うんです。年2回だと、これはやっぱり重ねたところというふうにはちょっと捉えにくいかなという自分では思うんですが、旬のよさ、鳥羽の1年を通してのよさが伝わるようなものにしていただければなという思いでおりますが、改めてよろしくお願いしたいと思うんですが、どうでしょうか。

○木下順一委員長 小林課長。

○小林学校教育課長 その点についても農水課さんともいろいろと、今、小浜の方に施設を造っているというようなこと也有って、その先うまく連携して提供できたらなというところも話しておるところですのでよろしくお願ひいたします。

以上です。

○木下順一委員長 倉田委員、初めての決算委員会ということもあるんですけれども、そのあたりはまた一般質問等々でやっていただけだと効果的かなと思いますのでよろしくお願ひします。

○倉田正義委員 はい、承知しました。この年度の取組を生かしてまた次へつなげていただければと思います。

よろしくお願ひします。

以上です。

○木下順一委員長 他にございませんか。

瀬崎委員。

○瀬崎伸一委員 僕も同じところです。関連になる形でちょっと聞くところは違いますが、学校給食運営事業のところで、多分トラックを買われたなと思うんです。当初予算が926万8,000円で、どこかで補正がかかったんかなと思うんですけども、1,150万9,000円かな、ちょっと増えているなというところでトラックがすごい高かったんですか、それとも何か違う備品もここに入っているんですかね。

○木下順一委員長 家田課長補佐。

○家田課長補佐 こちらの備品にはほかのものも入っておりまして、先ほど課長からも説明にもありました通り、給食配走車は734万6,000円となっております。

以上です。

○瀬崎伸一委員 あの700万円、800万円は、言える範囲で教えてください。

○木下順一委員長 家田課長補佐。

○家田課長補佐 スチームコンベクションが昨年度途中で壊れまして、そちらのほうを購入いたしております。

以上です。

○瀬崎伸一委員 なるほど。委員長、ありがとうございました。

○木下順一委員長 よろしいですか。

○瀬崎伸一委員 はい。

○木下順一委員長 他にございませんか。

(「なし」の声あり)

○木下順一委員長 ご質疑もないようです。

続いて、生涯学習課の決算成果について担当課の説明を求めます。

生涯学習課長。

○中村生涯学習課長 生涯学習課、中村です。よろしくお願ひします。

決算成果説明書の294ページをお願いします。

総括としましては、学びやスポーツ、文化活動の推進に向けて、事業の充実と施設設備に取り組みました。

社会教育関係では、三重県社会教育委員連絡協議会の南ブロック理事を務めしたことから、地域間の交流を図る研修会を開催しました。また、海の香りのする詩や市民文化祭、20歳の会などを実施し、文化活動の支援を行い、人権教育や放課後子ども教室を通じて子供たちの学びの機会を提供しました。

施設面では公民館等の維持管理、文化財事業では旧鳥羽小学校の改修などを行うとともに文化財の保全を進め、海の博物館事業では、企画展やとばっこ検定を通じた海洋教育を実施したほか、施設整備を行いました。

スポーツ分野では、パリオリンピックでのフェンシング団体銀メダルを獲得した山田選手の快挙を受け、報告会や写真展を通じて市民の関心を高めました。

図書館では、開館35周年記念イベントを通じて市民が楽しめる読書活動を推進しました。

新たな事業としましては、地球塾の講座を夏休み期間中に市内小学生を対象に実施し、地域の魅力を学ぶ機会を提供しました。また、中学校部活動の地域展開の実施に向けて関係団体との協議を進めました。

予算を伴わない取組としては、祭礼行事の動画を作成、公開したほか、小学生を対象としたとばっこ検定を実施し郷土学習を推進しております。

それでは、主な事業について説明いたします。

295ページをお願いします。

目1社会教育総務費は、予算現額4,751万4,000円、決算額は4,632万1,000円です。

296ページ下段をお願いします。

人材育成講座「地球塾」事業につきましては、予算現額3万1,000円、決算額は2万1,000円です。

地球塾では、これまで一般向けの講座として実施していましたが、初めての試みとして夏休み期間中に小学生を対象に、「ミキモト真珠島と御木本幸吉」をテーマにした特別連続講座を開催しました。また、令和5年度に作成した鳥羽歴史学習本「とばっこ探偵団」の英語版を市内中学生に配布したほか、とばっこ検定に向けた事前学習として出前講座や施設見学の活用がありました。

299ページをお願いします。

目2公民館費は、予算現額1,810万8,000円、決算額は1,761万1,000円です。

公民館維持管理事業につきましては、予算現額1,760万4,000円、決算額は1,714万7,000円です。

石鏡分館の敷地舗装改修工事、千賀分館の屋上防水工事、坂手分館の手すりつきスロープの設置、五丁目分館のエアコン更新などを行い、施設の利便性向上に努めました。

続きまして、300ページをお願いします。

目3図書館費は、予算現額4,291万4,000円、決算額は4,192万3,000円です。

図書館運営事業につきましては、予算額4,274万4,000円、決算額は4,175万3,000円です。

開館35周年記念事業として、図書館イベントに参加することで記念品を獲得できるスタンプラリーを実施するなど、市民が楽しく参加できる工夫を凝らした読書活動の推進や来館者の増加に努めました。

続きまして、302ページ中段をお願いします。

目4コミュニティ事業費は、予算減額339万9,000円、決算額は317万2,000円です。

コミュニティ維持管理事業では、菅島コミュニティアリーナの小便器取替え工事ほか4件の施設修繕を行いました。

ました。

303ページをお願いします。

目5文化財保護費は、予算現額1,488万4,000円、決算額は1,462万8,000円です。

文化財保存推進事業につきましては、予算現額960万6,000円、決算額は949万1,000円です。

旧鳥羽小学校校舎につきまして、6年度は建物中央部の外縁部の外壁改修工事を実施したほか、市内の文化財保存事業として文化財案内板の修繕工事や鳥羽城跡内の除草作業、伊良湖清白の家の板塀の設置工事を行い、保全及び活用に努めました。また、国崎の二船祭りや神島のやりましょ舟など、祭礼行事の動画を撮影・編集を行い、市ユーチューブチャンネルに公開しました。

304ページ下段をお願いします。

目6博物館費は、予算現額3,486万3,000円、決算額は3,459万円です。

305ページの博物館運営事業につきましては、年間入館者数は前年度と比較すると、修学旅行をはじめとした団体旅行受入れ数は減少したものの、国内外の個人客が増加したこともあり、前年度比644人増となりました。海女ガイド事業では、海と共に生きてきた海女文化について学びと交流の機会を創出することができました。施設面では、動力消防ポンプ設置及び給水管引込み工事を実施しました。

続きまして、同ページ下段、目1保健体育総務費は、予算現額1,981万7,000円、決算額は1,905万3,000円です。

続きまして、306ページ中段をお願いします。

目2保健体育振興費は、予算現額1,504万円、決算額は1,249万1,000円です。

生涯スポーツ振興事業は、予算現額730万1,000円、決算額は577万2,000円です。

コオーディネーショントレーニングや各種団体補助事業を通じてスポーツの推進を図りました。また、フェンシング大会では、スポーツとリサイクルへの取組を行うとともに、オリンピック選手との交流を通じて、世界の舞台で活躍する姿に直接触れる事ができる貴重な機会となりました。

308ページ下段をお願いします。

地域移行支援事業は、予算現額13万9,000円、決算額は1万4,000円です。

中学校の部活動地域展開につきまして、令和6年3月に策定した中学生世代の新たな地域クラブ活動準備・推進計画の下、部活動顧問や体育協会、スポーツ少年団などの関係団体と実施に向けた協議を行いました。

309ページ下段をお願いします。

パリ2024オリパラ推進事業は、予算現額229万3,000円、決算額は229万2,000円です。

本市出身の山田優選手がパリオリンピックのフェンシング競技に出場したことから、激励金の支給や懸垂幕を作成しました。そして、東京オリンピックに続き2大会連続のメダル獲得という快挙をたたえ、凱旋報告会や写真展を開催しました。

最後に、310ページをお願いします。

目3保健体育施設費は、予算現額5,003万1,000円、決算額は4,982万7,000円です。

運動施設管理運営事業では、指定管理者制度を活用し、市民のスポーツや文化活動に親しむ場を提供しました。環境整備としましては、移動式音響反射板やレスリングマット、メインアリーナ用カーテンを設置し、利

便性の向上、施設の安全管理に努めました。

生涯学習課の説明は以上になります。よろしくご審議いただきますようお願いいたします。

○木下順一委員長 説明は終わりました。

294ページ総括から305ページ中段、博物館運営事業までの範囲でご質疑はございませんか。

濱口委員。

○濱口正久委員 303ページの文化財保存推進事業についてお尋ねいたします。

中段ぐらいかな、市のユーチューブチャンネルで3件公開を行いましたという説明があったんですけれども、これの公開をしたと思うんですけども、この反応とかってどんな感じか分かりますでしょうか。反響とか声を聞いていますでしょうか。ユーチューブチャンネルです。

○木下順一委員長 豊田係長。

○豊田係長 生涯学習課の豊田です。よろしくお願いします。

すみません、特にユーチューブの公開にちょっとコメント欄を書きませんでしたので、見た人からの意見を見るすることはできないんですけども、特に反響が大きかったのが神島のゲーター祭りとか、やっぱり今なかなか見ることができないものに関してはたしか2,000回ぐらい再生回数があったと思いますので、そのあたりは結構関心が高いかなというふうに思っております。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 周知とかって今後も必要やと思うんですけども、とうのは、文化財の保存って現物保存だけではなくてかつてのこともありとか、こういう映像で保存するとかというところで多様化している中で、こういう市の財産ですので、こういうことをしっかりと活用していただきたいなというのが一つあるんです。

なので、こういうことも含めて最近、ここは教育委員会で文化保存されていますけれども、それを見に来られる方とか観光客で来られる方とか多様化しているんですよね。そういうのも含めて、昨年度の中で観光課も含めて何か連携について検討されたということはあったんでしょうか。

○木下順一委員長 豊田係長。

○豊田係長 以前は、坂手の棒練りという祭りがあったんで、そちらがなくなるというふうなことで、ちょっと観光課と協力して動画を撮って、今、恋する鳥羽というチャンネルのところで見られるようになっているんですけども、そういう取組などはこれまでもしております。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 そうすると、こういうようなユーチューブに限らず、文化保存に関して、例えばそういうほかの課と連携しながら検討をしていったりとかというのは昨年度はなかったんでしょうか、それ以外のところでも。

○木下順一委員長 豊田係長。

○豊田係長 祭りに関しては、特に他の課と連携とかいうのはございませんでした。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 僕全体で聞きたかったので、文化保存とか文化のことに関してとかということがあるのかなと思ったんです。それが一つ、それはそこで結構なんですけれども、それと、そ文化保存に関わっている事業費のところのこの補助金のところなんですけれども、これは今も答志文化保存会のところとか丸興山庫蔵寺、こ

れ毎年言われていると思うんですけれども、この5万円とか6万2,000円とかってすごく小額で、それを維持して、それを文化保存だけじゃなくて、そこに訪れる方がどんどん増えてくるので、僕、何とかこれをせないかんということで活動していただいていること也有って、そういうものに例えば観光課の入湯税とかいろんなものと連携しながら、そういうのを何かできないかという検討はされたのかなというふうなことで僕お聞きしたんです。

今後、これも含めて要望があるかと思うんですけれども、実際これをやっていると本当に大変な苦労やと思うんです。そういうところで、今後これを何とかしてほしいと要望があったと思うんですけれども、それに対しては検討とかはあったんでしょうか。

○木下順一委員長 豊田係長。

○豊田係長 特に答志については、毎年答志文化保存会のほうに除草作業をお願いしているんですけども、やはり高齢化とともに進んでいてなかなか難しくなってきたというふうなことはお声はいただいていまして、今月末にまた現地のほうにお邪魔してちょっと状況をお聞きして、やはり特にかなり岩屋山古墳といったああいう高い場所とかに登っていく道などは、やはりなかなかご高齢の方にはきつい作業になるかなと思いますんで、作業委託等も含めてやり方を考えていかなければいけんのかなと思っていますので、その辺はまた地元の方とも相談して検討したいと思います。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 草刈りだけじゃなく、今後そういうことも範囲を広げて、地元の方々の協力を得ながらやれる方向でしっかり協議していただきたいなと思いますのでよろしくお願ひします。

○木下順一委員長 文化財保存推進事業、関連ございますか。

(「関連で」の声あり)

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 関連で、中に書いてある伊良子清白の板塀というか外壁ですね、壊れて解体して補強工事をしたということで、付近の人聞いても文化財保存推進という意味合いからすると、もっとしっかりとした保存活動してほしいというのと、あと、運営会議についても見せるためのもうちょっと努力をしてほしいなというところがあるんですけども、このまま令和6年度の工事でもう終わっていくのか、あるいはさらに文化財保存推進事業として活用するような対策を練っていくのか、その辺をお聞きします。

○木下順一委員長 豊田係長。

○豊田係長 伊良子清白の家については、やはり築15年以上たってきて、もともとの庭の部分の桟橋についてはなかなか材料的に脆弱だったというふうなことで、昨年一気に壊れてしまいまして、大変周辺の方にもご迷惑をおかけしたんですけども、こちらについては、少しずつ様子を見ながら建物等の維持管理も含めて考えていきたいというふうに思っております。

以上です。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 答弁いただいたように、本当に建物の外壁自体がそういう脆弱というか、15年ぐらいたってから壊れてしまうような建物やったということで。本当に周りで生活しとる人とか商売をしている人、本当に

危惧しとるところで、これが文化財かなというようなことも言いながら、しっかりと見守りながら管理もしていただきとるところもありますので。もうちょっと教育委員会として文化財を保存するという意味合いからもしっかりと、伊良子清白の家として本当に価値があると私は思うんです。実際持ってきた時に携わったのも、私、当時はしていましたので、鳥羽へ誘致したというところも含めてしっかりと対応してほしいなと思うんですけども、もうちょっとその辺どうでしようかね。

○木下順一委員長 中村課長。

○中村生涯学習課長 令和9年が伊良子清白さんの生誕150周年と聞いてまして、そのことでも要望もいただいていますので、今後検討していきたいと思っています。

以上です。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 ありがとうございます。

令和9年生誕150周年ということで、ぜひその生誕に向けて価値あるような文化財にしていただきたいと思いますので、またよろしくお願ひします。

以上です。

(「関連になるか、ならへんかい」の声あり)

○木下順一委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 文化財には載ってへんのやけれども、298ページの社会教育団体補助金。鳥羽恐竜研究振興会、これは本来は議会が特別委員会をつくって、やっぱり恐竜が出てきたと、1億年以上前での。それで、本来なら文化財保全のほうの推進に1回も載ってきいへんのは、これは残した要因、知っていますよね、教育委員会。骨格が出てきて、ほいですっと置いてありますよね、まだ。県道の下にずっと松尾断層の下に入つたということで残してあるんですけども、出てきた部分が県に移管されてから、もう、どんと落ちてしまふたけれども、この保存会は残っています。残しとるということは、発掘するという予定やつたのに。この文化財推進の事業のほうでも載ってけえへんようになってきたと。

今後、教育長、やっぱり恐竜が出たというときはすごい、恐竜博までやって、香港からあの大きい文化財まで持ってきてやつたんですよ。それなら、もう骨格が三重県に移管された途端に、何というんですか、やっぱり機運が下がつてしまつて。本当は博物館を建てるという議論までしたわけですから。ここに保存会があつて、予算が毎年減っています。毎年出てから、恐竜振興会ができるから、学生らを連れて、やっぱり福井か、それと岐阜、そちらへ行ってずっと発掘させとつたわけですよね。教育の生涯学習の一環からしても、鳥羽市の何というんですか、保存するとかそんなんじゃなしに、やっぱり過去のものを消していくような流れができるんじゃないいかと。本当は、恐竜が鳥羽に博物館を造つて置いたあつたらもっと大事にしどうと思うんです。こちらはどう思つていますか。恐竜振興会がある限り、本来は松尾断層の下まで掘っていくという、本来その約束で議会としては解散しています。僕が立ち上げて僕が消してますから。何かこの振興会を残しとるだけで、もうちょっと1歩前、これも観光の目玉にもなるし、日本で初めての恐竜が出たと、それは骨格が下に入つると、そこまで推測されて置いてあるわけですけれども、どういう状況になつていますか、ここは。

○木下順一委員長 教育長。

○岩本教育長 今委員が言われましたように、確かに恐竜が見つかったとき私も覚えておりますけれども、市民体育館で大きなイベントが行われて多くの人がその骨格を見に並んでいた、そんなような大きな話題になったこと今改めて思い出したところですが、今後の在り方等につきましては、今までの経緯ももう一度おさらいもしながら研究、検討していきたいというふうに思っておりますので、またよろしくお願ひしたいというふうに思っております。

○木下順一委員長 尾崎委員、6年度決算ですので、そのあたりで。

○尾崎 幹委員 そうじゃなしに、やっぱり残してあるんやで。ここに振興会として残して、青峰山参道の化石まで今やっとるわけですよね。その目的は何かというのをおさらいしといていただきたい。ほいで、恐竜博もやったんですからね、水族館が5億円ほど出してもうて。そこまでやっぱり大体的にやったのを、先人がやつてきたことをないがしろにするような流れでは、これを残してある意味がなくなってきたよって。もうちょっとここを強化してもらうと、鳥羽の宝が本当に埋蔵されるともんが表に出たときのことを考えてください。

以上です。

○木下順一委員長 他にございませんか。

五十嵐委員。

○五十嵐ちひろ委員 302ページのブックスタートの事業なんですけれども、すみません、ちょっと私見つけられなかつたんですけども、何年からやっている事業で、財源どこからでしたか。

○木下順一委員長 清水副館長。

○清水副館長 すいません。1990年代からやっていまして、財源は一般財源となっています。

○五十嵐ちひろ委員 もう一度。聞き取りにくかったんで。

(「財源が聞こえてへんな」の声あり)

○清水副館長 財源は一般財源となっております。

○木下順一委員長 五十嵐委員。

○五十嵐ちひろ委員 ありがとうございます。

すごく少額のもので、ずっと細々と続けてこられた事業だとは思うんですけども、私自身、このブックスタートの事業で自分の子供たちが本をもらったときとてもうれしかった記憶があります。やっぱりどのタイミングで絵本を始めていいのかとかも、正直分かんない、いつになったら子供は絵本分かるか、理解できるかなとかというのがある中で、これを頂けることで、あ、もう絵本始めていいんや、分かっているか分かんなくて、分かっていないか分かんなくとも、読み聞かせしていいんやというふうに背中を押してもらえる感じになりますので、この事業はぜひ続けていただきたいと思います。

以上です。

○木下順一委員長 他にございませんか。

南川委員。

○南川則之委員 304ページの文化財収蔵展示施設運営管理費というところでお願いします。

運営管理費として鳥羽大庄屋かどやさんに、維持管理ということで運営管理費ということで支出しとるんですけども。

もともとかどやさんを改修してから何年ぐらいたつかと、あと、施設自体の管理というんですか、それは常に点検されて改修されるとのか、ちょっと教えてください。

○木下順一委員長 豊田係長。

○豊田係長 鳥羽大庄屋かどやについては、平成25年に開館しております。これまで施設の大きな修理などは特にございません。ただ、一部小修繕的なものは時々やっておりますけれども、大きな修繕としては今のところございません。

以上です。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 というと、建物自体も確認しながら、今のところ修繕、大きな修繕はしなくてもいいという理解なのか、この辺を教えてください。

○木下順一委員長 豊田係長。

○豊田係長 今のところ、建物の大きな修繕等の必要については考えておりません。ただ、時々雨漏りがしたりとかそういうふうなことはございますので、そのあたりはコーティング処理などをして対応しておるというふうな状況です。施設自体がそもそも保存会の方が大変きれいに維持していただいているので、そのところ比較的修繕が少なくて済んでいる要因かなというふうに思っております。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 ありがとうございます。

管理しとる人たちがそういったことでしっかりと管理しとるということで、先ほど担当の方からも、雨漏りがしとるというと、結構な建物の老朽化やと思いますので、ぜひ常に建物もチェックしながら大きな修繕につながらないように、管理しとるところとも協議をしながら検討していただきたいなと思います。

以上です。

○木下順一委員長 他にございませんか。305ページ中段博物館までです。よろしいですね。

(何事か発言する者あり)

○木下順一委員長 ご質疑もないようですので、続いて、305ページ下段保健体育総務業務から310ページ運動施設管理運営事業、最後までです。ご質疑はございませんか。

○木下順一委員長 瀬崎委員。

○瀬崎伸一委員 306ページの生涯スポーツ振興事業についてお伺いいたします。

当初予算書を見せていただきますと、拡充事業として展開をされた事業だと思われます。その中にオクトーバー・ラン&ウォークというのをやるよというようなことが書かれていて、これは市民体育会、ちゃう、市民運動会の代わりにやるよというような説明が若干そこであって。10万円分ぐらい、報償費から独自の賞をつけるようなことも考えていますよというような説明まであったんですけども、決算上読み取れないんですが、詳細を教えてください。

○木下順一委員長 中村課長。

○中村生涯学習課長 昨年70周年記念事業としていることで、市民にランニングやウォーキングを楽しく気軽に楽しんでもらうこと、それを通じた健康促進を図ることを目的として、オンラインでしていただく事業にな

りました。

10月に実施させていただいたて、その消耗品のほうで抽せんで20名の方に記念品を贈呈した実績はあります
が、すいません、決算説明書のほうに記載をしていなくて失念しておりました。申し訳ございません。

○木下順一委員長 濑崎委員。

○瀬崎伸一委員 ごめんなさい、細かいことで。拡充事業でしたもんで事業目標も書かれていて、令和6年度の運動施設の利用者数は、目標値としては5万3,000人を設定されていたように当初予算書は書いてあります。そこについては実は触れてあって、利用者目標が4万8,000人と書いてあるのが、これ間違いなのかなというところがちょっと気になったのと、達成はされているんですね、令和6年度は5万6,127人なん
で。実は、最終目標に書かれている5万5,000人よりも超えているんで、大いにそこは頑張っていただい
たと評価ができるところなんですね。ぜひできればリンクができる形にしていただきたかったなという思
いでした。頑張ってください。

○木下順一委員長 答弁ありますか。

中村課長。

○中村生涯学習課長 すみません。利用者目標につきましても、6年度の当初の予算の目標値とちょっと違つて
おりましてすみません。確認不足でした。申し訳ありませんでした。

○木下順一委員長 他にございませんか。

(「失礼します」の声あり)

○木下順一委員長 倉田委員。

○倉田正義委員 今の307ページ。利用者目標というところもあったんでその表についてお聞きします。

施設名、七つ上がって、六つ上がっているんですけども、武道場がここに記載されていないと思うんです。
これについてはどういう、武道振興会については令和3年3月31日に解散されて市のほうへ増与されると
かなどというふうに思うんです。その辺もお願いします。

○木下順一委員長 説明を求めます。

中村課長。

○中村生涯学習課長 重ね重ねで申し訳ありませんが、この利用者数、施設名につきまして、その当時の記載の
ものがそのままなっていた状況にありますので、7年度の決算以降は武道館のほうも記載させていただきたい
と思います。

実績としましては、武道館は令和5年度1万4,611人、令和6年度が1万4,648人となっております。

○木下順一委員長 倉田委員。

○倉田正義委員 ありがとうございます。

課内ではちゃんと統計として残されるとということで理解してよろしいですね。活動促進や施設管理の基本
的数据となると思いますので、扱いについてはどうぞよろしくお願いします。

以上です。

(「違うところいって」の声あり)

○木下順一委員長 ちょっと待ってな。関連ございますか。

(発言する者なし)

○木下順一委員長 ないようですので、ないかな、よろしい。

尾崎委員。

○尾崎 幹委員 310ページ。

その前に今の貴重やけれども、監査に指摘されへんだ、監査のときに指摘されるとるやろう、載せてへんなら。変更かけやな。まあ、ええわ。

310ページ、施設事業、自主事業の生涯学習。令和5度と令和6年度のこの差。生涯学習講座についてやっぱりどうですか、これ2割以上減になっていますけれども、この要因は何、原因是。講座が面白くないとか、そういう中身についてちょっと教えてください。あとは全部増えとんやに。

○木下順一委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 また後で結構です、分からんのやつたら。

○木下順一委員長 後でご報告願います。

○尾崎 幹委員 お願いします。

○木下順一委員長 他にございませんか。

(「違うところ」の声あり)

○木下順一委員長 違うところ。

(「関連で」の声あり)

○木下順一委員長 関連で。

南川委員。

○南川則之委員 そこの運動施設管理運営事業のところで、執行した中で、メインアリーナ用カーテン（西側設置）というところがあって、これはなぜ設置したかというところを教えてください。

○木下順一委員長 村田課長補佐。

○村田課長補佐 生涯学習課の村田です。よろしくお願ひします。

こちらのメインアリーナのカーテン、西側いうと市営球場側のほうになります。やはり競技によっては、外からの日光を、多分バドミントンであったりとかほかの種目も遮る必要がありますことから、カーテンがもう古くなって日光が漏れていたことから新しく新設して、そういった外からの日光を遮断するために設置しました。

以上です。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 私、一般質問で、全体的なメインアリーナでそういうスポーツをするに当たって、太陽、日光が当たるということで質問させてもらって、今後どうしてもらうかというところで、検討してもらえるということであったと思うんですけども、これを設置したことによってそういう解消したかどうかというのを教えてください。

○木下順一委員長 村田課長補佐。

○村田課長補佐 正直全てが解消したというわけではないかと考えています。ちょうど鳥羽東中学校側と相撲場

側のほうはまだ曇りガラスということで、日光直接ではありませんけれども、暗幕のカーテンがございませんので、正直言うと種目によっては競技に影響のある状況がまだ残っているということで、まだ課題はあるかなと考えているところです。

以上です。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 そういうことで、ぜひ教育長。ご存じやと思うんですけれども、全てのスポーツがいろんな大会等もあって、そこでやりにくい、バドミントンも含めてバレーとかいろいろあると思うんですけれども、バスケットとか。そういう競技によって、日光が入って大会に支障が出るというようなことも聞いていますので、なるべく早くしっかりと対応をしていただけるとありがたいと思います。これは一時しのぎでそういうカーテンを設置してやっていただいたということも、本当にありがたいことなんですねけれども、ぜひ今後も検討しながらやっていただきたいなと思います。

以上です。

○木下順一委員長 関連ですか。

(「関連でして」の声あり)

○木下順一委員長 倉田委員。

○倉田正義委員 今の310ページに関連して指定管理者制度、これは令和4年から始まったのかなと思いますが、日常的な制度の活用というところで教えていただきたいんですが、利用者の利便性、施設の安全・安心な管理というところで、利用者からの要望の把握とか、危険、修繕箇所等の把握が教育委員会と一緒に情報共有されておると思うんですが、どのような形で取られるとなのかお願いします。

○木下順一委員長 村田課長補佐。

○村田課長補佐 ありがとうございます。

指定管理者と教育委員会のほうで月1回定例のミーティングをやりまして、一月1回は必ず開催をしておりまして、修繕箇所であったりとか、今現在の施設の使用状況であったりとか、例えばプールの時期でしたらどういうふうに熱中症対策していくとか、そういう形で月1回は必ず指定管理者と協議する場を設けています。

また、一番大事なのは、やっぱり施設を利用される方のご意見だと思いますので、そのあたりはイベントがある際には必ずアンケートを実施して、イベントがよかつたかとかそういうアンケートもございますし、日常の施設の利用者の方にもアンケート強化月間みたいな月間も設けまして、意識的にアンケートをいただくような工夫をして、今、手元にちょっとそういった統計データもあるんですけども、利用者からの意見も聞いて、例えば次年度の生涯学習講座に改善して生かすとか、そういう工夫はしております。

以上です。

○木下順一委員長 倉田委員。

○倉田正義委員 ありがとうございます。

月1回は会議を持たれるとということで確認させていただきます。

その中で私の耳にも入ってくるんですが、武道館について雨漏りが直してもらえないとか、体育館は空調が全てそろつとのに武道館だけ、どうにかならんのかなというような声が私の耳には入るんですが、そういう

たことはこの会議等で把握はされておって対応はされていますか。

○木下順一委員長 村田課長補佐

○村田課長補佐 会議の中でも、もちろん体育施設の一つとして今の使用状況を含め、例えば暑い時期ですと、トレーニングルームにちょっとエアコンがないものですからちょっと騒音があるとかですね、やはり雨漏りがあるとか、熱中症対策のためにスポットクーラーを置いたとか、なかなか全ての解決には至らないところではあるんですけども、課題を共有しながらできる限りの対応をするような形で今のところは運用をしています。

以上です。

○木下順一委員長 倉田委員。

○倉田正義委員 まとめます。

この夏見ておっても、東中の子供たち、剣道部の子が武道館では使えないという状況で、防具も体育館に置けないということで、顧問が防具を車に積んで移動して部活させて、また帰ってきて返す、武道館へ置くというような大変な活動をしとったのを見ましたもんで、またよろしく今後の対策をお願いしたいと思います。

以上です。

○木下順一委員長 他にございませんか。

(「ほかに」の声あり)

○木下順一委員長 ほかで。

(「関連する」の声あり)

○木下順一委員長 関連で、関連。

(「違います、関連じゃない」の声あり)

○木下順一委員長 関連じゃない、関連じゃなかったら、そしたら先へ濱口委員。

○濱口正久委員 すみません。戻って308ページなんですけれども、下の地域移行支援事業なんですけれども、議会にも説明があって、令和5年に活動方針を定めていただいている。活動準備推進計画を策定していただいて、中でたしか令和8年度4月に向けてといって協議されていたかと思うんですけども、令和5年度も含めて、令和6年度ですね、関係団体等々でミーティングされたと思いますけれども、どれぐらいの回数でしたのかというのと、それから、協議でまだ地域移行に向けてどれぐらいの協議を検討していくのかんのかというのはありますでしょうか、分かりますか。協議数と話し合われた内容ですね。

○木下順一委員長 村田課長補佐。

○村田課長補佐 この地域展開、昔は地域移行と呼んでましたけれども、去年の12月から地域展開というほうが名前がふさわしいということで、全国的に地域展開というところで鳥羽市のほうも進めています。

おっしゃるとおりとおり、令和4年、5年にかけて、そういうたつスポーツに関係する団体であったりとか学校の先生に入っていただきながら、計画を令和4、5に2年間かけて策定しまして、令和6年度から学校であったりとか、そういう地域展開の受入れ候補となる何とか協会とかスポーツ少年団とか、そういう方々と令和6年度から本格的に協議を始めました。

去年の7月、8月と、結構中学校の部活を対象としていますので中学校の校区をイメージしまして、7月には鳥羽東中と加茂中の校区であったりとか、8月には答志のほうに来まして、答志中学校の校区の皆さんと協

議を行ってきています。地域展開とは一体何なのかというところの説明から始まって、令和6年度はどちらかというと、それを今の地域展開をどういったものかとご理解いただいたりとか、現状把握というところが令和6年度はメインだったかなといったところで考えています。

令和7年度に入ってから、さらにそういった状況を踏まえて本格的に協議を始めています。5月、今年の話になってしまふんですけども、5月1日に改めて答志も含めて鳥羽市全域で、学校の先生であったりとか競技団体の方々にも皆さんにサブアリーナに集まつていただきまして、じゃ、令和8年からどういった競技が具体的にできるのかという協議を今年度実施しました。

地域展開を受け入れる団体さんもなかなか難しいところもありまして、ただでさえ人口減少でスポーツ団体の数も減ったりとかですね。自分たちが競技をするのはできるけれども、なかなかやっぱり指導となると子供たちを教育という視点も出てきますので、地域団体の受入れも、やりたい気持ちはあるところではあるんですけども、受け入れするとなつたらなかなかそこまで多くはなくて、今のところ、まだ確定ではないので大ざっぱな数字を申し上げますけれども、6団体か6、7競技ぐらいが、一旦令和8年度からスタートする地域展開の受入れ団体として手を挙げていただいた競技があるところで、今現在、そういった団体さんと個別で調整したりとか、学校を含めて具体的に、競技によってもやっぱり全然状況であつたりとか受入れする指導者の数も違いますので、一概にこうというのは申し上げにくいところではあるんですけども、今、鳥羽東中学校で部活数が13、答志中で3、それそれ部活があります。令和8年4月からいきなり全ての部活がなくなるというわけではないんですけども、徐々に地域展開が可能な競技は令和8年から、土日を中心ですけれども、やつていく方向で、絶賛まだ協議中というところで、今回ちょっと補正のほうでまたご説明はさせていただきますけれども、今年度後半、後期にかけて実験的に受入れ等、子供たちも実際に地域団体の練習と一緒にしながら、令和8年4月からスタートを切れるように今調整等を重ねているところです。

長くなりましたが、以上です。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 ありがとうございます。

働き方改革のところから国から来て、土日を何とか学校の先生方を休ませないかんというところも含めて来ています。学校側も含めてなかなか周知がうまくいっていないくて、先生方もまだやっぱり自分たちもどうしたらいいのか分からぬという状況があつたかと思うんです。

昨年度に関しては、地域の方に入られて地域移行から、国も名前を変えるぐらい、展開やというぐらい、なかなか全部を移行するするのは難しいという中から展開になったと思うんですけども、丁寧に話はされていました。

ただ、あと、本当に今言つていただきましたけれども、受皿がなかなかね、人口の少ない鳥羽市でどこまで受けられるんかというところの中から、それでも六つ七つ、今お聞きしましたけれども、僕は想定以上に話は若干進んでるかなというふうなところで頑張つていただいているかなと思いますんで。難しいですけれども、これはそういう方向性が決まっていますので、何とかそういうことを含めて、どういうふうな形がいいのかというのを今後またしっかりと協議していただきたいなと思います。ありがとうございます。

○木下順一委員長 関連ございますか。

(「関連」の声あり)

○木下順一委員長 関連。

尾崎委員。

○尾崎 幹委員 この地域クラブというのは、結局中学校やら中学校のクラブの練習という考え方でいいの。そうせな、県大会とか大会には出られないですよね、地域のクラブ行ってけば。二つやっとる子が鳥羽でも多いと思うんです。サッカーでも、志摩まで行ってやって鳥羽でクラブをやってと、ちゃんと公式大会に出られるのは学校のクラブをやっとらな出られないわけですよね。

○木下順一委員長 村田課長補佐。

○村田課長補佐 以前はそうだったかもしれませんけれども。

(何事か発言する者あり)

○木下順一委員長 答弁中です。

○村田課長補佐 地域団体ということで中体連に登録すれば出られるようになっています。実際、いろんな競技でそういう部活の地域展開が始まっている地域、いろいろあります、そういう地域団体でもちゃんと中体連に登録すれば試合には出れるようになっています。

○木下順一委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 そしたら、登録されるとそういう地域団体というのはどれぐらいあるの。今からなのにもう6年で始まつとるんさ。

○木下順一委員長 村田課長補佐。

○村田課長補佐 もう始まっている地域はあるかもしれませんけれども、まだ鳥羽のほうではそんなに多くはないです。これからかと思います。

○木下順一委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 多くはないですって1件でもあるんですか、何があるの、教えて。

○木下順一委員長 村田課長補佐。

○村田課長補佐 私が全てちょっと把握できていないところもあったりとかするかもしれませんけれども、この9月1日号の広報とばに教育委員会だよりというものを発行、4月と9月に教育委員会から出していますけれども、その9月号にも既に載せている情報ではありますけれども、バドミントンが鳥羽JBCという名前で地域団体を立ち上げてちゃんと有資格者がいます。

○尾崎 幹委員 委員長、令和6年の話しどんよ、僕は。6年もそうだったんや、知らん話。

○木下順一委員長 よろしいですね。

○尾崎 幹委員 もう一遍言うて。

○村田課長補佐 令和7年度登録ですね、今年度登録。

○尾崎 幹委員 そうやろ、6年度の話をしとる、6年度決算よ。

○木下順一委員長 尾崎委員、拳手で。勝手にしゃべらないように。

尾崎委員。

○尾崎 幹委員 これ、今話しどんのは6年度決算の話しどんさ、7年度の話でもいかんわけであって、6年度

になかったわけでしょうという話しとるんさ。つくれという話は何遍もしに行つとうわけやで。6年度はなかったわけですよね、公式な。二つ民間のスポーツクラブと学校のサッカーに、サッカーで入ったもんで、サッカークラブでやっとらな公式の大会には出られへんわけですよね、民間クラブの大会は別としてよ。どっちかに入つとしたらどっちか出れへんの、令和6年度に、出られんだでしょう。それが問題になって7年度からそうする形に取つたということですよね。令和6年度にもうできとったん、6年度の話しとるんやでな、今年の話しとるん違うんやで。

○木下順一委員長 中村課長。

○中村生涯学習課長 そうですね。6年度につきましては、まだ部活動と地域クラブが別になっております。

○尾崎 幹委員 はい、もうええ。

○木下順一委員長 よろしいですか。

○尾崎 幹委員 はい。

(「関連で」の声あり)

○木下順一委員長 関連で。

南川委員。

○南川則之委員 関連で、地域展開のことについて私も質問させてもらおうと思っていたんですけども、濱口委員の質問にいろいろ詳細に答えていただきました、

私も令和6年度でどういう調整を進めたかというところをお聞きしたかったんですけども、担当補佐のほうでは、答志とかほかの地域にも話しに行つとるということなんですけれども、離島に関してどういう問題点とか要望とかですね、この時点で何かあればちょっとお聞きしたいなと思います。

○木下順一委員長 中村課長。

○中村生涯学習課長 6年度はまだ各団体との調整というふうになっていますので、7年度、今年度の補正のときの説明はさせていただくんですが、6年度中でも移動費、一番大きいのは移動費になります。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 ありがとうございました。

そうした移動的なこととかが問題になつとるということは、また7年度で議論していただきたいとするということです。

教育長にちょっとお聞きしたいんですけども、この地域展開というのはすごく大きな問題というか、中学校がこうやって部活動も地域に移行していかないかんということで、本当に教育委員会全体で私は捉えて、みんなで協力してこの地域展開をどうしていくかということを考えていかないかんレベルやと思うんです。担当課を含めて担当員も少ない状態であると思いますし、しっかりとみんなでタッグ組んでやってほしいなと思いますけれども、教育長、教育委員会全体でどういうふうに考えておられるかというのをお聞きします。

○木下順一委員長 教育長。

○岩本教育長 委員言われるとおりかと思いますので、まず教育委員会もですけれども、教育委員会とともに先ほどから出ている地域の各団体、種目の団体の方等ともしっかりと協議をしながら、それぞれの競技ごとに課題も違います。それから、今移動費の話も出ましたけれども、離島の子供たちが関わる部分とそうでない部分

もありますので、そういった鳥羽ならではのというか鳥羽のオリジナルな地域展開を目指していくためには、教育委員会も一つになりながら、また地域も、それぞれの協議団体としっかりとお話をさせていただきながらよりよいものをつくりていきたいと、そんなふうに考えております。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 ありがとうございます。

ぜひ教育長言われたように、そういったことで対応していただきたいなと思います。

今課長補佐、声ガラガラで、しっかり本当に頑張ってもらっとんなと思いますし、係も少なくなってきたので、職員もみんなで助けをしながら、ぜひこの地域展開、頑張って令和8年4月を目指すということであったと思いますけれども、頑張っていただきたいなと思います。

以上です。

○木下順一委員長 他にございませんか。

(「なし」の声あり)

○木下順一委員長まとめをしていただいたんで。ご質疑もないようですので、これで本日の審査を終了します。

この後、委員の皆さんは本日の振り返りを行います。執行部の皆さんは退席をお願いいたします。

ここで暫時休憩いたします。

(午後 3時06分 休憩)

(午後 3時15分 再開)

○木下順一委員長 休憩前に引き続き会議を再開します。

その前に、先ほどの委員会の中で、委員の発言に一部不穏当発言があった旨申出がありましたので、訂正していただきたいという旨がありましたので、後日処理させていただくということでよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○木下順一委員長 そのようにさせていただきます。

それでは、本日の審査した範囲の振り返りを行いたいと思います。

委員の皆さんで取り上げたい事業はございませんか。

まず、観光商工課についていかがでしょうか。

五十嵐委員。

○五十嵐ちひろ委員 観光商工課の職員の方たちが熱心に説明してくださっていたデジタルでの申請のことについて評価したいなと思います。実際見てみたら、全ての項目にQRコードがついていて、いちいちオンライン上でできるようになっていて、これ、汎用性があると思いますので、ほかの事業やほかの課にもどんどん普及していったらいいなと思います。

○木下順一委員長 ありがとうございます。

DXのはしりです。先端を行っていますね。

今、五十嵐委員のほうから評価、デジタルQRコードの件でありましたが、皆さんいかがですか。

(「いい評価やと思います」の声あり)

○木下順一委員長 他にございませんか。

坂倉委員。

○坂倉広子委員 218ページのところの観光一般管理経費のところで、私はちょっとと言わなかつたんですけども、濱口委員のほうからご発言があつたんですけれども、フランスのほうで以前はカズさんがいらっしゃつてその後を引き継がれてということで、海外のこういうインバウンドの発信力、そして継続をしていただいている。

(「マイク入ってない」の声あり)

○坂倉広子委員 失礼いたしました。218ページの観光一般管理経費について濱口委員のほうからお話をあつたんですけども、職員さんの中でカズさんがいらっしゃつたということは、それがまた引き継いでやつてもらっているということを聞かせていただいたので、このインバウンドに対しての評価というのを、関係人口といふことも踏まえてなつてくると思いますので、ここは評価したいと思います。

○木下順一委員長 評価、効果があつたんでということですね。成果、効果があつたということですね。

○坂倉広子委員 はい。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 そこのところで、今国際交流員、カズさんがフランスに戻られて、引き続き鳥羽市のために起業して鳥羽のほうへ観光客を送りたいということにつながっているということを考えると、非常に大きな、よく頑張っていただいたなと思います。これに引き続き、そのところを何か活用できる方法もしっかりと今後考えていただきたいなと思います。なかなかそういうことは、向こうに常駐させてというのは難しい中、あえてやっていただくということだったので何か支援策があればいいなと思いますけれども。

○木下順一委員長 フランスに特派員送つとるようなもんですから、そういうことやね。

○濱口正久委員 そうです。そういうことです。鳥羽のことをよく知つていて、鳥羽の行政も鳥羽の方向性も鳥羽の観光のこともちろんと理解した上で、文化も理解した上で現地にいるということはすごく大きな意味があると思いますので。

○木下順一委員長 他にございませんか。

(「1点だけです」の声あり)

山本委員。

○山本欽久委員 全体的なことですけれども、よかつたことに関しては、またしっかりと予算つけて大きくしていくということも非常に大事やと思いますので、そのことだけ1点付け加えさせていただきます。
以上です。

○木下順一委員長 大所高所からの大変重要な発言やと思いますんで、ありがとうございます。

他にございませんか。

尾崎委員。

○尾崎 幹委員 観光コンベンション、いろいろな形でインバウンドをやっていただいとるんですけども、令和7年度の結果が46都道府県の最下位、その中でも伊勢志摩で最下位、これはやっぱり大問題にしてかないかんのじやないかなと。やっぱりやってきたということが間違つとしたら、シフトするとか見直すとか、それ

は議論の対象にならないかんという。新しいことをどんどんしていくことは、やぶさかじやないけれども、やっぱり振り返ることも必要じゃないかと思っています。

いいものに対しては、今山本委員が言われたようにどんどんプラスして大きくしてもらうが、やっぱりこちらの目的やと思っています。ただ、評価が全国的に出とるような流れでは何のために補助金を出しよるかわからんというところへんは、ちょっとやっぱり考えていただければありがたいなと思っています。

以上です。

○木下順一委員長 コンベンションに関係して、他の委員でご意見ござりますか。

尾崎委員。

○尾崎 幹委員 コーディネーターが全部コンベンションに入っていますから、このコンベンションがやられるところにいろいろなことをコーディネートしていますから。そういう形で見ると、やっぱり独自性とは言いませんけれども、結果が結果として出できとる限り、これは一番最下位になった原因、そこら辺は強く危機感を感じていただかないかんと思っています。

以上です。

○木下順一委員長 尾崎委員は今のようなご意見ですが、それに何か。皆さん、同意されるというか同調されるか、いや、私はこうですよというようなのがあれば。

山本委員。

○山本欽久委員 私も、昔からコンベンションに関してはちょっと不透明なところは多いかなというのを思つとったんですけども、課長のほうからも、意見はコンベンションのほうに対して非常に強く言つるというようなことも聞いとつたんですけども、それでもまあ変わらんというところで。

伊勢市、志摩市と南伊勢町も、それぞれに負担金出してやつるところで、誰がどうやって文句言うたらえのかなというのは、気にはなつとったんですけども、何か結果としてそういうしっかりとしたものを見たいたと、どういうふうにすれば僕らも見られるんかなというのは、昔からちょっと気にはなつとったんですけども、ここで何かできるなんかどうか分かんないですけれども。

○木下順一委員長 もう少し成果が見えるような格好に。

○山本欽久委員 そうですね。そんなんから、コンベンションとしても成果できるようなものが見えたならありがたいなと思います。

以上です。

○木下順一委員長 世古安秀委員。

○世古安秀委員 その件ですけれども、やっぱりちょっと成果、鳥羽市からも2人職員も派遣してしとると。昨年度は鳥羽市の市長がコンベンションの代表やつたと思うんですよね。そういうことからしても、何かいろいろな活動はしとるんですよ、事業をやつているような、ぶらりすととか、あちこちスタンプラリーやつたりとかいうふうなこともやつていますけれども、なかなかそれで集客というふうなのが見えにくいような状態ですので、もう一度これをやっぱり見直すというか、事業をもっと集客につながるようなところにつなげていただきたいなということは、これはもうきちんと指摘すべきだというふうに思います。

以上です。

(「ちょっとよろしいですか」の声あり)

○木下順一委員長 議長。

○河村 孝議長 ありがとうございます。

議会が気をつけなきやなんないのは、伊勢志摩コンベンションの立ち位置なんですけれども、いわゆる一部事務組合まではいかないけれども、三セクというところの例えば開発公社とか、そういったところの立ち位置であるわけです。向こうは向こうで、それぞれの地域の観光の専門家、旅館組合から人が出て、商工会議所からも人が出て、向こうは向こうで議会が形成されて決め事をしとるわけです。我々鳥羽市議会がそのコンベンションの事業内容について審査する権限はないわけです。あるのは、観光課がついている負担金についてどういうことであるとか、補助金が行っているんであれば、その補助金はどうやって実施されて、その実施報告書はどうなっているんやということは当然観光課に届くはずなんで、そこを議会が観光課に対して聞いていただいて、観光課が強くコンベンションに、もっと費用対効果の高いものにしてほしいという申入れをするということは可能であるとは思いますけれども、お金を出す限り。議会の権限としてはそこまでないということは皆さん認識をした上で申入れをしないと、議会の越権行為と取られかねないので、その辺のスタンスだけ間違いないようにご議論いただきたいなと思います。

○木下順一委員長 議長にうまくまとめていただきました。私が振ったのは、そういう意味でほかの委員さんにご意見を求めるということあります。

尾崎委員。

○尾崎 幹委員 やっぱりフランスに行くんでも、全部コンベンションが中に入ってる、前回ですよ。その請求しても、中身出せ言うても出せへん、出てけへんわけですやんか。お金は出すけれども、そのお金の使い道まで出てこない、こっちに。それはもうそれで終わったんですよ。

ただ今回は、この負担金950万円毎年出しとて、結果として、国が発表したインバウンド事業の外国人の訪問が一番少ないので三重県であって、その三重県の中でも伊勢志摩というのを発表された、これはやっぱり危惧せないかんでしょう。そこは言うべきやと思うんですよ、議会で、出す側やで。それを市長に言いにいけという提言ですやんか、直接コンベンションに物を言うわけじゃないんですから。鳥羽市の全体として、やっぱり最低、46都道府県の最低になって、伊勢志摩に本当にインバウンドで外人が来ていないわけですやんか。それをやっぱり市長に提言するんですから、僕らは。市長はそれをどうするかは市長の考えですから、そこは全然問題ないんじゃないですか。

○木下順一委員長 その辺も精査させていただきます。

○尾崎 幹委員 コンベンションに物言うんじやないんですから、うちらこのお金に対して僕は言うとうだけです。それで、市長に提言して市長がどう判断するかは市長の問題やと思いますから。

世古副委員長。

○世古雅人委員 この950万円の内訳というのは、ほぼ職員2名の人事費がここにあるもんで、その事業云々は確かにそうやと思います。

(「負担金」の声あり)

○世古雅人委員 負担金は。尾崎委員が言う事業の内容は確かに必要ですけれども、うちがこの950万円が事

業のじやなしに、私は負担金ということで職員の2名のがほぼほぼかなというので、人件費なのであまり中身はというのは。

○木下順一委員長 南川委員。

○南川則之委員 予算の中身というのはそうなんですけれども、私は、鳥羽だけがそういういろんな観光で売つてくるよりも、これは伊勢、志摩、3市が経済圏の活性化を図って共同で取り組んだほうが、ほかにもアピールできるし世界にもアピールできるということで、そういうことで組みどる組織やと思うんですね。ですから、そこでしっかりと活性化してやっていただくということで、今もかなり活性化されとて、伊勢志摩、鳥羽のいろんな知名度も上がつると思いますんで、そこはそこで任せてしまつてやっていただくと、予算は2名分の出資しとるということでいいと思うんですけれどもね。やること自体はしっかりやってもらつていいと思います。

○木下順一委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 ずっとこの金額を出してきとうわけやんか。本当にこのコンベンションの結果がほとんど出でないわけですよね、活性化されるとって、どう活性化されるとか僕は本当に見たことないんですよ。こういう項目ですとつといつとて、一番力入れるためにこれを行つたのがインバウンドなんですよ、それで最初聞いていますから。そのインバウンド自体が結果として日本の地域の中で最低やつたわけですやんか。何のためにやつてきたんかというのをやっぱりそれは危惧していくべきという話を僕らは市長に提言するわけですから、市長がどう判断してどうするかは、やっぱりいかんことはいかんと言うべきやと思うんやけれどもね。どうでしょう、そこら辺。

(「委員長、よろしいですか」の声あり)

○木下順一委員長 議長。

○河村 孝議長 尾崎委員のおっしゃるところは一部よく理解できます。ただ、それはコンベンションだけではなくてインバウンド政策全体の話であつて、当然、コンベンションが担うインバウンド政策、あるいは観光協会、商工会議所が担ってくれているインバウンド政策もあって、目前の観光商工課がやつてあるインバウンドの政策もあるわけですよ。全体を総じてインバウンドもつと頑張るべしと、尾崎委員おっしゃるように結果が出やんのやつたらもつと頑張らなあかんと、もつと予算をつぎ込むべきではないのかということは、これは議会が言えることだと思います。ただ、それをコンベンションだけということではなくて、インバウンド政策自体をもつとしっかりせえという応援の仕方は議会としてはありなのかなというふうに思います。

○木下順一委員長 はい、そのとおりやと思います。説明……

(「はい」の声あり)

○木下順一委員長 ちょっとお待ちください。説明の中でも、鳥羽市の商工会議所のほうへも700万円のインバウンド対策事業として出ていますし、それから観光協会のほうへもシンガポールをターゲットとした観光資源を生かした現地セールスなんかもやつとるということなんで、コンベンションだけというんじやなしに、インバウンドは今後上げていかなければいけないかんという話は尾崎さんの言うとおりやと思います。

尾崎委員。

○尾崎 幹委員 みんな観光協会も商工会議所も出しますよね、コンベンションにはいろいろな形で。それをコ

ーディネートしとるんがコンベンションなんです。旅行業者から、うちがフランスに何回行くのも名古屋の業者ですよね、それは決まつって。そういうコーディネートしとる関係からいくと、やっぱりちゃんと見直してくれというのを市長は言われたのじゃないかという。これも何年なんですか、コンベンション。ずっと出して続けて、本来の形は、これはインバウンドの強化でつくってきたはずなんですね。

そこら辺を加味してもらうと、僕らは今回の提言は市長宛でですよね。市長が考えることであって、そこをどう考えるかは市長の役目じゃないかななど、成果が出ていないという話のほうが僕は強いと思います。それはなぜかと、インバウンドで日本に来とる人は去年より今年、今年より来年のほうが多うなるんですから。その中で鳥羽に来る人が最低ということはどういうことかというのを、やっぱりちゃんと考えていかないかんと思うんですよ。そこを言う人が言わな、そういうのを提言してくれという話ですから。皆さんのがいかん言うんやったらやめたらいいんです。そうすると、何のためにお金出しとんの、税金でという話になりますから。そこまで考えてください。

以上です。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 僕の認識がちょっと分からんのか、皆さん教えていただきたいんですけども、公益法人の伊勢志摩観光コンベンションというのは、これはもともと多分、近隣の市町でとか会議所とか旅館組合とか、公益の団体が公益的に観光政策とか観光振興に取り組むというところじゃなかつたんでしょうか。インバウンドはその中の一部ですよね、やったような気がするんですよ。

なので、尾崎議員が言うように、インバウンドやろうというのは僕大賛成なんすけれども、そこはここの担っている部分と、先ほど議長がずっと言っているようなところが全部に対して、観光政策として観光課に総合的にインバウンドの強化というのは僕は言うべきやと思うんですけども、僕も認識が分からなかつたので、コンベンションイコール、インバウンドに強化していくというわけではないんですよね。

○尾崎 幹委員 観光の全体です。この字のごとくです。

○濱口正久委員 なので、そやで、その提言するんやったら、インバウンドに力入れるべしということです

○木下順一委員長 そういうことです。インバウンドの強化という。

○濱口正久委員 そこは言うべきかなと思います。

○木下順一委員長 世古副委員長。

○世古雅人委員 私発言しなかつたんですけども、当局というか担当課がこの質問の中で、インバウンドはどうやという評価はと言われたときに、継続してやっていくべきやということで、我々議会としても、インバウンドというのはやっぱり鳥羽市の観光にとって重要な部分やと思うので、ここでもっと強力的に強化をしていくべきやという方向性を出せればいいのかなというのは、議長とも話したんですけども、それでまとめさせてもうたらいいですかね。

○河村 孝議長 観光課の名誉のために言うとかないかんのは、コンベンションで確かに尾崎委員言うようにフランスにプロモーションに行く、それは副議長がおっしゃったように、広域でやったほうが効率がいいやんかというところでコンベンションが頭になって動いている事業もありますけれども、国際交流員、カズさんが来てもらったところとか、その辺はやっぱり鳥羽市の独自としてやっているわけですよ。6年度の実績でいえば、

MOFのソニアさんを迎えたときなんかでも、これ鳥羽市単独なんですよ。フランスの国家が認めた最優秀の料理人であるという称号を持った人をMOF、通称モフと言うんですけれども、その人を迎えるのも、観光課がそういうお話を聞きつけて協会とタッグを組んでアテンドをして、鳥羽市を、志摩を売り込んだというのは、特に風太君なんかは柔軟に対応してくれて、非常にソニアさんも、間に入った業者さんも、非常に喜んでくれて帰ってくれたということもしっかりこなしていますんで。尾崎議員昔から、高山の例を挙げてもらいますけれども、高山もあれは1年や2年で出来上がったもんじやないわけですよね。20年、30年続けて、ようやっとああいうものに形になってきているわけなんで、時間がかかると思うんですよね。

だから、ここで尾崎議員おっしゃるように、もう一つ、議会からハッパをかけて、インバウンドもう1回頑張ろうぜというところの応援の仕方はありだと思うんですけれども、今回のところだけを捉まえて一部だけを切り取ってというのは私はいかがなものかなと思うんで、全体的に議会が応援できるように、インバウンドを議会としては応援するということは可能かなと思いますけれども。

○木下順一委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 このコンベンションのやつとること自体が評価できませんよという話であって、観光課がやつとることは評価しとるわけです。だから、次の進行とか、何でした、観光振興と海づくり文化、こういうのに金が少ないんですね、減らしとるわけなんですよ。ここをやめたらここに投資できますやんか。独自でやって独自のほうのが成果出がとるわけなんです。それを本当にこのまま成果の出えへんところにお金をつぎ込むのがいいんか、成果出てきとるので拡大させるのがええか、そこまで言うてませんけれども、そういうことなんです、僕の考えは。やっぱり結果論ですよ。

お金を出して成果がどんどん出てきて、来年の国の評価が46都道府県のうち、46から45に上がったというんならコンベンションの成果も認めますよ。こんなんありえへんですよ、サミットやった場所で思っています。何も議長に言うとるようなことではありません。観光課のやつとることは評価しています。そこには、最後にも言うたけれども、つけたるもんはつけやな、伸びとるもんは伸ばさな。そういうお金は減らして、この結果の出えへんようなコンベンション機構にお金を出すというんは、危惧してくれという話を市長にしてくれという話。

(「尾崎委員の考え方です」の声あり)

○尾崎 幹委員 捉え方も変わってしもうたらやっぱりあきませんよってね、僕の考えはそう。賛同できへんならそれでいいんです。ただそれだけです。生きたお金の使い方するのが税金の一番課題ですからね。

以上です。

○木下順一委員長 分かりました。

その他、ほかございませんか、観光商工。

(「ごめんなさい、いいですか」の声あり)

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 225ページの下のところの駐車場、観光駐車場対策事業。これはちょっと地味な事業ですが、今後も含めてお客様を呼ぼうと思うと、こここのところをちゃんと真剣に抜本的に考えていかないと詰まっていくと思うんですよ。

今、ミジュマル公園もできていますけれども、この夏だけでも、離島の生活の人が船に乗り遅れたという事態とかも出ているような感じで、駅前開発すればするほどどんどんそういう事態が起こってきているので、駐車場問題というのは、根本的にまちの開発とか観光誘客とセットで考えていかないといけない。今シャトルもやっていますけれども、スタッフの在り方とかも観光課とか役所でやるべき仕事ではないと思うので、これから時代。ちょっとそこら辺のところの在り方というのを考えて、地味な話ですけれども、すごく大事やと思います。

○木下順一委員長 言うように、生活道路の確保にも大事やもんね。

(「私も関連して」の声あり)

○木下順一委員長 坂倉委員。

○坂倉広子委員 副市長がいらっしゃる立場で、スタッフ不足が要因というのは認識を、今回の委員会の話の中では受け止めていただいたいんかなと思います。

私たち住民は、実はこのお盆でも帰省したいんだけれども、やめといてと言って止めてもらいました。というのは、すごい車が渋滞していたのと、おいしいものを食べに行きたいといつても食べに行けなかつたんで、すごいたくさん的人が並んでいらっしゃって。実は岐阜のほうから来た家族の人たちが、あるところへ食べに来たんだけれども、すごい車が混んでいて鳥羽ってこんなに混んでいるのと言われたんですけども、今回はミジュマル公園のところには駐車場の方をつけていただきましたよ。何というんですか、その方がいらっしゃったので大分解消はね。回転すし、かつぱ寿司さんのところへ行くのも左へ曲がらないでください、戸田家さんから来たときに左に曲がらないでくださいと言つて、誘導をちゃんとしていただいてたもんであれだけ済んだのかなとは思うんですけども、非常に一般の方もすごい心配もしていただいていたもんですから、私もこのところは本当に、何というんですか、考えてもらわないかんところではないかなと思います。

○木下順一委員長 本当やね、今年は特によあそこで混雑したもんね、渋滞。

ほかございませんか。

尾崎委員。

○尾崎 幹委員 234ページの漁業と観光の連携事業。これはもう本当に漁師も半分ぐらいになつてしまふんやけれども、サワラという部分に関しても、本当にブランドするのに3年かかったんですよ。みんながサワラは足が早いから、そんな売り出せへん言うて、漁協からも反対されとつたんですけども、なればこういう形になりますということは、漁業と観光の連携をもっと強化すればこういうブランド品をどんどんつくつていけるんじゃないかと、そう思つています。ただ、やる気があるかないかだけかなと。ほかにもいろいろな商品があります。ほんと、やっぱりこれブランドにするまでは3年、認定されるまで5年、そこまでやっていかないかんという流れが鳥羽のやっぱり一番の問題かなと思っています。もっとスムーズにデジタル使ってできるもんならどんどん早くすればええけれども、ここで今までやつてきたことの半分になったというのは、やっぱりこの漁業と観光の連携というのは、そう、何というんですか、重視していない。これはやっぱりちょっとおかしいように思うもんで、これは今までどおりつけてもうちょっと、何というんですか、地に足のついた取組をするべきやと思っています。

以上です。

○世古雅人委員 すみません。232飛んでしもうたもんであれですけれども、皆さんの意見を聞いている中で、228からずっとあるんですけれども、鳥羽うみ文化推進事業、これはかなりいい事業をたくさんやっているという評価が出ていたので、この辺のところの充実とか、そういったところの意見もよろしいんかなと思うんですけども。

(「僕は、予算ちゃんとつけて拡大していかなあかんって言わしてもらいましたよって」の声あり)

○木下順一委員長 手を挙げて言うてください。これもみんなマイク入っていますんで、文字起こしするのに難しいと言われますんで。

瀬崎委員。

○瀬崎伸一委員 僕が触れたところは、233ページの大学のゼミ合宿ですので、令和7年度は同じ額の予算額しかついていなくて、それで結果は足りているのかなとも思うんですけれども、もう少しこうあめ感というか、お得感というのを別に増やすことというのは可能だとは思いますもので、ぜひ令和8年度の予算にはちょっと拡大していくけるような方向で、ぜひもう一度研究し直して、ここに力を入れていっていただきたいなという思いは非常にあります。

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 33ページの下の大学のゼミのとこやと思うんですけれども、これは去年も提言の中に入れさせていただいたと思うんです。これは非常に議会の中でも評価が高かったと思うんですけれども、これ2種類があって、大学の地域課題研究の補助金と大学ゼミの補助金があって、多分大学ゼミの合宿の方が残ってしまったりとかいろいろあったりとかするので、非常に使いにくいというのと、言うように、毎年言っていますけれども、ここは本当にどんどんこれができた当時から、今まで事例までアップしてくださいとなったら事例まで上がりました。その中からこういうふうに、いろんなほかの事業展開で予算化されますとかというところまでつながってですね。提案していただいた逆の方向ですね、ほかの地域、ほかの課とも連携しながら、ほかの課でこういうところに課題があるんやけれども、それに対して研究してもらえるところに補助金が出るとか、そういうことも含めてもっといろいろ可能性として広げていただきたいなと思います。

もうちょっと使いやすいものがあればなというふうな、額も含めてね。何回でも来ても何回でも使ってもらえると思うんですけれども、1回来たら1団体1回なので違うところがあると思うんですけれども、本当にこのところというのは、今もう既に次のステップの観光、関係人口であったりリピーターのところにつながり始めていることもあって。昔修学旅行に来たところに再度訪れるという話もありましたけれども、その大人バージョンだと思うんですよ、学生バージョンで。来たところに、関係したところに何回か訪れるというのはあって、すごくいいことやと思いますので。ここは毎年言っていますけれども、本当に可能性がどんどん広がっていくすごくいいところやと思うので、もっと宣伝してもいいのかなと思いますけれども。

○木下順一委員長 私も聞いてとって、ええ提案していただいたなと思っています。あれ、五十嵐さんが言われたんか瀬崎さんが言われたりとかね、ええ提案やなと思ってチェックは入れてあります。

(「関連で」の声あり)

五十嵐委員。

○五十嵐ちひろ委員 私も、瀬崎委員と濱口委員が言っているのを聞いていて本当そうやなと思っていたんすけれども、瀬崎さんが言っていたののちょっとさらに踏み込んだ形でなんすけれども、各課に課題を聞きに行ってそれをあらかじめ提示していくというのはすごくいいなと思ったんすけれども、それプラスして、採択されたこの研究したいんやという人がいたときに、その研究に関係ありそうな部署に紹介してあげるというのも必要かなと思っていて、実際、今年度これで補助金をもらっている人と私連絡取り合ったりとかもしているんですけども、こういう人とこういう人とこういう人いますよみたいなことを私紹介して、あ、そうなんですねみたいな感じで、でもこれ、市のほうの事業なんだつたら市の人気がつないでくれたらいいのになと思いながらやっていた部分もあったりしたので、やっぱりほかの課との連携が密にできるとより効果が発揮できるかなと思います。

○木下順一委員長 ありがとうございます。

今の意見は。

(「いいと思います」の声あり)

○木下順一委員長 観光課のほうでも、今これを聞いておると思うんで。

○濱口正久委員 今の意見はすごくいい意見だと思います。行政と行政のところをつなぐのも一つやと思うんですけども、この事業の可能性の広がるところは、地元の人とかをつなげてあげるとすごくもっと広がると思うので、そういうところも含めて、僕今の意見は大賛成です。

○木下順一委員長 ほかのところもございませんか。

濱口委員。

○濱口正久委員 これは先ほども含めて多様な旅行者の受入のほうの推進事業やと思うんです。これ、大きな事業ですけれども、すごく大事なところで、今後いろんな意味で受入れ側のスキルアップとかと、いろんなことをしていくかんないかんというのがすごく大事なんじゃないかと思うんです。

この中のJ A Lのビジネスキャリアサポート型、サポートの研修がありましたけれども、この事業は、すごく今まで次につながっていい事業やと思いますんで、こういうところ、今やっている人たちを何とかここでとどめておく、新しいところをどんどん探してくるというだけじゃなくて、離職率を下げるということは、鳥羽で働きやすい環境をつくるということはすごく大事なので、こういう環境に全体で取り組んでいる、しかもプラットフォームをつくっていただいているというような、市全体として、競争じゃなくて共に一緒にになってようになっていくという考え方の中の観光の施策はすごく大いに評価したいなと思いますし、こういうことは続けてほしいなと思います。

○木下順一委員長 よく分かりました。

ほか、観光よろしいですか。

(「すみません、もう一ついいのが」の声あり)

○木下順一委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 232の鳥羽クルーズ船。ちょっとここは心配なところがありまして、四日市港客船誘致協議会というのが入っとるんが、もうあと5年先には10万トンまで入る客船バースが四日市にできます。四日市は、その中でもしっかりとした高山線、奈良線、全部観光ルートを今つくっています。これをやられると、鳥

羽が今来とる、時間が入ってから出でていくまでの時間が12時間となっています。それがほとんどの基本になっていますので、それをやられると、ここはもう一気に鳥羽は飛ばされるんじゃないかなと思っています。ほいで、いろいろな形でこの四日市港客船誘致協議会、鳥羽のよさをそれまでにしっかりと上げてほしいと。だから、多様な旅行商品にしろ何にしろ、もうちょっとレベルアップしてくべきじゃないかなと思っています。

以上です。入れる、入れへんは関係なしに。

(「他でもいいですか」の声あり)

○木下順一委員長 はい、どうぞ。

○濱口正久委員 244ページの上段なんですけれども、起業育成支援事業、243から続いているのか。ここ、力入れてほしいです。鳥羽へ来たらきちんと起業できて、その後もきちんと後もフォローしていただけるような環境をやっぱりぜひともつくっていただきたいなど。今ようやく、創業した方々同士をつなぐというところもありましたけれども、全然外からも含めて地元も含めて、起業しやすいというような雰囲気をしっかりとつくっていただくべきというのと、私たち昨年泉佐野行きましたけれども、本来大きな起業とか誘致にまたなりますけれども、そういうところのふるさと納税、企業版ふるさと納税も考えながら、もうちょっと大きなところで起業に関しても考えていただいてもいいのかなと思います。今回の決算ですので、起業支援のところ、残念ながら二組決まらなかったというのはありますけれども、これが広がるようにしっかりと取り組んでいただきたいなと思います。

○木下順一委員長 観光商工課長の話聞いておると、自ら自らの課でも削除したところもあったりとかというような話もされとった、どこかというのはちょっと見えていないところまで、そういうことも大事やと思うし、何個もやれやれでは、キャバも決まつとる中で職員数も少ない中で、どこを伸ばしていくかというような重点的なことも大事かと思うんで、そのように。

○木下順一委員長 観光のところよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○木下順一委員長 消防本部についていかがでしょうか。

(「委員長、1点だけちょっといいですか」の声あり)

○木下順一委員長 山本委員。

○山本欽久委員 ちょっと時間があれやったもんで言わなかつたんですけども、昨年も言うたもんで、269の水利の整備なんですけれども、やっぱり特に離島地域の初期消火では、人数、人がおらんとポンプもよう持たんというところで、人数が少ないうちに消火栓そのまま筒先上げてというのは、筒先じゃないわ、立ち上げでそのままホースにつなげられるという、初期消火にとっては一番大事なところがありますんで。島のほうでももう使えやん消火栓も大分出てきてですね、新設も計画しながらやっていただくとありがたいなと思うんですけども、なかなか一遍に無理やと思いますけれども、お願ひします。

○木下順一委員長 分かりました。この辺はしっかりと言うていかないかんところやと思います。

○山本欽久委員 お願ひします。

○木下順一委員長 消防はよろしいですか。

(「はい」の声あり)

○木下順一委員長 しっかりとやりなさいと。

教育委員会の総務課のほう。

南川委員。

○南川則之委員 へき複のほうの話をさせてもらって、小規模校でも小規模修繕というところがなかなか予算が取れていないということで、令和6年度も大きな工事請負費というのは上げて、結構、改修、修繕をやっていくんですけども、本当に小さな修繕というのがまだまだずっとたまつてきとて、毎年毎年、多分、議員さんらも行かれても同じこと聞いとるような状態ですので、どこかである程度の予算を持って改修したらないかんと思いますので、もう少し小規模修繕のところを検討して予算を取りをするような形で、何とか小中学校の改善につなげてほしいなというところをぜひお願ひしたいと思います。

○木下順一委員長 これに関しては、以前は我々もへき複入ったんですけども、何校あったか、仮に5校やったとしたら5校に20万円ずつやなしに、集中してやっていくうというような議論もあつたりもしたんですけども、何か満遍なくみたいにやってしまうと、やっぱりなかなか直せるもんが直せない、小規模ではというようなところもあつたりするんで。

(「ちょっと一緒に」の声あり)

○木下順一委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 卒業式とか入学式、小学校行くんですけども、鳥羽小学校いうのはすごい新しいと思うとつたら、もう戻ってきて3年通っています。同じ場所が雨漏りしとるんですね。校長に言わんか言うても、「言うてます」と言うんで終わっていくんです。そこをやっぱり今南川さんが言われたようにしっかりと見ていただくような、教育委員会が建設課に言うんとどこに言う、前に進まんのやつたら、やっぱり独自で物事ができるようにすれば早いんですけども、南川さんの言うのはぜひとも上げといてください。

以上です。

○木下順一委員長 総務課のほうよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○木下順一委員長 それでは、続いて、学校教育課のほうで取り上げたい事業等ございますか。

尾崎委員。

○尾崎 幹委員 外国語育成推進なんやけれども、本当に早いところは英語と金融教育が義務化になっています。やっぱり遅れています、かなり。5教科というんがなくなっています。次々新たな時代に応じた教育が都会なんかではもう始まっていますので。学校教育課長は知っていましたよね、金融教育。これはもう義務化になってくると思います。早いか遅いか。

この英語教育も、今の市長と一緒に東京の青山小学校に行ったら1年生が、今から20年前ですよ、iPadを持って英語教育しとったんです。それに感銘して、教育長は一生懸命教育長になってからこれを進めた。青山小学校に行きましたら10年前からやっとると言うんですよ、うちは30年遅れるという話なんです。

最終的には、金融教育も30年遅れた中で物事が進んでいたら、やっぱりうちらの義務教育の中で教わることの格差がもう出てきますから、こういうのはやっぱり先進事例を早く取り入れて、社会に出たときに平等に都会の子と田舎の子が、何というんですか、対等にできるようなやっぱり教育体制をつくるべきやと僕

は思っていますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○木下順一委員長 私勉強不足で、金融教育にさつき。

(「進んでます」の声あり)

○木下順一委員長 濱口委員。

○濱口正久委員 同じところなんですかけれども、決算ですので今回、中3の3級が50%、国の基準に目標達したということは、ある一方で評価すべきかなと僕は思います。

ただ、もう一方で、コミュニケーション能力の向上のところで、もうちょっとそれを生かすようなところを、教育長も言われてましたけれども、もっと時間を増やしてあげてほしいなと、ほかの学校へ行くと1日中やっていたりとか、ずっとしゃべっていたりとかというところがあるって。目的は取らすんじゃないっていうのは、今の市長はそこは目的じゃないということは以前おっしゃっていたと思うんですね。そのコミュニケーション能力の向上のところにしっかりとつながるように、評価しつつ踏み込んでほしいなと思います。

○木下順一委員長 倉田委員。

○倉田正義委員 関連して。

いわゆる英検、技能とコミュニケーション、いわゆる表現の関心、関心意欲という部分ですね。どっちが先かというのはなかなか難しい判断なんだけれども、技術をつけることで関心が上がるのかとか、関心を持つからこそ技術を身につけたいと思うのか。卵が先か鳥が先かというところなんですかけれども、子供によってこれは大分違うと思うんです。瀬崎委員も言っていたんですけども、英検があることで、もうやっぱり学力的に厳しい子供たちは英語に対する意欲も下がっていくのは、私実際に見てきています。もっと遊び感覚で外国語教育、コミュニケーションに入っていけば、この子は伸びた可能性があるなとか、そういった子供ももう私はやっぱり潰してしまったんじゃないかなというところも感じとるんです。やっぱりコミュニケーション、一般質問でも言うたんですけども、体験的な活動の中で英語教育を活用させる、そういう部分をもっと。鳥羽は弱いと思うんで、そこら辺はやっぱり英検よりも力入れてほしいなというふうに思っています。

○木下順一委員長 ほかにございませんか。

瀬崎委員。

○瀬崎伸一委員 私、質問では触れておりませんが、実は請願のときに先生に投げかけてしまっているところなんですけれども、ICT教育推進事業という小学校と中学校両方に関わってくる、このパッドを持っていることがかかるてくる、いわゆるランニングコストというか維持費というようなところが、令和6年度決算を見ても微増ですけれども若干やっぱり上がってきているのと、子供は減つとるのに上がってきてているというところで、ちょっとやっぱり負担感というのは、もうこれから先だんだん大きくなってくるのかなというところを去年も触れたのかなとも思ったんです。

それで、たしかいつぞやの提言書の中には入れていただいたこともあったかなと思うんですけども、やはりここは、ずっと言い続けて、市が負担していることの負担感をなんとか解消できる、私の思いとしては、国が持つべき違うと思っているんですけども、そういうことにつなげられるためにも、やはり言い続けていく必要性があるところかなという気がしまして、採用の方法は委員長にお任せしますが、そのような感じで思っております。

○木下順一委員長 これ、何年か前に提言に入れてなかったかな。提言に入れとったね。

(「ＩＣＴ事業で一番スタート、鳥羽でしょう、鳥羽東と神島が。鳥羽が一番最初ですよ、ＩＣＴ入れてやったのは。一、二年やってから3年ぐらいでスタートしましょう」の声あり)

○木下順一委員長 尾崎さん、発言があるときは。

(「そだから、これはあれやで。載せる、載せへんの話じゃない」の声あり)

○木下順一委員長 学校教育よろしいですか。

(「はい」の声あり)

○木下順一委員長 それでは、最後、生涯学習課で取り上げたい事業というか、取り上げたい事業です。

五十嵐委員。

○五十嵐ちひろ委員 濱口委員が言っていた、303ページの祭礼行事の撮影を行って市ユーチュブチャンネルで3件公開を行いましたと、これは見た感じずっと続けていらっしゃる事業なのかなと思うんですけれども、ほかの課がこういう、何だろう、動画作る系を委託しているのに対して、予算伴わない事業のところに書いてあったということは、多分もう自分たちで撮りに行って自分たちで編集して、見たら字幕もついているんですよ、やっていらっしゃるんだなと思って、すごく労力かけてやってもらっていると思うんですけれども、やっぱり年々、コロナもあたし、人口減少、高齢化が進んでく中で、様々な行事とか伝統的な文化というのが、これから先、先細りが見えているというか、もう既に見られなくなった行事もたくさんある。これからなくなってくるであろうというのも目に見えている中で、すごい努力だと思うんですよ、文化をしっかりと残していく。閲覧数見たら170幾つとかそんなもんですけれども、それは大事じゃなくって、いつか誰かが必要になったときに見られるということが、本当に鳥羽だけじゃなくて日本全体の文化の保存として非常に価値があることだと思います。

今は自分たちで撮りに行ってというのをやっていらっしゃるんですけれども、ゆくゆくは、もう既に持っている、データを持っている人から集めて保存していくとかというのもして、しっかりととした価値のあるデータベースをどんどん構築していくほしいなという気持ちになりました、話を聞いていて。

○木下順一委員長 分かりました。

南川委員。

○南川則之委員 そこの関連というか、この文化財保存推進事業という項目からすると、今五十嵐委員が言った祭礼行事のそういうところも必要やし、市内の指定文化財、登録文化財等の保全あるいは活用というのは、本当に今後も進めてく必要があると思うんですね。個々に細々と修繕したりとか、あるいは旧鳥羽小学校のことでもそうなんすけれども、活用がなされていないというところでもんでも、しっかりと保全活用を推進してほしいというのは議会からも言うてくべきやないかなと思いますが、その辺もよろしくお願いします。

○木下順一委員長 言われるとおりやと思います。しっかりと力を入れていきましょう。

濱口委員。

○濱口正久委員 文化財の保存推進事業って、非常に大きなものの意味があつて価値があると思うんです。もともと鳥羽市に住んでいる、今まで住まわれた方とか、歴史を経て来られた方も含めて、映像も含めてなくなつ

ていくおそれがあるものを残すというのも一つ、もちろん僕は大事だと思っています。

あるハード面のところもきちんとやっていかないと、今鳥羽市の宝なんですけれども、観光地の鳥羽としてはこれはもう世界中の宝の意味で、それを見に来て訪れる方というのは増えてくると思うんです。映像にしてもそうだと思うんです。そういうことを見て興味を示されて来られる方とかもあると思いますし、そういうところに、もうちょっといろんなところと連携しながら、どうしても教育委員会がやると文化保存のところにぎゅっと、自分たちがやろうとして細かくなってしまうんですけども、もうちょっと幅を広げて柔軟的に地域とも連携しながらやっていってほしいなと思いますね。増えているんですよね、これ、どんどんこういうところへ訪れる方というのが、肌感覚ですごくよく分かるので。ただ、それに追いついていないような状況だと思いますので、こういうところも含めて力を入れてていく必要があるんじゃないかなと僕は思います。

○木下順一委員長 文化財ね。

○濱口正久委員 はい。

(「同じ場所で」の声あり)

○木下順一委員長 尾崎委員。

○尾崎 幹委員 今五十嵐さんが言うたようにデータベースに残すとか。皆さん知つとうと思いますけれども、宝物は法務局の跡地に全部放り込んであるのさ。あれを一遍出していただいて、ほいで、しっかりと精査してもらう要望は何遍も出しとんやけれども、してもうていないんです。本当に稻垣城の跡の石の位置まで書いてあるような図面とかが山ほどあるのに、このままあそこにはっておくとごみ箱になります。誰やった、松尾の。

○木下順一委員長 野村さん。

○尾崎 幹委員 野村さんがおらへんようになってから、もうでたらめになっていますので。しっかりと、今五十嵐さんが言うたことは、教育委員会に対して、保存目的じゃなしに、保存プラス、今濱口委員が言われたようなやっぱりいろいろな観光文化、それにつなぐような仕組みをつくっていく。このまま宝で、あの湿気の多いコンクリートの中へ置いとったら、いつの間にか腐つとの可能性もありますので、一遍出していただいてしっかりと精査していただくようにお願いしときます。

○木下順一委員長 分かりました。

その一部かわからんけれども、今かどやさんでも展示か何か、これはまた別のやつかいな。

○尾崎 幹委員 いや、かどやさんはかどやさんの、あれは個人のものやったもんかどやさんに入っとるんです。本当の宝は全部法務局の、前の鳥羽法務局知っていますやんか、赤崎のあそこに全部入っています。

○木下順一委員長 私語は慎しんで。

生涯学習課についていかがですか。

南川委員。

○南川則之委員 310ページの最後の運動施設管理運営事業というところで、いろいろな運動施設があるんですけども、もうちょっと運動施設の設備充実というところも、運動する人らもいろいろ困つとの状態ということで、細々と修繕等も含めて対応してくれるとんですけれども、すみ分けが管理運営は教育委員会がやって、この運動施設がある場所全体は建設が管理しとるというところもあって、なかなか大規模改修のすみ分けが予算上ができていないということですもん。やはり市民が使いやすい、そういう運動する人が使いやすいよう

なしっかりと対応をしてやるべきやと私も思いますので、ぜひこの運動施設の設備拡充を図っていただくないうな議会からの要望もして拡充してほしいなと思います。

○木下順一委員長 分かりました。

(「関連して」の声あり)

○木下順一委員長 関連して。

世古副委員長。

○世古雅人委員 私も質問しなかったんですけども、一番はやっぱり今、熱中症対策、そこにちょっと力を入れてもらいたいな、そういう施設整備も含めて、利用するのに当たっても時間差の、9時やつたら9時ですけれども、ちょっと早めにもしできるのであればとか、いろんな熱中症対策をしてもらう。これは命に関わってくるので。それと、教育委員会からの方針もやっぱりそういったところでしっかりと取り組んでいただきたいなと思います。南川さんが言われたように私も同感で、施設のそういう熱中症対策で特にやらないかんがたくさんあると思います。皆さんの意見もありましたけれどもね、冷房施設。

以上です。

○木下順一委員長 他にございませんか。

(「なし」の声あり)

○木下順一委員長 最後、議長、何か言いそびれたとかあれば発言お願いします。

(「ちょっと1点だけよろしいですか」の声あり)

○尾崎 幹委員 説明できへんことが多過ぎましたよ、今回。やっぱり自分らがやってきたことやのに説明できひんようなことが起こるということは、ここへ載せんなという話なんですよ。ここに載つとう内容で説明しとるわけですから、それを説明しいひんの、できひんのが、もう今日でも二つありましたから。そこはやっぱりちょっと間違いかなど、もっと強化して望んでほしいと。

以上です。

○木下順一委員長 議長。

○河村 孝議長 発言の機会ありがとうございます。

今日で3日目終わりまして一般会計の審査が終わったと、決算の審査が終わったという形になります。明日4日目は企業会計と特計という形になります。

そこで、3日間を通して私の感じた決算の思いなんですけれども、基本的に皆さん一生懸命熱心にご議論いただいて質問もたくさん出たと。ちょっと熱心過ぎて一部前半のほうなんかは、何というんですか、決算というよりも指摘要事項が先に集中してしまったような場面が一部見受けられたのかなというふうに思います。議会もしっかりと執行部に対して厳しい意見をするということは、私も含めて議会はしっかりと襟を正さなければならぬというふうに私は思っています。

そういう中で、やっぱり決算の基本中の基本というのは、自分たちが当初予算、補正予算を認めて、その認めた予算がしっかりと執行されているのか、執行されていないんならばその理由は何なのか、そして執行された予算についてどういう成果があったのかというのは、これはもう決算の基本中の基本だと思います。その基本をすっ飛ばして、先に指摘であったり要望を言ってしまうと、議会のやっぱりスタンスとしてあまりよろ

しくないのでないのかなというふうに私は感じています。しっかりとそこを止めた上で指摘することは、いや、改善すること、当然議会として来年度予算の編成に向けて意見書を出すわけなんすけれども、そういったところだけではなくて、しっかりと決算をしたというところの基本スタンスは議会としては忘れてはならないのかなというふうに感じています。

次の補正予算もまだ控えていますけれども、議会基本条例の第4章第7条には、市長による政策の形成過程の説明というところの7項目、重要な政策の発生源というところから、7項目めは将来にわたる費用対効果、これはもう一度皆さんに見直しといてほしいんですけども、そういったところを中心に、補正予算、当初予算が上がったときの審査をそういう見方で見て、その効果がどうであったかということを決算で確認するもんだと私は思っています。

だから、その目線を飛ばして一部だけ要望を出していくという形としては、あまり私は議会としてはよろしくないと思うんで、皆さん、あした4日目の決算の審査、しっかりと望んでいただいてそういう視点を持っていただけます。また、次の補正予算、9月の補正予算、残りの補正予算がありますけれども、そういった目線で審査していただけますということが大事ではないのかなと思います。

新人議員さんは、基本的にこの6年度の当初予算、補正予算についての審査には入っていません。それでもこれだけ積極的に勉強していただけて、手を挙げて質問していただいているわけです。やっぱり我々、私も含めて我々ベテラン議員は、この新人議員さんのお手本になるような、そういった姿を見せていかないかんのかなというふうに思っていますんで、皆さんのご協力を今後ともよろしくお願ひしたいなと思います。

以上です。

○木下順一委員長 ありがとうございます。

全て正論でありますんで、皆さんよろしくお願ひいたします。正しい。

以上で本日の振り返りを終わり、本日の委員会を終了いたします。

明日9月12日も午前9時から予算決算常任委員会を再開し、特別会計及び企業会計の決算審査を行いますので、定刻までにご参集願います。

本日はこれをもちまして散会いたします。

お疲れさまでした。

(午後 4時20分 散会)

委員長はこの会議録をつくりここに署名する。

令和7年9月11日

予算決算常任委員長 木下順一